

上中居岡西遺跡3

—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2014

高崎市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所
株式会社ホンダカーズ高崎

例　　言

1. 本書は、店舗建設に伴う上中居岡西遺跡3の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市上中居町字岡西1544-4ほかに所在している。
3. 本調査及び整理作業は、高崎市教育委員会管理のもと委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査の体制は、以下の通りである。

高崎市教育委員会 田口一郎、田辺芳昭

有限会社毛野考古学研究所 日沖剛史、設楽和也

5. 発掘調査・整理作業は平成25年11月6日～平成26年6月30日の期間で実施した。
6. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で579である。
7. 本書の執筆については、Iを田口、IIを宮田忠洋（有限会社毛野考古学研究所）、それ以外を日沖が行った。
8. 実測・観察は土器を宮田、石器を土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
9. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである。（五十音順・敬称略）

【発掘調査】

石倉稔夫 井口ヒロ子 井上正三 岡村美弥子 川島隆好 竹生正明 勅使川原幸枝 萩原秀子
橋元裕児 森山恵子 矢島忠三

【整理作業】

大塚規子 國分文 武士久美子 高橋奈緒 永井祐二 半澤利江 深谷道子 真下弘美

11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

小川卓也 影森 翔 坂口一 鈴木徳雄 墨谷正勝 大工原豊 福田貴之 森山孝男 山口逸弘
J・T空撮 有限会社スミヤ測量 山下工業株式会社

凡　　例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いた。
2. 遺構・遺物図の縮尺は以下の通りである。挿図中にはスケールを付して表示している。また、遺物写真は遺物実測図と同様の縮尺である。

遺構 全体図 1/400

配石：1/60、埋甕：1/60、土坑：1/60、溝跡：1/60、ピット：1/60

遺物 土器・石器・土製品：1/1、1/3、1/4

3. 遺構覆土および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。
4. 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版ともに共通である。
5. 遺物観察表に示した計測値の（ ）は復元推定値、〔 〕は残存値を表す。
6. 遺物挿図において、須恵器の断面を黒塗りで表現した。
7. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第2図は国土交通省国土地理院発行1/25,000「高崎」を使用した。

目 次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	6
1. 調査の方法	6
2. 調査の経過	7
IV 標準堆積土層	8
V 検出された遺構と遺物	9
1. 遺跡の概要	9
2. 配石	12
3. 埋甕	13
4. 土坑	13
5. 溝	15
6. ピット	18
7. 地震痕	18
8. 包含層	18
VIまとめ	47
抄録	
写真図版	
奥付	

挿図目次

第1図 調査区域図	1	第10図 土坑（1）	23	第19図 出土遺物（3）	32
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	5	第11図 土坑（2）	24	第20図 出土遺物（4）	33
第3図 標準堆積土層	8	第12図 溝（1）	25	第21図 出土遺物（5）	34
第4図 遺構全体図	10	第13図 溝（2）	26	第22図 出土遺物（6）	35
第5図 縄文土器重量別分布図	19	第14図 溝（3）	27	第23図 出土遺物（7）	36
第6図 1号配石	22	第15図 ピット	28	第24図 出土遺物（8）	37
第7図 2・3号配石	22	第16図 地震痕	29	第25図 出土遺物（9）	38
第8図 4号配石	23	第17図 出土遺物（1）	30	第26図 出土遺物（10）	39
第9図 1号埋甕	23	第18図 出土遺物（2）	31	第27図 出土遺物（11）	40

挿表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表（1）	4	第12表 3号土坑出土遺物観察表	41
第2表 周辺の遺跡一覧表（2）	5	第13表 5号土坑出土遺物観察表	41
第3表 周辺の遺跡一覧表（3）	6	第14表 8号溝出土遺物観察表	41
第4表 ピット計測表	18	第15表 包含層出土遺物観察表（1）	41
第5表 グリッド別土器重量計測表	19	第16表 包含層出土遺物観察表（2）	42
第6表 遺構外出土土器組成表（点数）	21	第17表 包含層出土遺物観察表（3）	43
第7表 1号配石出土遺物観察表	40	第18表 包含層出土遺物観察表（4）	44
第8表 2号配石出土遺物観察表（1）	40	第19表 包含層出土遺物観察表（5）	45
第9表 2号配石出土遺物観察表（2）	41	第20表 包含層出土遺物観察表（6）	46
第10表 3号配石出土遺物観察表	41	第21表 遺構外出土遺物観察表	47
第11表 1号埋甕出土遺物観察表	41		

写真図版目次

P L. 1	遺跡遠景（榛名山を望む）	S D - 7 全景	P L. 6	1号配石出土遺物
	遺跡全景	S D - 8 土層断面		2号配石出土遺物
P L. 2	1号配石全景	P L. 4 S D - 9 全景		3号配石出土遺物
	1号配石近景	S D - 11 全景		1号埋甕出土遺物
	2・3号配石全景	P - 2・3 検出状況	P L. 7	3号土坑出土遺物
	2・3号配石検出状況	P - 2 全景		5号土坑出土遺物
	4号配石全景	P - 3 全景		8号溝出土遺物
	1号埋甕全景	P - 4～13 検出状況		包含層出土遺物
	S K - 1・P - 1 土層断面	地震痕（噴砂）確認状況	P L. 8	包含層出土遺物
	S K - 2 全景	地震痕（噴砂）確認状況	P L. 9	包含層出土遺物
P L. 3	S K - 3 全景	P L. 5 地震痕（噴砂）土層断面	P L. 10	包含層出土遺物
	S K - 4 全景	包含層遺物出土状況	P L. 11	包含層出土遺物
	S K - 5 全景	包含層遺物出土状況	P L. 12	包含層出土遺物
	S K - 6 全景	包含層遺物出土状況	P L. 13	包含層出土遺物
	S D - 1～6 確認状況 (1号トレンチ)	基準設置状況		遺構外出土遺物
	S D - 3・4・7 確認状況 (2号トレンチ)	表土除去状況		
		空撮状況		
		調査状況		

I 調査に至る経緯

平成 25 年 7 月、株式会社ホンダカーズ高崎（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に店舗建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地は埋蔵文化財包蔵地であるため、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年 8 月 7 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 8 月 20 日に工事予定地の試掘調査を実施し、縄文時代～中世の遺構・遺物を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、開発予定地の内建物建設部分について記録保存の発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成 25 年 10 月 30 日付けで高崎市教育長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 25 年 10 月 30 日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。



第 1 図 調査区域図

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

上中居岡西遺跡は高崎市上中居町に所在し、JR高崎線高崎駅から東へ約1.7kmに位置する。高崎市は群馬県南部にあり関東平野においては北西端部にあたる。市内には利根川、烏川、碓氷川など一級河川が流れ、北から西に榛名山と浅間山、北東方向に赤城山が望める。市域である榛名山南東麓には相馬ヶ原扇状地と呼ばれる火山性の扇状地が広がり、南西端で烏川を西縁、広瀬川を東縁とする前橋台地と接する。前橋台地は約2.2万年前の浅間山の噴火に伴う大規模な山体崩壊による前橋泥流堆積物を基盤とする。この台地上の西側では東南流する井野川によって形成された幅15km程の井野川低地帯が北西から南東方向に広がっている。井野川低地帯を含む井野川右岸から烏川左岸の間には高崎台地と呼ばれる台地がある。この台地は前橋台地と基盤を同じくするが、その上位を高崎泥流堆積物が覆っている。高崎泥流堆積物はローム質で浅間白糸軽石（As-Sr）と浅間板鼻黄色軽石（As-YP）の軽石礫が多く含む。これは碓氷川水系の九十九川上流にある霧積山が崩壊した際の山崩れの堆積物（約1万年前）であるためと考えられている（新井・矢口・中村・早川・高崎地学愛好会 1993）。高崎台地は井野川のほか染谷川、一貫堀川等の多数の小河川が東南流し、その侵食作用によって形成された微高地と低地が北西から南東方向に緩やかに傾斜しながら複雑に入り組む地形を呈している。さらに烏川と碓氷川との間には合流地点に向かって舌状に細長く延びる八幡台地や烏川、鏑川、碓氷川に三方を囲まれた地域には岩野谷丘陵がせり出している。こうした高崎市の地勢のなか本遺跡は高崎台地に立地しており、井野川低地帯に向かって緩やかに傾斜する台地縁辺部の標高90m程の微高地上に位置している。

【引用文献】

新井雅之 矢口浩之 中村正芳 早川由紀夫 高崎地学愛好会 1993 「およそ1万年前に発生した高崎泥流の分布と起源」『日本地質学会第100年学術大会講演要旨』pp296 日本地質学会
高崎市史編さん委員会 2003 『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市

2. 歴史的環境

【旧石器時代】

本遺跡が立地する高崎台地は厚さおよそ3mの高崎泥流で覆われていることもあり（新井他 1993）、遺構・遺物ともに検出されていない。

【縄文時代】

当該期の遺跡は八幡台地、岩野谷丘陵、井野川流域に集中しており、高崎台地では当該期の遺跡は数少ない。本遺跡が隣接する上中居遺跡群（4）では中期後葉（加曽利E式期）から後期前葉（堀之内式期）の集石遺構や土坑、埋甕、被熱痕跡等が土器を伴って確認されている。また、上中居遺跡群の東側に位置する中居町一丁目遺跡3（7）においては土器は見られないものの埋没状況から当該期と推測される掘り込みを確認しており、両遺跡ではこうした遺構の一部について竪穴住居跡の可能性を指摘している（田辺 2009、坂口 2010）。高崎台地では下中居条里遺跡（29）検出の中期後葉（加曽利E式期）の竪穴住居跡や土坑を含め、特に中期後葉から後期前葉にかけての集落が形成され、その様相が徐々に明らかになりつつある反面、他時期

の遺構・遺物は極めて貧弱であることが特徴的である。

【弥生時代】

高崎台地の微高地上や烏川河岸段丘上では中期後半から集落が形成され始めるようである。群馬県下で中期後半の標識とされる竜見町遺跡（60）をはじめ、高闕堰村遺跡（32）、高闕東沖・村前遺跡（33）、城南小校庭遺跡（62）では当段階の堅穴住居跡や環濠が確認され、高崎競馬場遺跡（59）では遺構は不明であるが壺形・甕形土器が出土しており、高崎城（A）においては方形周溝墓が調査されている。後期も集落は微高地上に継続して形成される。水田経営は後期の段階で下中居条里遺跡においてAs-C（浅間C軽石：3世紀末～4世紀初頭降下）下水田が検出されているが、東町III遺跡（49）ではAs-C下水田面から後期の土器に交じって中期後半の土器が検出されており、東町IV遺跡（50）でもAs-C下水田下層から溝が検出されている事例を受け、水田経営が中期後半からすでに行われていた可能性も指摘されている（有山2010）。

【古墳時代】

集落は上中居遺跡群を中心に半径500mの範囲に古墳時代を通じて住居跡が検出されている。時期による増減はあるものの上中居遺跡群周辺は主要な集落域であったようである。一方で前期では下中居条里遺跡、高崎城、終末期では新後閑遺跡（61）、新後閑寺廻遺跡（63）、双葉町I遺跡（66）、高崎城といった烏川左岸沿いにおいても集落は認められている。方形周溝墓は上中居遺跡群、中居町一丁目遺跡、上中居辻薬師II遺跡、西浦・吹手西遺跡（41）で確認され、3・4世紀代の方形周溝墓が集落近縁に存在していたようである。なお、本遺跡所在の上中居町にはかつて前方後円墳と推測され、越後塚古墳（67）と呼ばれる全長130mの規模をもつものも存在したとされるが現在は消失してしまっており、その姿は見ることができない。水田経営は下中居条里遺跡のように前時代から継続して行われている地域と用水路を整備し、新たに水田開発を行う地域が見られるようになる。真町II遺跡ではHr-FA（榛名一渋川テフラ：6世紀初頭降下）、上中居辻薬師II遺跡ではHr-FA及びHr-FP（榛名伊香保テフラ：6世紀中葉降下）を含む二次的な洪水層で埋没している溝がそれぞれ検出されている。上中居辻薬師II遺跡で検出されたこの溝は規模が大きく、隣接する上中居遺跡群と上中居辻薬師遺跡第7次の調査区を横断しながらさらに東南流している。流水痕跡が認められていることから大型の幹線水路であると想定され、さらにこの溝底からはS字状口縁台付甕や小型丸底壺とともに滑石製の勾玉・剣形模造品といった遺物が出土していることから水場祭祀も行われていたと推測されている（田口2010）。上中居辻薬師遺跡第5次ではこの溝と並行する溝から勾玉や管玉とともに破鏡（上方作系浮彫式獸帶鏡と推定）が確認されたことはこの溝の重要性を物語っている。上中居・宇名室遺跡（25）や上中居岡東遺跡（3）ではほぼ東西、南北方向に走行する後期から終末期にかけての溝が見られるが、その走行方向から中期までの溝とは異なる性格を持つ遺構として特筆すべきものである。

【古代】

8世紀の集落は高闕村前遺跡（30）と新後閑遺跡で検出されているのみであるが、9世紀に入ると上中居辻薬師遺跡第4次（11）、高闕高根遺跡（34）、柴崎遺跡群（40）、西浦・吹手西遺跡、高崎城といった地域で集落を形成しながら、低地における水田開発・経営を活発化させる。初期の水田経営は9世紀の洪水層下から水田跡が確認された真町I遺跡（44）や旭町I遺跡（46）、用水路と推測される溝が検出された高闕東沖・村前遺跡等で確認されている。平安時代後期の水田経営の状態は天仁元（1108）年に浅間山が噴火した際に降下したAs-B（浅間B軽石）に埋もれた水田跡によって詳しく観察できる。条里制の規格に基づいて配置された坪境の畦が確認されたとする岩押III遺跡（58）をはじめ、中居町一丁目遺跡3、上中居西屋敷・III遺跡（14、16）、上中居平塚I・II遺跡（17・18）、上中居・平塚遺跡3（19）、上中居荒神I・II遺跡（21・

22)、上中居咲地蔵遺跡 (23)、上中居島薬師遺跡 (24)、下之城村北II遺跡 (26)、下之城村前II遺跡 (27)、高閑北沖遺跡 (35)、高閑塚田遺跡 (36)、高閑東沖II遺跡 (37)、岡久保遺跡 (38)、江木諏訪西遺跡 (43)、東町・II～VI遺跡 (47～52)、栄町I～III遺跡 (53～55)、岩押町I・II遺跡 (56・57)、和田多中遺跡 (64)、上佐野樋越遺跡 (65) 等があげられ、水田地帯は大規模で広範囲にわたっている。

【中世】

本遺跡北西で東南流する長野堰は現在、円筒分水により倉賀野堰、矢中堰、上中居堰、地獄堰に分かれ高崎台地の水田地帯へ恒常に均等な配水をもたらしている。この長野堰は箕輪城主長野（信濃守）業政の時に整備された灌漑用水路であるといわれており（中島 1996、2007）、現在の高崎市沖町で烏川から分水している。この事業により高崎台地における灌漑区域は飛躍的に拡大し、現矢中堰沿いには反町城（C）や中世環濠屋敷が立ち並ぶようになる。反町大膳亮幸定の居城とされている反町城は、上中居辻薬師・II遺跡、上中居西屋敷II遺跡（15）、上中居遺跡群で調査が行われている。上中居辻薬師遺跡では道路状遺構が検出され、同遺跡検出の溝は上中居西屋敷II遺跡検出の溝と繋がって区画溝を構成している。上中居辻薬師II遺跡と上中居遺跡群内西側を横断する溝もまた区画溝と推定されている。また上中居遺跡群内東側と上中居岡東遺跡（2）で調査された溝は丸茂屋敷址（N）の区画溝と想定されている。このほか掘立柱建物跡が検出された高閑村前II遺跡、溝、井戸、土坑、柱穴が確認された上中居早道場遺跡をはじめ、和田下之城（K：下之城村東遺跡）、高閑屋敷（M：高閑堰村遺跡）の調査により中世環濠屋敷の実態が徐々に明らかになっている。

【近世】

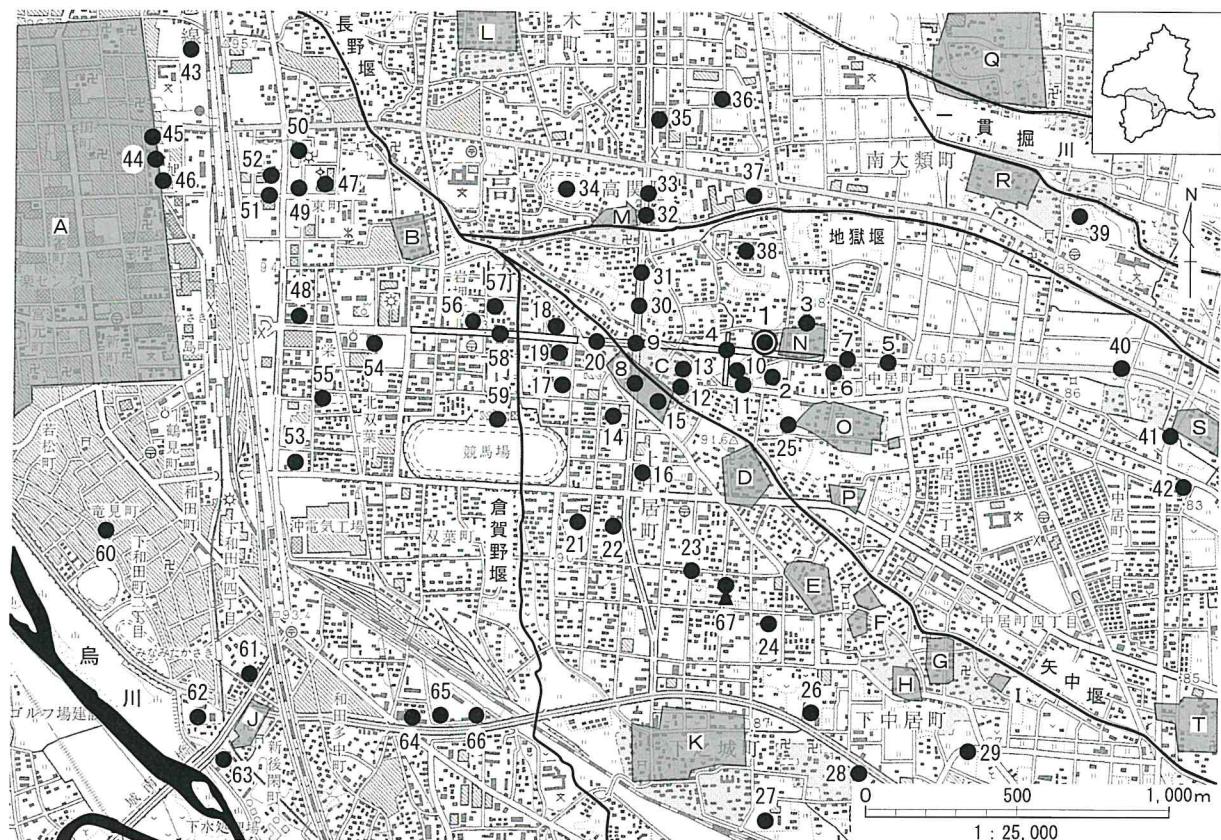
慶長3（1598）年、烏川左岸に高崎城が置かれると周辺は城下町として発展し、また中山道・三国街道の宿場町としても栄えていった。慶長年間には高崎城主井伊直政により長野堰の拡張工事が進められ、水田耕作や畠作のための再整備が行われていた。天明3（1783）年には浅間山の噴火（浅間A軽石降下）により本地域を含めた広範囲に甚大な被害がもたらされたが、その復旧作業の形跡が上中居岡西遺跡第2次、上中居遺跡群、中居町一丁目遺跡、上中居辻薬師遺跡第5次、上中居西屋敷II遺跡、東町V遺跡、栄町I～III遺跡、岩押町I遺跡、岩押III遺跡、上佐野樋越遺跡で見ることができる。

【引用文献】

- 有山径世 2010 「III. 地理的・歴史的環境」『上中居辻薬師遺跡3』高崎市教育委員会
 田口一郎 2010 「第3章 古墳時代の遺構と遺物 第3節 溝跡」『上中居遺跡群』高崎市教育委員会
 中島宏 1996 『新編高崎市史資料編6 近世2』 p.238～243 高崎市
 中島宏 2007 『長野堰の水と光』 地域の個性を活かした町づくり研究会

No.	遺跡名	概要	文献
1	上中居岡西遺跡3	縄文配石・土坑・埋甕、古墳溝・土坑、中世溝・近世溝・土坑	本報告
2	上中居岡西遺跡第2次	古墳溝・井戸・土坑・古代溝・近世A-s-A下復旧痕	『上中居遺跡群2』2010 高崎市教育委員会
3	上中居岡東遺跡	古墳土坑・中・近世溝	『上中居遺跡群2』2010 高崎市教育委員会
4	上中居遺跡群	縄文集石・土坑・古墳住居・溝・土坑・方形周溝墓・古代土坑・井戸・溝跡・水田跡・中・近世城館溝・井戸・土坑	『上中居遺跡群』2009 高崎市教育委員会
5	中居町一丁目遺跡	古墳住居・方形周溝墓・古代住居	『中居町一丁目遺跡』2007 群馬県埋蔵文化財調査事業団
6	中居町一丁目遺跡2	古墳住居・溝・土坑・古代溝・土坑・近世水田	『中居町一丁目遺跡2』2010 高崎市教育委員会
7	中居町一丁目遺跡3	縄文住居・古墳溝・古代水田	『中居町一丁目遺跡3』2010 群馬県埋蔵文化財調査事業団
8	上中居辻薬師遺跡	A-s-B下水田・中世館跡	『上中居辻薬師遺跡』1989 高崎市教育委員会
9	上中居辻薬師II遺跡	古墳前期周溝墓・住居・溝・中世掘立柱建物・堀・土坑墓	『上中居辻薬師II遺跡』1992 高崎市教育委員会
10	上中居辻薬師遺跡3	古墳住居・溝	『上中居辻薬師遺跡3』2009 高崎市教育委員会
11	上中居辻薬師遺跡第4次	古墳住居・古代住居	『上中居遺跡群2』2010 高崎市教育委員会
12	上中居辻薬師遺跡第5次	古墳溝・土坑・古代溝・中・近世火山灰処理溝・塚状遺構	『上中居遺跡群2』2010 高崎市教育委員会
13	上中居辻薬師遺跡第7次	古墳住居・溝・近世溝	『上中居遺跡群2』2010 高崎市教育委員会
14	上中居西屋敷遺跡	A-s-B下水田	『上中居西屋敷遺跡』1994 高崎市遺跡調査会
15	上中居西屋敷II遺跡	中近世溝・井戸・A-s-A下水田復旧痕	『上中居西屋敷II遺跡』1997 高崎市教育委員会
16	上中居西屋敷III遺跡	A-s-B下水田	『上中居西屋敷III遺跡』1998 高崎市遺跡調査会
17	上中居平塚I遺跡	A-s-B下水田	『上中居平塚I遺跡』1996 高崎市遺跡調査会

第1表 周辺の遺跡一覧表（1）



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

No.	遺跡名	概要	文献
18	上中居平塚II遺跡	A s - B 下水田	『上中居平塚II遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
19	上中居・平塚遺跡3	A s - B 下水田	『上中居・平塚遺跡3』2010 高崎市教育委員会
20	上中居早道場遺跡	中近世溝・井戸	『上中居早道場遺跡』1992 高崎市教育委員会
21	上中居荒神I遺跡	A s - B 下水田、中近世溝	『上中居荒神I遺跡』1997 高崎市遺跡調査会
22	上中居荒神II遺跡	A s - B 下水田、中近世溝	『平成9年度高崎市小規模埋蔵文化財発掘調査概報2』1998 高崎市教育委員会
23	上中居咲地藏遺跡	A s - B 下水田	『高崎市遺跡分布図』1998 高崎市教育委員会
24	上中居島薬師遺跡	A s - B 下水田	『上中居島薬師遺跡』1997 高崎市遺跡調査会
25	上中居・宇名室遺跡	古墳溝・土坑	『上中居・宇名室遺跡』2010 高崎市教育委員会
26	下之城村北II遺跡	A s - B 下水田	『下之城村北II遺跡・下之城村前遺跡』1992 高崎市教育委員会
27	下之城村前II遺跡	A s - B 下水田	『下之城村前II遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
28	下之城条里遺構	古墳水田、古代水田、中世掘立柱建物	『下之城条里遺構の調査』1981 群馬県埋蔵文化財調査事業団
29	下中居条里遺跡	绳文住居、A s - C 下水田、古墳住居、古代住居・A s - B 下水田、中世環濠	『下中居条里遺跡』1996 高崎市教育委員会 『下中居条里遺跡II』1999 高崎市教育委員会 『下中居条里遺跡III』2003 高崎市教育委員会
30	高闕村前遺跡	弥生住居、古墳住居・畠、古代住居、中世掘立柱建物	『高闕村前遺跡』1993 高崎市教育委員会
31	高闕村前II遺跡	古墳住居、A s - B 下水田、中世掘立・溝・井戸	『高闕村前II遺跡・高闕東沖・村前遺跡』1995 高崎市教育委員会
32	高闕堰村遺跡	弥生環濠、古墳住居	『高闕堰村遺跡』1992 高崎市教育委員会
33	高闕東沖・村前遺跡	弥生住居、古墳住居、古代溝、中世掘立柱建物・井戸	『高闕村前II遺跡・高闕東沖・村前遺跡』1995 高崎市教育委員会
34	高闕高根遺跡	古墳住居、古代住居・井戸・A s - B 下水田、中世溝・土坑・井戸	『高闕高根遺跡』2007 高崎市教育委員会
35	高闕北沖遺跡	A s - B 下水田	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』1991 高崎市教育委員会
36	高闕塚田遺跡	A s - B 下水田	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』1991 高崎市教育委員会
37	高闕東沖II遺跡	A s - B 下水田	『高闕東沖II遺跡』1995 高崎市遺跡調査会
38	岡久保遺跡	A s - B 下水田	『岡久保遺跡』1988 高崎市教育委員会
39	南大類村南遺跡	古代住居、中世溝・井戸・土坑	『天田遺跡II』1994 高崎市教育委員会
40	柴崎遺跡群	古墳溝、古代住居、A s - B 下水田	『柴崎遺跡群・南大類遺跡群』1993 高崎市教育委員会
41	西浦・吹手西遺跡	古墳前期周溝墓、古代住居、A s - B 下水田	『西浦・吹手西遺跡』1991 高崎市教育委員会
42	天王前遺跡	古墳水田、古代溝・A s - B 下水田	『天王前遺跡』1982 高崎市教育委員会
43	江木諏訪西遺跡	古墳溝、A s - B 下水田	『江木諏訪西遺跡』1995 高崎市遺跡調査会
44	真町I遺跡	9 C 洪水層下水田・A s - B 下水田	『真町I遺跡』1996 高崎市教育委員会

第2表 周辺の遺跡一覧表(2)

No.	遺跡名	概要	文献
45	真町II遺跡	H r - F A 開連二次洪水層下水田、近世建物跡・堀・土坑	『真町II遺跡』1999 高崎市教育委員会
46	旭町I遺跡	9 C 洪水層下水田・A s - B 下水田	『平成7年度高崎市内小規模埋蔵文化財発掘調査概報』1996 高崎市教育委員会
47	東町遺跡	A s - B 下水田	『東町遺跡』1989 高崎市教育委員会
48	東町II遺跡	A s - B 下水田	『東町II遺跡』1991 高崎市教育委員会
49	東町III遺跡	弥生溝、A s - C 下水田、H r - F A 開連二次洪水層下水田、A s - B 下水田、A s - A 下水田	『東町III遺跡』1994 高崎市教育委員会
50	東町IV遺跡	弥生溝、H r - F A 、H r - F P 開連二次洪水層下水田、A s - B 下水田、中近世溝	『東町IV遺跡』1995 高崎市教育委員会
51	東町V遺跡	A s - B 下水田、A s - A 下水田復旧痕	『東町V遺跡』1996 高崎市教育委員会
52	東町VI遺跡	A s - B 下水田	『東町VI遺跡』2000 高崎市遺跡調査会
53	栄町I遺跡	A s - B 下水田、A s - A 下水田復旧痕	『栄町I遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
54	栄町II遺跡	A s - B 下水田、A s - A 下水田復旧痕	『栄町II遺跡』1999 高崎駅東口線栄町遺跡調査会
55	栄町III遺跡	A s - B 下水田、A s - A 下水田復旧痕	『栄町III遺跡』2003 高崎市教育委員会
56	岩押町I遺跡	A s - B 下水田、A s - A 下水田復旧痕	『岩押町I遺跡』1994 高崎市遺跡調査会
57	岩押町II遺跡	A s - B 下水田	『岩押町II遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
58	岩押III遺跡	A s - B 下水田、近世畠・A s - A 復旧痕	『岩押III』2011 群馬県埋蔵文化財調査事業団
59	高崎競馬場遺跡	弥生時代土器	『新編高崎市史資料編1 原始古代1』1999 高崎市
60	竜見町遺跡	弥生土器（中期後半竜見町式標識遺跡）	『群馬県遺跡台帳II（西毛編）』1972 群馬県教育委員会
61	新後閑遺跡	古墳後期住居跡、古代掘立、中世溝・土坑	『新後閑遺跡』2009 高崎市教育委員会
62	城南小校庭遺跡	弥生住居	『高崎市城南小学校庭弥生遺跡』高崎市教育委員会
63	新後閑寺廻遺跡	古墳住居、古代住居	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』1990 高崎市教育委員会
64	和田多中遺跡	A s - B 下水田	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』1988 高崎市教育委員会
65	上佐野樋越遺跡	A s - B 下水田、A s - A 下水田復旧痕	『上佐野樋越遺跡』2002 群馬県埋蔵文化財調査事業団
66	双葉町I遺跡	古墳住居・溝、A s - B 下水田	『双葉町遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
67	越後塚古墳	前方後円墳、消誠	『新編高崎市史資料編1 原始古代1』1999 高崎市
A	高崎（和田）城	中近世城	『高崎城Ⅷ・IX高崎城三ノ丸遺跡』1994 高崎市教育委員会ほか
B	岡田屋敷	中世環濠屋敷	『高崎漫歩』1989 土屋喜英
C	反町城	中世城	『上中居辻葉師遺跡』1989 『上中居辻葉師II遺跡』1992 高崎市教育委員会
D	新堀砦	中世砦	『群馬県古城址の研究』上 1972 山崎一
E	下中居新井屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
F	高尾屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
G	下中居佐藤屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
H	下中居福田屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
I	道場屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
J	新後閑屋敷	中世環濠屋敷	『群馬県歴史散歩』75号 1986 山崎一
K	和田下之城	中世城	『下之城村東遺跡』1983 下之城村東遺跡調査会
L	江木環濠遺構	中世環濠屋敷群	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
M	高閑屋敷	中世環濠屋敷	『高閑村遺跡』1992 高崎市教育委員会
N	丸茂屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
O	宇名室環濠遺構	中世砦	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
P	大類城址	中世城	『宿大類町村西遺跡』1987 高崎市教育委員会
Q	大類館	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
R	高井屋敷	中世環濠屋敷	『新編高崎市史資料編3 中世1』1996 高崎市
S	栗原屋敷	中世環濠屋敷	『群馬県古城址の研究』上 1972 山崎一
T		中世環濠屋敷	

第3表 周辺の遺跡一覧表（3）

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

本遺跡の調査区はA・B・C区と分かれており、先に行われた試掘調査の結果から、遺構の集中が予測されたA・C区は全面調査を行った。また、試掘時から出土遺物が少なかったB区に関しては、トレンチ調査を行い、遺構が確認された部分のみ拡張調査を行うこととした。なお、調査は近隣遺跡の状況から、縄文時代の遺構および遺物に主眼を置くこととした。

調査はB区から開始し、幅3m・長さ20mの東西方向トレンチを2本設けた。近隣遺跡である上中居遺跡群の状況から、本遺跡は古墳時代以降の遺構確認は見込まれなかつたものの、トレンチの南半分をIVa層上面、北半分をVIa層上面まで重機(0.25バックホー)で掘り下げた。このため、トレンチの南半分では古墳時代以降、

北半分では縄文時代の遺構を捉えることとしている。トレント調査の結果、2号トレント東端において縄文時代に帰属するものと想定される土坑状のプランが確認できたことから、一部拡張を行ったが、後の詳細調査によって、倒木痕であったことが判明している。

A区の調査では、縄文時代中期中葉から後期前葉の遺物包含層が確認できていたことから、重機での表土除去は、遺物包含層であるV a層上面まで行い、包含層の掘り下げは調査区内を5m×5m方眼に区画し、各区画内をジョレンおよび移植ゴテで遺構の確認が可能と想定されるVI a層上面まで掘り下げた。また、遺物の分布状況に関しては、トータルステーションで座標および標高を記録している。包含層掘り下げ後に確認できた遺構は、半截ないし断ち割り調査を行い、埋没状況・構築状況を記録している。

C区の調査は、基本的にA区の調査方法と同様の手法をとっている。なお、本地区は谷地形であったため、標準堆積土層中にAs-C（浅間C軽石：3世紀末～4世紀初頭降下）の混入が見られたことから、同軽石降下以降の遺構を確認および検出した後に縄文時代の包含層調査に移行している。

検出された遺構の記録保存はトータルステーションによる平面図・手実測による土層断面図・写真によって対応している。平面および断面測量は、GPSにより設置した基準点・水準点（世界測地系）を基に行っている。遺構図面の縮尺は、平面図・断面図とも1/20を基本としており、埋甕・配石等詳細が必要な遺構に関しては1/10としている。遺構写真は調査の進捗に併せて撮影しており、35mm白黒・35mmカラーリバーサルフィルム・1,000万画素相当のデジタルカメラで対応している。また、調査の最終段階においては、ラジコンヘリコプターによる空撮を実施している。

2. 調査の経過

現地での発掘調査は平成25年11月6日から平成25年12月27日の間で実施した。以下に概要を示す。

11月 6日：GPSによる基準点設置。

11月 11日：発掘器材の搬入。B区のトレント調査を開始。

11月 13日：発掘補助員動員。B区1・2号トレントの遺構確認および検出作業に着手。プレハブ搬入。

11月 14日：B区1・2号トレントの包含層調査および遺構確認作業を開始。

11月 18日：B区の調査を終了。

11月 19日：重機によるB区の埋め戻し。

11月 20日：A区の表土除去開始。近世以降の堀（SD-8）を確認。

11月 23日：A区の表土除去終了を受け、C区の表土除去を行い、同日中に終了。

11月 25日：A区SD-8の検出作業に着手。

11月 27日：A区SD-8の検出終了を受け、同地区の縄文時代遺物包含層（V層）の掘り下げを開始。

12月 4日：A区遺物包含層の掘り下げを進めたところ、埋甕（加曾利E III式）を確認。

12月 5日：A区北東端で1号配石を確認。

12月 11日：遺物包含層の掘り下げと併行して確認された遺構の検出作業を行う。

12月 17日：A区の調査と併行して、C区の調査を開始。

12月 24日：A区の遺構検出作業終了を受け、空撮を実施。空撮後A区で確認された埋甕・配石の断ち割り調査に移行。

12月 25日：C区SD-11の検出作業とともに遺物包含層の掘り下げを行い、同日中に終了。

12月 26日：発掘器材の撤収。

12月 27日：プレハブ・簡易トイレの撤収を行い、現地での調査を終了する。

IV 標準堆積土層

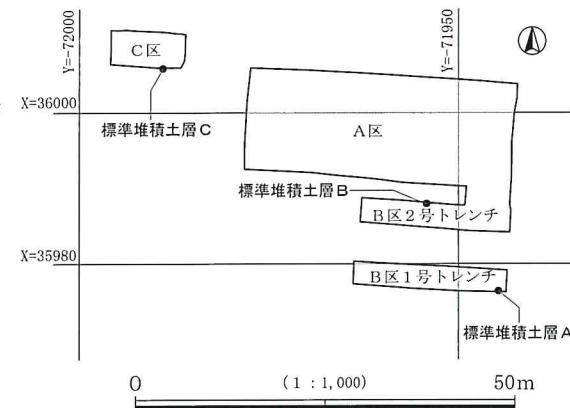
本遺跡はA・B区中央や東寄りの標高が高く、東西へ向かうにつれ標高を減ずる。C区においては谷地形に区分されるため、標準堆積土層はA・B区と大きく異なる状況にある（第3図）。

今回の調査では、縄文時代の遺物包含層であるV aないしV b層上面まで重機による表土除去を行い、遺構の確認が可能であるVI a・VI b層上面まで、人手により遺物を採取しながら掘り下げを行っている。

現状で本遺跡地には南北方向の地割りが認められ、同地割りの下位には同方向に構築される溝（SD-3）が存在し、同溝を境に土地の利用方法が異なるようである。土地利用の差異はIII層およびIV層で顕著に見られ、III層においてはSD-3西側では水田土壤と想定されるIII b・III c層が堆積するのに対し、東側では見られない。また、IV層においてはSD-3西側では搅拌が顕著なIV b層に対し、東側では搅拌が僅かなIV a層が主体として堆積している。特筆すべきはC区の堆積で、先述した通り同地区は谷地形内に含まれる。このため、A・B区では見られないAs-Cを含むIV d層の存在が認められる。また、IV d層以下の層より新しく、As-Aを含むII層（同地区ではIII層の堆積は見られない）より古い噴砂が確認されている。

本遺跡の標準堆積土層は以下の通りである。

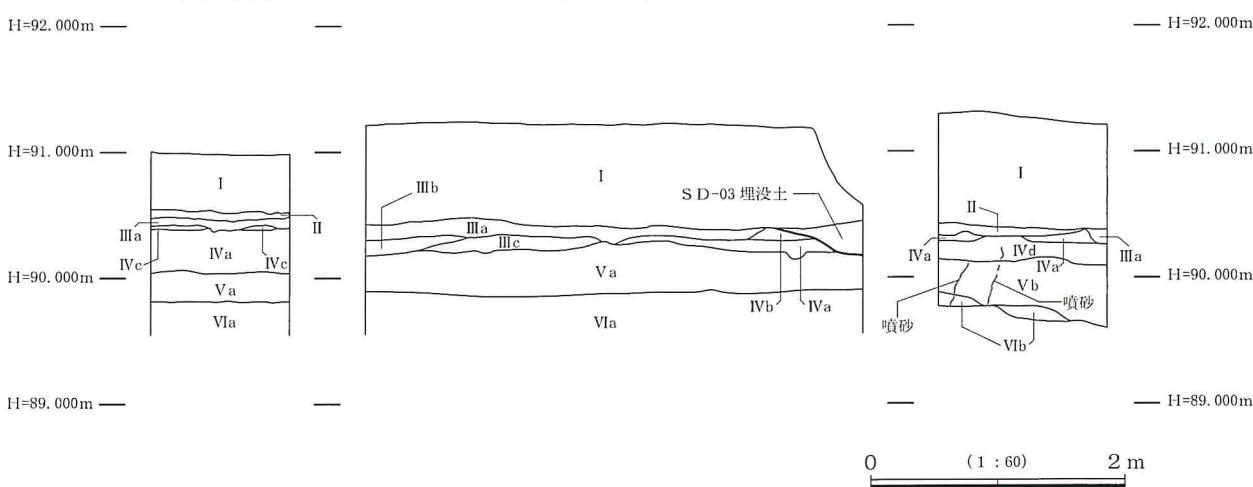
- I 暗灰色土 As - A ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、As - B ϕ 0.2 cm少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。現代の盛土。
- II 暗灰色土 As - A ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、As - B ϕ 0.2 cm少量含む。
しまりやや強。粘性ややあり。旧表土。
- III a 灰黄褐色土 As - A ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、As - B ϕ 0.2 cm少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。
- III b 暗灰色土 As - A ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、As - B ϕ 0.2 cm・黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。
しまりあり。粘性あり。
- III c 灰黄褐色土 As - B ϕ 0.2 cm・黒褐色粘質土中量、黄褐色粒少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。
- IV a 暗褐色土 黄褐色洪水土・灰黄褐色洪水土少量含む。
しまりあり。粘性あり。搅拌が少ない。
- IV b 暗褐色土 黄褐色洪水土・灰黄褐色洪水土中量含む。
しまりあり。粘性あり。搅拌が顕著。
- IV c にぶい黄褐色土 Hr - FA洪水土。
- IV d 黒褐色土 As - C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・砂粒少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。上位ではAs-Cの密集が強い。
- V a 黒褐色土 ローム粒・灰黄褐色洪水土中量含む。
しまりあり。粘性あり。鉄分の沈着が見られる。縄文時代中期中葉～後期前葉の遺物を含む。
- V b 黒褐色土 砂粒中量、ローム粒少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。
- VI a にぶい黄褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム漸移層。
- VI b にぶい黄褐色土 砂粒多量含む。
しまりあり。粘性弱。ロームの水成堆積層。



標準堆積土層A
(SD-3西)

標準堆積土層B
(SD-3西)

標準堆積土層C
(谷地形)



第3図 標準堆積土層

V 検出された遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡は先に行われた試掘調査および近隣遺跡の調査から、古墳時代以降の集落域から外れているものと判断されていたため、調査は縄文時代中期中葉から後期前葉の遺構を捉えるべく行った。調査区はA・B・C地区と3か所に分かれており、試掘調査で遺物の出土が少なかったB区はトレンチ調査で対応し、A・C区を全面的に調査している。このためA・C区では縄文時代の包含層と考えられるVa・Vb層上面より調査を開始した。また、トレンチ調査で調査範囲が狭く、比較的2面調査をし易いB区に関しては、部分的にIVa層上面で古墳時代以降の遺構確認と検出を行った。以下、各区ごとに概要をまとめる。

A区

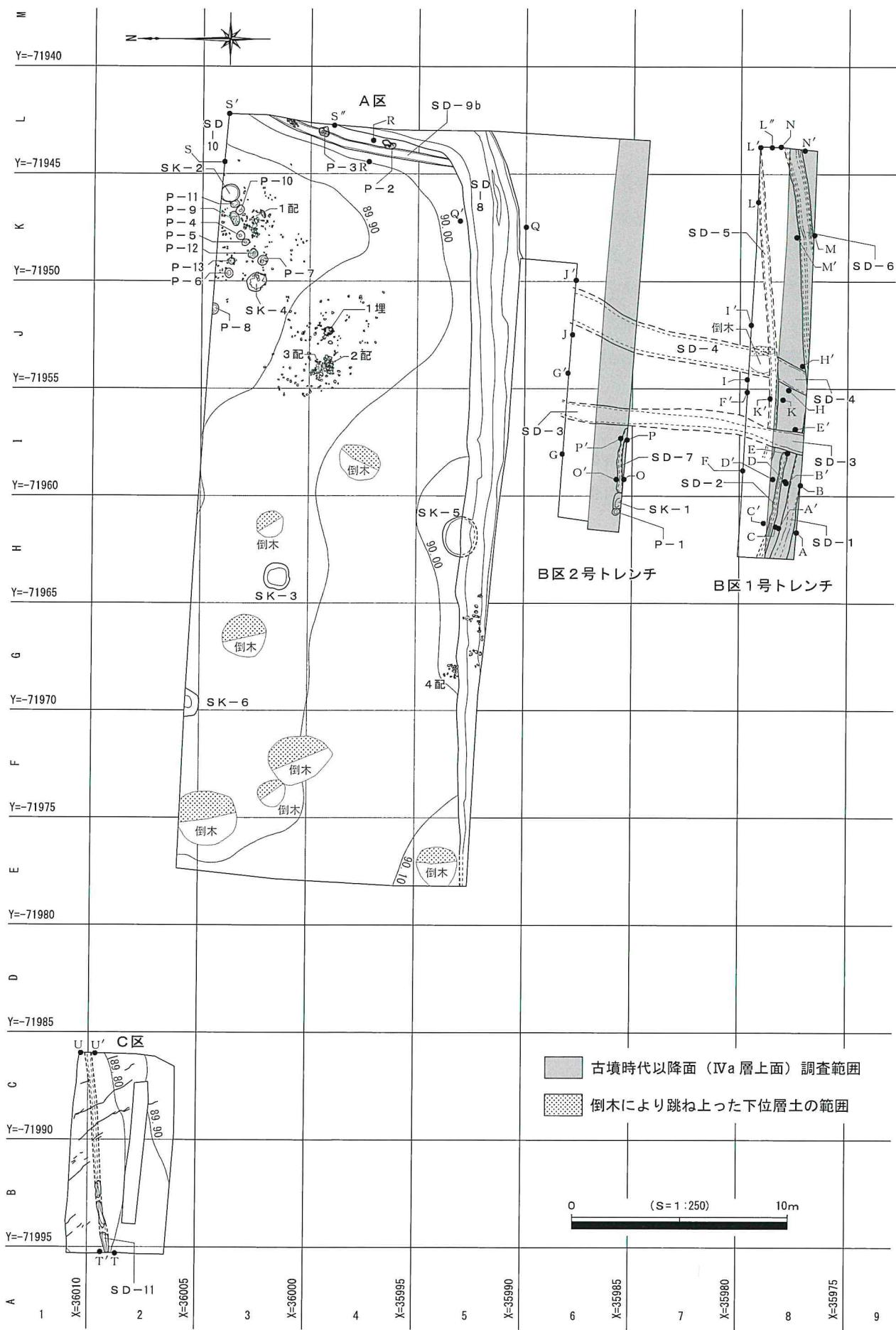
A区の調査では縄文時代の配石4基（1～4号配石）・埋甕1基（1号埋甕）・土坑4基（SK-3～6）・ピット10基（P-4～13）・遺物包含層、As-B降下以降の用水路1条（SD-9）、As-A（浅間A軽石：1783年降下）以降の堀1条（SD-8）・溝1条（SD-10）・土坑（井戸）1基（SK-2）・ピット2基（P-2・3）が確認されている。その他、縄文時代に帰属するものと想定される倒木痕が7基確認されており、これらの倒木痕はすべて西へ向けて倒れている状況が捉えられている。

確認されている4基の配石は1号配石を除き、同様な形状を示すもので、長軸1.0m×短軸0.5mの範囲に長さ20cm程の礫を楕円形状に配するものである。使用している礫は、概ね山石を選択しているようである。一方、1号配石は川原石を主に使用しており、礫の平坦面を上位に向けるように配されているもので、敷石住居の可能性を有するものである。なお、1号配石は調査の最終段階で礫の下をさらに掘り下げたが、埋甕・炉跡等の住居跡に付随すべき施設は確認できていない。また、1～4号配石の時期は遺構に伴う遺物出土が見られなかつたため、明確な時期は捉えられなかつた。

1号埋甕は単独の出土で、加曾利EⅢ式土器の深鉢が伏せた状態で設置されていた。埋甕周囲の掘り込み等にも注意を払つたが、住居跡と関連付けることができる痕跡は確認されなかつた。

土坑は縄文時代4基、As-A降下以降が1基で、縄文時代の土坑は断面袋状を呈するSK-4を除き、その他は断面「U」字状を呈するものである。詳細時期が捉えられている土坑はSK-3で、埋没土中から加曾利EⅢ式の深鉢底部が出土している。As-A降下以降の土坑であるSK-2は検出の段階で井戸と判断されたもので、湧水が顕著であったため検出を途中で留めた。なお、底面の深さに関してはピンポールによる触診により、雑駁であるが確認している。

溝はAs-B（浅間B軽石：1108年降下）降下以降のSD-9、As-A降下以降のSD-8・10が確認されているが、SD-10に限り、断面のみの確認となっている。SD-9は用水路と想定されるもので、底面および壁面には多量の鉄分沈着が認められる。また、断面の観察から3時期の変遷が捉えられている。SD-8は近世館の堀と想定される遺構で、調査区東および南壁に沿うような状態で確認されている。本堀は洪水により比較的短期間で埋没しており、埋没後に同じ部分を掘り直し、堀の再生を行つてゐるようである。なお、再生後の堀は人為的に埋め戻されている。堀に伴うであろう土壠の痕跡は捉えられておらず、埋没土中においても土壠の崩落を示すような土の流入は認められていない。また、A区は現代の地割に沿う状態で設置されており、これに沿うような状態でSD-8は検出されていることから、近世館の地割が現代まで踏襲され



第4図 遺構全体図

ていることを示しているものと想像できよう。SD-10に関しては、先述した通り断面のみでの確認であるため不明な点が多いが、底面で鉄分の沈着が認められている。掘り込みこそ確認できなかったものの、この鉄分の沈着がVa層上面において南西方向に延びる状況が確認できていることから、同溝の走行方向を窺え知るものと考えられる。

ピットは縄文時代に比定されるものが10基確認されており、いずれも1号配石周辺での検出となった。断面形状から柱穴と想定できるものはP-8のみで、その他のピットからは柱痕を示す断面形状は捉えられていない。また、確認された全てのピットは掘り込みが20cm程と浅い。1号配石周辺に位置するこれらのピットは1号配石に伴い、さらに住居跡の柱穴となり得る可能性を含むものであるが、明確な判断を与えるまでには至っていない。As-A降下以降のピットであるP-2・3はSD-8に沿うような状態で確認されており、ピット内には多量の円礫が詰め込まれていた。これらの礫は栗石としての機能を果たしていたものと推測され、埋没土の状態から時期的に近いと考えられるSD-8（館の堀跡）との関連性を窺わせるものと言えよう。

縄文時代の遺物包含層とされるVa層からは中期後葉の加曾利E I式期から後期前葉の堀之内2式期までの土器片が時期を途絶えることなく出土している。遺物包含層の特徴として、縄文時代中期後葉から後期前葉以外の遺物出土がほぼ見られることと、包含層自体が洪水によりもたらされたものではないことがあげられる。

B区

B区の調査は1号・2号トレンチを3m幅で東西方向に設けて行い、各トレンチの南半分をIVa層上面で調査を行った。北半分に関しては、縄文時代の遺物包含層であるVa層上面までを重機で除去し、同層の遺物を採取しながらVIa層上面まで掘り下げ、最終的に遺構確認を行った。1・2号トレンチ南半分では、古墳時代以降の土坑1基(SK-1)、ピット1基(P-1)、溝7条(SD-1~7)を確認している。これら確認された遺構は、SD-4を除き、全ての遺構にAs-Aの混入が認められることから、同軽石降下以降に帰属するものと考えられよう。なお、SD-4は埋没土中にAs-AおよびAs-Bの混入は見られず、Hr-FA（榛名ニッ岳洪川テフラ：6世紀初頭降下）の洪水土と想定されるIVc層の土がブロック状に混入する状態にある。このため、SD-4の帰属時期は古墳時代後期から平安時代末の範疇に収まるものと判断されるものである。

B区における土坑・ピットの性格は不明であるものの、溝に関しては近接する上中居遺跡群の調査から畠の耕作痕・区画溝・用水路の可能性が指摘できるものと考えられる。搅拌を受けた土により埋没し、東西方向に並走するような状態で確認されているSD-1・2・5~7は畠の耕作痕、現在の地割とほぼ同じ位置を走行するSD-3は区画溝、埋没土に流水の痕跡と捉えられる洪水土や鉄分の沈着が見られるSD-4は用水路と想定できよう。

C区

C区の調査では、縄文時代中期以前に形成されたものと考えられる谷地形、As-C（浅間C軽石：3世紀末～4世紀初頭）降下以降の溝であるSD-11、As-C降下からAs-A降下の間に噴出した噴砂を捉えるに至っている。

谷地形は湧水が顕著であったことから、谷の落ち込み部分までの検出に留めている。谷地形に堆積するVb層は遺物の出土状態から台地部分のA・B区で確認されているVa層に相当するもので、砂粒の混入が顕著に見られるものである。さらにIVa層とVb層の間にはAs-C混土であるIVd層が確認されている。本遺跡内で標準堆積土層中でAs-Cが確認されているのはC区のみで、A・B地区において肉眼での確認は困難であった。このような状況から、本遺跡周辺におけるAs-Cの直接的な降下は僅かであったものと推測され、谷地形であるC区にのみ流水により二次的にAs-Cが運び込まれたものと考えられる。

溝はSD-11の1条のみの確認である。同溝の性格については積極的な位置付けを避けるが、埋没土がAs-C混土であることや谷地形に構築されている状況からAs-C混水田の疑似畦畔（畦脇に掘られた溝）の可能性が指摘できよう。

噴砂も谷地形であるC区のみで確認されており、北西-南東方向に走行する傾向にある。As-Bの一次堆積層ないし混土層が本調査区では確認できなかったため、明確な時期としてAs-C降下からAs-A降下の間に噴出したものと捉えている。

2. 配石

1号配石（第6・17図、第7表 / PL. 2・6）

位置：K3グリッド。平面形態：長さ5cm～40cmの川原石を主体とした礫が平坦面を上位に向けて集中的に配されている。重複：重複は見られない。規模：1.28m×1.22mの範囲内に平坦面を上位に向かた礫が配される。残存深度：0m。主軸方位：N-34°-E。遺構埋没状況：遺構の掘り込み・埋没土は捉えられていない。遺物出土状態：配石範囲内で礫と同レベルで時間差を持たない縄文土器深鉢片が散在する状態で出土している。なお、配石上位に堆積する遺物包含層（Va層）からは、多数の縄文土器片が出土しているが、同レベルおよび近接しての出土にも関わらず時期差が見られるものが多数あった。時期：縄文時代中期後葉加曽利E III式期と想定される。遺物：深鉢・多孔石の出土が認められる。備考：本配石は検出状態から敷石住居の張り出し部に相当する可能性を有し、本配石北側には付随する可能性を有するP-4～13が確認されている。各ピットの計測値はP-4が平面0.42m×0.39m、深さ0.21m、P-5が平面0.49m×0.42m、深さ0.15m、P-6が平面0.45m×0.38m、深さ0.30m、P-7が平面0.50m×0.45m、深さ0.21m、P-8が平面0.54m×[0.29]m、深さ0.19m、P-9が平面0.69m×0.40m、深さ0.16m、P-10が平面0.41m×0.32m、深さ0.16m、P-11が平面0.41m×[0.32]m、深さ0.15m、P-12が平面0.38m×0.30m、深さ0.26m、P-13が平面0.32m×0.31m、深さ0.19mを測る。なお、埋甕・炉跡の存在を確かめるため、最終的に礫を外した後に周囲をさらに掘り下げたが、これらの痕跡を捉えるには至らなかつた。

2号配石（第7・17図、第8・9表 / PL. 2・6）

位置：J4グリッド。平面形態：長さ6cm～24cmの山石を主体とした礫が楕円形状に配されている。重複：3号配石と接続し、検出状態から同時期と想定される。規模：0.94m×0.46mの範囲内に山石が面を問わず配される。残存深度：礫の下位には掘り込みが確認されており、礫下面からの深さは0.22mを測る。主軸方位：N-8°-E。遺構埋没状況：配される礫を外したところ、下位に掘り込みと思われる平面プランは確認できなかった。しかしながら、さらに断ち割り調査を行ったところ、皿状の断面形状を呈する掘り込みが確認できている。掘り込みは、ローム粒を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。人為埋没・自然埋没の判別は不明とする。遺物出土状態：本配石内および周囲では、加曽利E II～E III式期の遺物出土が目立つ。時期：縄文時代中期後葉加曽利E II～E III式期と想定される。遺物：深鉢・スクレイパーの出土が認められる。

3号配石（第7・17図、第10表 / PL. 2・6）

位置：J4グリッド。平面形態：長さ7cm～26cmの山石を主体とした礫が楕円形状に配されている。重複：

2号配石と接続し、検出状態から同時期と想定される。規模：0.92 m × 0.42 mの範囲内に山石が面を問わず配される。残存深度：礫の下位には掘り込みが確認されており、礫下面からの深さは0.17 mを測る。主軸方位：N - 82° - W。遺構埋没状況：配される礫を外したところ、下位に掘り込みと思われる平面プランは確認できなかった。しかしながら、さらに断ち割り調査を行ったところ、皿状の断面形状を呈する掘り込みが確認できている。掘り込みは、ローム粒を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。人為埋没・自然埋没の判別は不明とする。遺物出土状態：本配石内および周囲では、加曾利E III式期の遺物出土が目立つ。時期：縄文時代中期後葉加曾利E III式期と想定される。遺物：深鉢の出土が認められる。

4号配石（第8図 / PL. 2）

位置：G 5 グリッド。平面形態：後世の搅拌等により明確な形状は捉えられなかつたが、残存部分のみで観察すると長さ7 cm～21 cmの山石を主体とした礫が方形ないし長方形に配されている。重複：SD - 8と重複し、埋没土層の観察から、本遺構はSD - 8より古い。規模：0.69 m × 0.65 mの範囲内に山石が面を問わず配される。残存深度：礫の下位には掘り込みが確認されており、礫下面からの深さは0.07 mを測る。主軸方位：N - 78° - W。遺構埋没状況：配される礫を外したところ、下位に掘り込みと思われる平面プランは確認できなかつた。しかしながら、さらに断ち割り調査を行ったところ、皿状の断面形状を呈する掘り込みが確認できている。掘り込みは、ローム粒・砂粒を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。人為埋没・自然埋没の判別は不明とする。遺物出土状態：本遺構に伴う遺物は確認されていないが、周囲から縄文時代中期後葉の土製耳飾りの出土が見られる。時期：本遺跡での遺物出土状況から、縄文時代中期後葉～後期前葉と想定される。遺物：遺物の出土は認められない。

3. 埋甕

1号埋甕（第9・18図、第11表 / PL. 2・6）

位置：J 4 グリッド。平面形態：加曾利E III式土器の深鉢が伏せられた状態で単独出土している。重複：重複は見られない。規模：埋甕下位で平面0.35 m × (0.33) mの円形を呈する掘り込みが確認されている。残存深度：埋甕残存部分から掘り込み底面まで0.25 mを測る。主軸方位：不明。遺構埋没状況：埋甕下位で確認された掘り込みは、ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物包含層（Va層）を掘り下げていったところ本埋甕が出土するに至っている。掘り下げ中には掘り込み等のプランは捉えることができなかつた。時期：縄文時代中期後葉加曾利E III式期と想定される。遺物：深鉢1点が逆位の状態で据えられている。

4. 土坑

SK - 1（第10図 / PL. 2）

位置：H 6 グリッド。形態：平面は橢円形を呈するものと推測される。断面は皿状を呈する。重複：SD - 7・P - 1と重複し、埋没土層の観察から本遺構はSD - 7より新しく、P - 1より古い。規模：[0.74] m × [0.37] m。残存深度：0.12 m。遺構埋没状況：As - A・黒褐色粘質土を含む灰黄褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層からAs - A層以下以

降と想定される。遺物：なし。

S K - 2 (井戸跡) (第 10 図 / P L. 2)

位置：K 3 グリッド。形態：平面は円形状、断面は箱状を呈するものと推測される。重複：P - 11 と重複し、埋没土層の観察から本遺構は P - 11 より新しい。規模：0.88 m × 0.82 m。残存深度：ピンポールによる触診から 1.13 m と想定される。遺構埋没状況：As - A・ローム粒・黒褐色粘質土を含む暗灰色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層から As - A 降下以降と想定される。遺物：なし。備考：調査当初、本遺構は土坑として名称を付したが、検出の過程で井戸として認識を改めた。

S K - 3 (第 11・18 図、第 12 表 / P L. 3・7)

位置：H 3 グリッド。形態：平面は不整円形状、断面は「U」字状を呈する。重複：重複は見られない。規模：1.22 m × 1.20 m。残存深度：0.40 m。遺構埋没状況：砂粒・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土上位より加曽利 E III 式期の深鉢底部が逆位の状態で出土している。時期：出土遺物から縄文時代中期後葉の加曽利 E III 式期と想定される。遺物：深鉢の出土が認められる。

S K - 4 (第 11 図 / P L. 3)

位置：J 3 グリッド。形態：平面は不整橢円形状、断面は袋状を呈する。重複：重複は見られない。規模：0.97 m × 0.81 m。残存深度：0.29 m。遺構埋没状況：ローム粒・白色軽石を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の状態から縄文時代と想定される。遺物：なし。

S K - 5 (第 11・18 図、第 13 表 / P L. 3・7)

位置：H 5 グリッド。形態：平面は円形ないし橢円形状、断面は「U」字状を呈する。重複：S D - 8 と重複し、埋没土の観察から本土坑は S D - 8 より古い。規模：1.88 m × [0.85] m。残存深度：0.39 m。遺構埋没状況：砂粒・ローム粒を含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土上位より縄文時代中期後葉の深鉢口縁部が出土している。時期：出土遺物から縄文時代中期後葉と想定される。遺物：深鉢の出土が認められる。

S K - 6 (第 11 図 / P L. 3)

位置：G 2 グリッド。形態：平面は橢円形状と想定され、断面は「U」字状を呈する。重複：重複は見られない。規模：1.32 m × [0.64] m。残存深度：0.51 m。遺構埋没状況：砂粒・ローム粒を含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：縄文時代中期中葉から後期前葉の包含層である V a 層を掘り込んでおり、埋没土上位に古墳時代後期の洪水層と想定される IV a 層が堆積することから、縄文時代後期後葉から古墳時代後期の期間に掘り込まれたものと想定される。遺物：なし。

5. 溝

SD - 1 (第4・12図 / PL. 3)

位置 : H 8 ~ I 8 グリッド。形態 : 西北西から東南東方向へ向けて走行する。B 区 1 号トレンチの西壁および南壁に接し、さらに延長するものと想定される。底面は東へ向かうにつれ標高を減ずる。重複 : SD - 3 と重複し、埋没土層の観察から、本溝は SD - 3 よりも古い。規模 : 上端幅 0.73 m ~ 0.45 m、下端幅 0.42 m ~ 0.18 m。残存深度 : 0.14 m。主軸方位 : N - 79° - W。遺構埋没状況 : As - A ・ 黄褐色粒・黒褐色粘質土を含む暗灰色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態 : 遺物の出土は見られない。時期 : 埋没土層の観察から As - A 降下以降と想定される。遺物 : なし。備考 : 近隣遺跡の状況や埋没土層の状態から本溝は畠の耕作溝の可能性を有するものである。また、走行方向や埋没土の状況から、本溝は SD - 6 と同一遺構の可能性を有する。

SD - 2 (第4・12図 / PL. 3)

位置 : H 8 ~ I 8 グリッド。形態 : 西北西から東南東方向へ向けて走行する。B 区 1 号トレンチの西壁に接し、さらに西側へ延長するものと想定される。底面は東へ向かうにつれ標高を減ずる。重複 : 重複は見られない。規模 : 上端幅 0.28 m ~ 0.20 m、下端幅 0.09 m ~ 0.06 m。残存深度 : 0.26 m。主軸方位 : N - 79° - W。遺構埋没状況 : As - A ・ 黄褐色粒・黒褐色粘質土・砂粒を含む灰黄褐色・黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態 : 遺物の出土は見られない。時期 : 埋没土層の観察から As - A 降下以降と想定される。遺物 : なし。備考 : 近隣遺跡の状況や埋没土層の状態から本溝は畠の耕作溝の可能性を有するものである。

SD - 3 (第4・12図 / PL. 3)

位置 : I 6 ~ I 8 グリッド。形態 : 南北方向へ向けて走行する。B 区 1 号トレンチの南壁およびB 区 2 号トレンチ北壁に接し、さらに南北へ延長するものと想定される。なお、図示はしなかったものの A 区 北壁においても同溝の断面が確認できている。底面は南へ向かうにつれ標高を減ずる。重複 : SD - 1 ・ SD - 5 と重複し、埋没土層の観察から本溝は重複する両溝より新しい。なお、断面図 F - F' では本溝は作り直しを 3 回行っている状況が捉えられている。規模 : 上端幅 1.02 m ~ 0.77 m、下端幅 0.77 m ~ 0.29 m。残存深度 : 0.52 m。主軸方位 : N - 8° - E。遺構埋没状況 : As - A ・ 黄褐色粒・黒褐色粘質土・砂粒を含む灰黄褐色・暗灰色・黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態 : 遺物の出土は見られない。時期 : 埋没土層の観察から As - A 降下以降と想定される。遺物 : なし。備考 : 現在、本溝と同部分に地割を示す溝が走行している。このため、本溝も As - A 降下以降から区画溝としての機能を果たしていたものと推測される。

SD - 4 (第4・13図 / PL. 3)

位置 : J 6 ~ J 8 グリッド。形態 : 北北東から南南西方向へ向けて走行する。B 区 1 号トレンチの南壁およびB 区 2 号トレンチ北壁に接し、さらに南北へ延長するものと想定される。底面は南へ向かうにつれ標高を減ずる。重複 : SD - 5 ・ SD - 6 と重複し、埋没土層の観察から本溝は重複する両溝より古い。なお、断面図 J - J' では本溝は作り直しを 2 回行っている状況が捉えられている。規模 : 上端幅 1.63 m ~ 0.96 m、

下端幅 1.22 m～0.82 m。残存深度：0.31 m。主軸方位：N - 16° - E。遺構埋没状況：Hr - FA 混水土・灰白色輕石（As - C ?）・黄褐色洪水土・黒褐色粘質土・ローム粒・砂粒を含む灰黄褐色・暗灰色・黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察から古墳時代後期から As - B 降下以前と想定される。遺物：なし。備考：近隣遺跡からの状況や埋没土中に流水の痕跡が認められることから、用水路としての機能を果たしていたものと推測される。

SD - 5 (第4・13図 / PL. 3)

位置：I 8～L 8 グリッド。形態：西南西から東北東方向へ向けて走行する。B 区 1 号トレンチの北および東壁に接し、さらに東北東側へ延長するものと想定される。底面は東へ向かうにつれ標高を減ずる。重複：SD - 3・SD - 4 と重複し、埋没土層の観察から本溝は SD - 4 より新しく、SD - 5 より古い。規模：上端幅 [0.19] m、下端幅 [0.15] m。残存深度：0.37 m。主軸方位：N - 85° - E。遺構埋没状況：As - A・As - B・黄褐色粒・黒褐色粘質土を含む灰黄褐色・暗灰色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察から As - A 降下以降と想定される。遺物：なし。備考：近隣遺跡の状況や埋没土層の状態から本溝は畠の耕作溝の可能性を有するものである。

SD - 6 (第4・13図 / PL. 3)

位置：J 8～L 8 グリッド。形態：西南西から東北東方向へ向けて走行する。B 区 1 号トレンチの北および南壁に接し、さらに西南西および東北東側へ延長するものと想定される。底面は東へ向かうにつれ標高を減ずる。重複：SD - 4 と重複し、埋没土層の観察から本溝は SD - 4 より新しい。なお、断面図 N - N' では本溝は作り直しを 2 回行っている状況が捉えられている。規模：上端幅 0.73 m～0.65 m、下端幅 0.31 m～0.16 m。残存深度：0.42 m。主軸方位：N - 83° - E。遺構埋没状況：As - A・黄褐色粒・黒褐色粘質土・炭化物を含む灰黄褐色を主体とした土による埋没と想定される。本溝の掘り込みは 3 段階に分けて行われており、最新段階は自然埋没、その他の段階は人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察から As - A 降下以降と想定される。遺物：なし。備考：近隣遺跡の状況や埋没土層の状態から本溝は畠の耕作溝の可能性を有するものである。また、走行方向や埋没土の状況から、本溝は SD - 1 と同一遺構の可能性を有する。

SD - 7 (第4・14図 / PL. 3)

位置：I 6 グリッド。形態：東西方向へ向けて走行する。B 区 2 号トレンチの南壁に接し、さらに東南東側へ延長するものと想定される。底面は西へ向かうにつれ標高を減ずる。重複：SK - 1 と重複し、埋没土層の観察から本溝は SK - 1 より古い。規模：上端幅 [0.28] m～0.14 m、下端幅 0.14 m～0.11 m。残存深度：0.13 m。主軸方位：N - 89° - E。遺構埋没状況：As - A・黒褐色粘質土を含む灰黄褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察から As - A 降下以降と想定される。遺物：なし。備考：近隣遺跡の状況や埋没土層の状態から本溝は畠の耕作溝の可能性を有するものである。

SD - 8 (第4・14・18図、第15表 / PL. 3・7)

位置：E 5～L 5～L 4 グリッド。形態：A 区 南壁に沿って東西方向に走行し、同区南東端で北方向へ折れる。

A区東・西・南壁に接し、東西方向へ走行する部分は西へ、南北方向へ走行する部分は北へ延びるものと想定される。底面は東側がやや低い傾向にあるが、ほぼ平坦な状態と言える。重複：4号配石・SK-5・SD-9と重複し、埋没土層の観察から本溝は重複するいずれの遺構よりも新しい。なお、本溝は作り替えがなされており、新しい段階をSD-8a、古い段階をSD-8bとしている。規模：上端幅2.46m～2.26m、下端幅1.27m～0.47m。残存深度：0.62m。主軸方位：東西方向がN-89°-W、南北方向がN-14°-E。遺構埋没状況：SD-8aがAs-A・黒褐色粘質土・黄褐色粒を含む暗灰色を主体とした土による人為埋没、SD-8bがAs-A・砂粒・ローム粒・ロームブロックを含む暗灰色を主体とした洪水起源の土による自然埋没と想定される。なお、埋没土中からは土壘の崩落を示すような堆積は見られなかった。SD-8b溝の埋没が短期間であったためか、土壘自体が存在していなかった2通りの可能性が指摘できる。遺物出土状態：遺物の出土はほとんど見られないが、南東コーナーの埋没土中位から砥石・不明石製品の出土が認められる。時期：埋没土層の観察からAs-A降下以降と想定される。遺物：砥石・不明石製品。備考：溝の形状から館の堀と推測される。なお、本溝は現在の地割に沿った状態で確認されている。

SD-9b（第4・14図 / PL. 4）

位置：L2～L5グリッド。形態：北北東から南南西方向へ向けて走行する。A区東壁に接し、北北東方向へ延びるものと想定される。なお、本溝は調査対象面の関係上、SD-8との重複部分で途切れているが、さらに南へ向けて延びていたものと推測される。底面は北側へ向けて標高を減ずる。重複：SD-8・P-2・P-3と重複し、埋没土層の観察から本溝は重複するいずれの遺構よりも古い。規模：上端幅0.44m～0.35m、下端幅0.34m～0.27m。残存深度：0.18m。主軸方位：N-10°-E。遺構埋没状況：As-B・黒褐色粘質土を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。底面付近の埋没土には鉄分の沈着が認められ、流水があったものと考えられる。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察からAs-B降下以降からAs-A降下以前に帰属するものと想定される。遺物：なし。備考：近隣遺跡からの状況や埋没土中に流水の痕跡が認められることから、用水路としての機能を果たしていたものと推測される。SD-10の断面において、本溝上位にもさらに溝状の断面が確認されており、これをSD-9aとして捉えている。同溝は埋没土中にAs-A・砂粒を主に含みAs-A降下以降に帰属するものと想定される。

SD-10（第4・14図）

位置：L3グリッド。形態：A区北壁の断面でのみ確認。断面形状は逆台形状を呈する。重複：重複は見られない。規模：上端幅1.93m以上、下端幅1.48m以上。残存深度：0.53m。主軸方位：不明。遺構埋没状況：As-A・黄褐色粒・砂粒を含む暗灰色および暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。底面付近の埋没土には鉄分の沈着・砂粒の堆積が認められ、流水があったものと考えられる。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察からAs-A降下以降と想定される。遺物：なし。備考：近隣遺跡からの状況や埋没土中に流水の痕跡が認められることから、用水路としての機能を果たしていたものと推測される。

SD-11（第4・14図 / PL. 4）

位置：A2～C1グリッド。形態：西南西から東北東方向へ向けて走行する。C区東西壁に接し、両方向へ延びるものと想定される。底面は凸凹で一定の高低差を持たない。重複：噴砂痕と重複し、埋没土層の観察から本溝は噴砂痕よりも古い。規模：上端幅0.34m～0.15m、下端幅0.16m～0.04m。残存深度：0.13m。

主軸方位：N - 84° - E。遺構埋没状況：As - Cを含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の観察からAs - C降下以降からAs - B降下以前に帰属するものと想定される。遺物：なし。備考：本溝が低地に位置することや近隣遺跡での用水路検出例から、C痕水田の疑似畦畔である可能性が指摘される。

6. ピット

ピットは13基確認されており、このうちP - 1がB区2号トレンチ内、その他はA区で確認されている。確認されているピットのうちP - 4～13は縄文時代に比定されるものであるが、P - 1～3は近世以降に帰属するものと考えられる。縄文時代に帰属するP - 4～13は、敷石住居の張り出し部である可能性を含む1号配石付近に集中することから、住居に伴う柱穴の可能性を有するものと言えよう。また、P - 2・3は覆土中に多量の礫が詰め込まれており、さらに近世以降の堀跡であるSD - 8と並走する状態で確認されていることから、同堀に伴う建物の柱穴と推測できるものである。

以下、第4表に検出されたピットの詳細を記す。

遺構名	位置	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	埋没土の特徴	時期・備考
P - 1	H 6	0.36 × 0.31	0.14	楕円形	なし	砂粒・黒褐色粘質土含む灰黄褐色土	As-A 降下以降
P - 2	L 4	0.66 × 0.34	0.10	不整楕円形	なし	As-A・礫含む暗灰色土	As-A 降下以降、栗石を入れた柱穴
P - 3	L 4	0.51 × 0.46	0.14	不整楕円形	なし	As-A・礫含む暗灰色土	As-A 降下以降、栗石を入れた柱穴
P - 4	K 3	0.42 × 0.39	0.21	円形	なし	ローム粒含む黒褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 5	K 3	0.49 × 0.42	0.15	不整円形	なし	ローム粒含む黒褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 6	K 3	0.45 × 0.38	0.30	楕円形	なし	ローム粒含む暗褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 7	K 3	0.50 × 0.45	0.21	円形	なし	ローム粒含む黒褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 8	J 3	0.54 × [0.29]	0.19	円形？	なし	ローム粒含む黒褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱痕残る
P - 9	K 3	0.69 × 0.40	0.16	楕円形	なし	ローム粒含む黒褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 10	K 3	0.41 × 0.32	0.16	不整楕円形	なし	ローム粒含む暗褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 11	K 3	0.41 × [0.32]	0.15	楕円形？	なし	ローム粒含む黒褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 12	K 3	0.38 × 0.30	0.26	楕円形	なし	ローム粒含む暗褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱穴？
P - 13	K 3	0.32 × 0.31	0.19	円形	なし	ローム粒含む暗褐色土	縄文時代中期中葉～後期前葉、柱痕残る

第4表 ピット計測表

7. 地震痕

C区においてのみ噴砂が確認されており、地震によるものと想定される。本地震痕が確認されているC区は本遺跡内で唯一谷地形に位置しており、液状化現象を起こしやすい場所であったため、噴砂の噴出が顕著となったのであろう。噴砂は北西～南東方向に走行する傾向にあり、As - Cの混土層であるIV d層を貫く状況が捉えられている。噴砂自体は、砂粒・水成堆積によるものと考えられるローム土によって構成されている。また、As - AおよびAs - Bを含むIII a層に切られる状況も確認されているため、噴砂の時期はAs - C降下以降からAs - A降下以前に求められよう。この間の液状化現象を起こすような大地震は、『類聚国史』に書かれている818年（弘仁9年）7月の地震のみであるが、記録されていない事例も十分あり得るため、詳細時期の言及は避けることとする。

8. 包含層

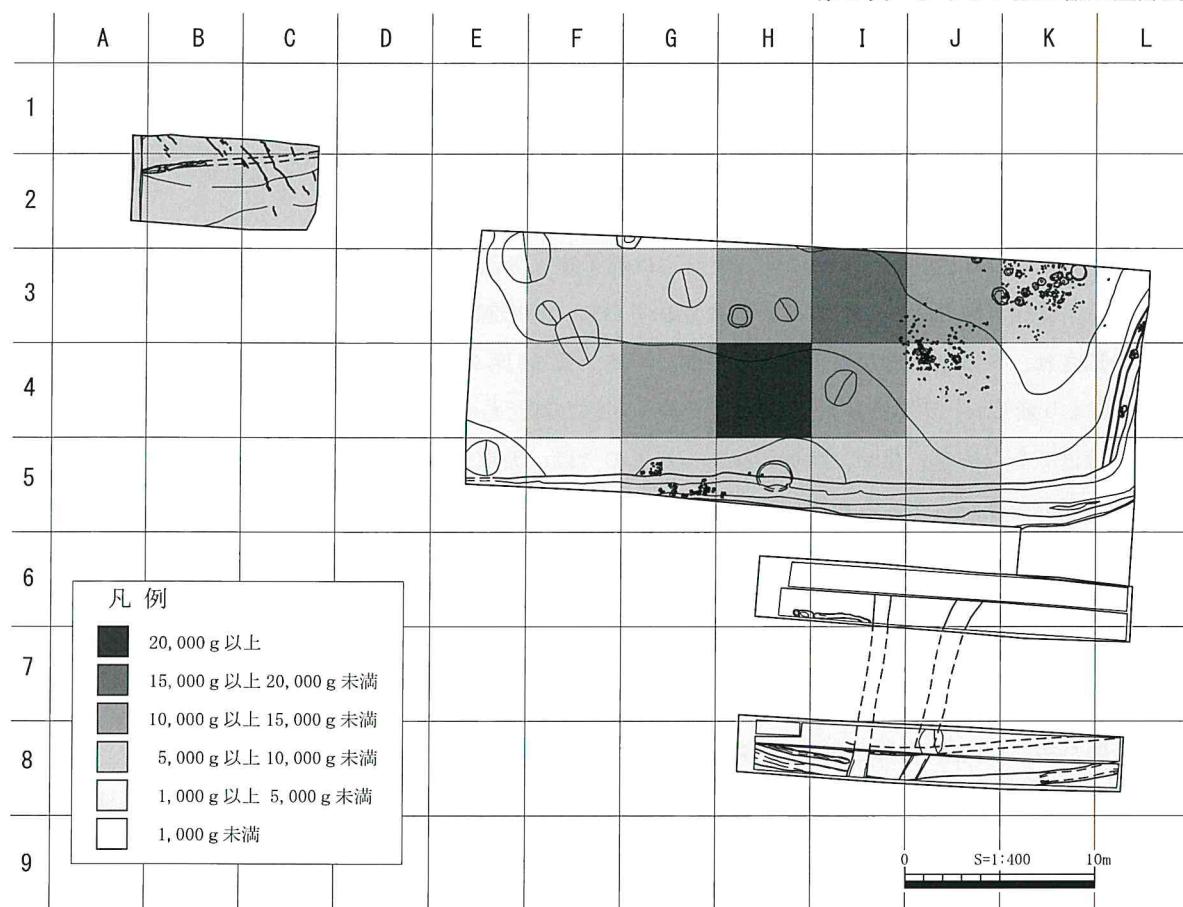
遺物包含層の調査は主にA・C区で行った。なお、A区ではV a層、C区ではV b層を遺物包含層として

捉えている。両包含層とも出土遺物は縄文時代中期後葉から後期前葉までの遺物が時期を途絶えず、出土量の多少はあるものの連綿と出土する傾向にある。包含層中からの遺物出土状況は近接してなおかつ、同レベルで出土する遺物であるにも関わらず、同一個体である割合が低く、さらに帰属時期も様々であった。このような状況から、本包含層の認識として弥生時代以降の搅拌も考慮したが、該期以降の遺物混入は認められなかった。また、本包含層の土壤に関しては、C区のV b層には砂粒が含まれるもの、A区のV a層には砂粒は含まれず水成堆積を基本としているとは言い難い。

現時点において、本包含層の生成については不明瞭な部分が多くあるが、本包含層の生成が水成堆積ではないことや遺物の出土状況から、人為的な搅拌によるものの可能性が高いと考えられる。搅拌の時期についても不明瞭な点があるが、弥生時代以降の搅拌と縄文時代の搅拌との2通りが想定できる。弥生時代以降の搅拌である場合は、当然ながら水田・畠等の生産に伴うものである可能性が高いため、遺物の出土が見られないものも推測できるものである。また、縄文時代の搅拌の場合、該期は基本的に食物の生産は行っていないことからも、耕作とは考え難いため、本包含層自体が盛土として捉えるのが妥当なのかもしれない。

出土位置	重量(g)
E 3 グリッド	1,550
E 4 グリッド	2,300
E 5 グリッド	2,800
F 2 グリッド	1,250
F 3 グリッド	6,200
F 4 グリッド	6,350
F 5 グリッド	2,300
G 2 グリッド	750
G 3 グリッド	6,700
G 4 グリッド	13,150
G 5 グリッド	6,700
H 2 グリッド	1,850
H 3 グリッド	11,950
H 4 グリッド	35,800
H 5 グリッド	7,850
I 2 グリッド	1,850
I 3 グリッド	18,700
I 4 グリッド	14,100
I 5 グリッド	5,500
J 3 グリッド	10,950
J 4 グリッド	9,350
J 5 グリッド	5,700
K 3 グリッド	7,950
K 4 グリッド	2,400
K 5 グリッド	1,800
K 6 グリッド	250
L 3 グリッド	250
L 4 グリッド	1,000
L 5 グリッド	800
L 6 グリッド	750
A区基本層序V層一括	4,850
B区1号トレンチ	2,280
B区2号トレンチ	800
C区基本層序V層一括	5,650
表掲	2,050
総重量(g)	204,480

第5表 グリッド別土器重量計測表



第5図 縄文土器重量別分布図

遺物包含層出土土器の概要

本調査区では包含層中より総重量 204,480 g を量る縄文土器が出土している。グリッド毎の出土量については第4表に示した。出土土器の帰属時期は縄文中期中葉（勝坂式期）、中期後葉（加曽利E式期）、後期初頭（称名寺式期）、後期前葉（堀之内式期）である。詳細に型式分類したわけではないが傾向として中期後葉が最も多く、次いで後期初頭、後期前葉、中期中葉の順となる。中期後葉の内訳は加曽利E II～III式が大半を占め、次いで加曽利E I式、加曽利E IV式と続くが両段階は加曽利E II～III式に比べると出土量は貧弱である。後期初頭は中期後葉に次ぐ出土量であるが、その量は半数以下である。内訳は称名寺I・II式とともにほぼ同等の割合で出土しているように見受けられる。また同時期で信濃川流域や阿賀野川流域に分布の中心を持つ三十稻場式が本調査区では1点確認されている（第23図67）。後期前葉では堀之内1式は鉢形土器が少量みられるのみで、堀之内2式が主体的である。堀之内2式でも中段階以降のものが多く、いわゆる朝顔形深鉢や体部屈曲鉢が主体を占め、その中に注口土器が少量認められている。

遺物包含層出土石器の概要

包含層からは石器 183 点（17,693.4 g）が出土している（第5表）。各石器の分布状態をみると、A区中央のG 4・H 3・H 4・I 3グリッドから多く出土しており縄文土器と同様の出土分布を示している。器種別では、打製石斧・スクレイパー・リタッヂドフレイク・楔形石器・剥片・石核・磨石類（磨石・凹石）・石皿・敲石・砥石・台石・多孔石・棒状礫・扁平礫・原石が出土しており、打製石斧（29%）・剥片（28%）が半数以上を占め、スクレイパー（10%）・リタッヂドフレイク（7%）といった打製石器系が主体的である（74%）。なお、石鎌・石錐・石匙・磨製石斧・石製品などは検出されなかった。器種別の分布状態については、石器総数の出土量が少ないとても大差はなかったが、H 4グリッドでは打製石斧がやや多い傾向が認められた。

石材別では、黒曜石・チャート・黒色安山岩・デイサイト・頁岩・砂岩・安山岩・流紋岩・凝灰岩・粘板岩・ホルンフェルス・片岩・緑色岩類・石英が認められ、遺跡周辺の河川で採取することが容易な頁岩が多用されている。

打製石斧（第24図90～94、第25図95）素材には扁平礫・分割礫・剥片などが使用されており、分割礫が多用される。直接打撃によって調整加工が施されており、各形態により撥形・短冊形・分銅形の3形態に大まかに分類され、8割以上が短冊形に加工されている。第24図90・93・94には、刃部周辺に連続する剥離痕（摩耗痕より新しい）が認められており、刃部再生が行われたものと考えられる。使用石材は選択性が高く、頁岩が半数近くを占める。なお、図示しなかったものでは、刃部や基部が大きく欠損しているものが大半を占め、使用頻度が高かったことを窺わせる。また、約3割の個体に被熱による変色や破碎痕などが認められている。

スクレイパー（第25図96～100）素材には扁平礫・分割礫・剥片などが使用されており、剥片が多用される。刃部は直接打撃により片面・両面加工が施されるもの、使用痕とみられる微細剥離痕のみが認められるものとに分類される。形態については、素材の形状をほとんど変化させず、刃部として利用する範囲のみ加工しているものが多い。使用石材は打斧と同様に選択性が高く、頁岩・黒色安山岩などが主体である。

リタッヂドフレイク 素材に施される加工が縁辺の1／3以下のもの、加工痕や微細剥離痕が不連続なものとスクレイパーと区別している。

楔形石器 両極端部に直接打撃による剥離痕が認められ、小型石器（石鎌）の素材に想定されている。

石核（第25図101）礫皮が残存する小型角錐状を呈し、作業面を転移しながら多方向の剥片剥離が施されて

いる。縁辺部の一部には微細剥離痕が認められており、スクレイパーの可能性も考えられる。図示しなかつた2点は剥片剥離痕に連続性が認められず、自然の割れあるいは試し割り程度の痕跡と考えられる。

磨石類（第25図102、第26図103、104）11点すべてが安山岩製の自然礫を使用し、形態は円形・橢円形などが主体である。使用痕には摩耗痕・敲打痕などが認められるが、6点は摩耗痕のみである。また、敲打痕が認められる5点のうち、凹穴を形成しているものは3点である。それらの使用痕の新旧関係を観察すると、摩耗痕→敲打痕という関係が認められる。5点に被熱の痕跡が認められ、4点は折損した小破片である。

石皿（第26図105・106）安山岩製・砂岩製の板状礫を素材とし片面が擂鉢状に浅く窪む皿面を有する。裏面は平滑しており漏斗状や敲打による凹穴が多数認められる。全体に大きく折損しており、第26図106は被熱による変色が認められる。

敲石 真岩製の小型棒状礫の両端部に小さな剥離痕が認められる。

砥石 砂岩製の扁平礫に2面の砥面を有する。砥面は摩耗により平滑している。

台石 板状礫の片面や両面に平滑面・敲打痕が認められる。8点すべてが小破片であり、そのうち5点に被熱の痕跡が認められる。石材は安山岩が多用されている。

多孔石（第26図107）安山岩製の板状礫を素材とし、両面に漏斗状や敲打による凹穴が多数認められるが、摩耗痕はほとんど認められない。いずれも欠損しており、1点に被熱による変色の痕跡が認められる。

棒状礫（第26図108）棒状の自然礫であり人為的な加工痕は認められない。半数以上が欠損している。石材は片岩・緑色岩類といった特定の石材である。

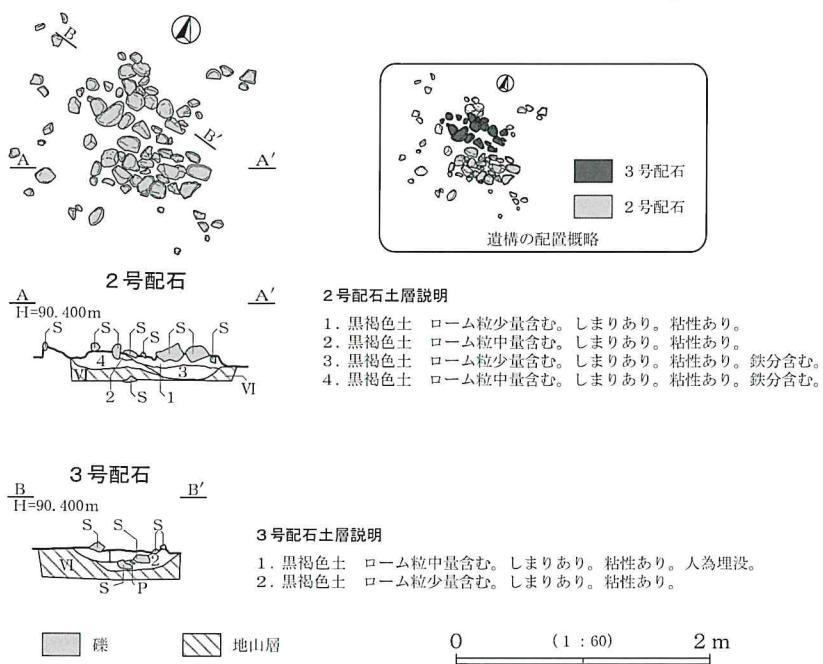
扁平礫 扁平な自然礫であり人為的な加工痕は認められないものが大半を占めるが、緑色岩類製の1点に周縁や端部に微細な剥離痕が僅かに認められる。石材は緑色岩類や安山岩が大半を占める。

第6表 遺構外出土石器組成表（点数）

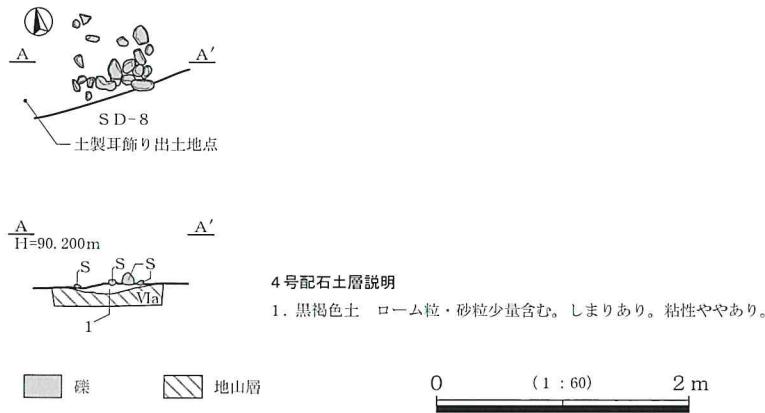
	黒曜石	チャート	黒色安山岩	デイサイト	真岩	砂岩	安山岩	流紋岩	凝灰岩	粘板岩	ホルンフェルス	片岩	緑色岩類	石英	合計
打製石斧			3	1	27	3	2	7	11		4				58
スクレイパー	1		4		8	1		1			1	1	1		18
リタッヂドフレイク			4		7		1	1	2		1		1		17
楔形石器			2												2
磨石類							11								11
石皿						1	1								2
敲石					1										1
砥石						1									1
台石						1	5	1	1						8
多孔石							2								2
棒状礫							1					5	1		7
扁平礫							3		1	1		1	3		9
剥片	5		6		28	2	3	1	1		8	1	1		56
石核		1			2										3
原石	2												1	3	
合計	8	1	19	1	73	9	29	11	16	1	14	8	7	1	198



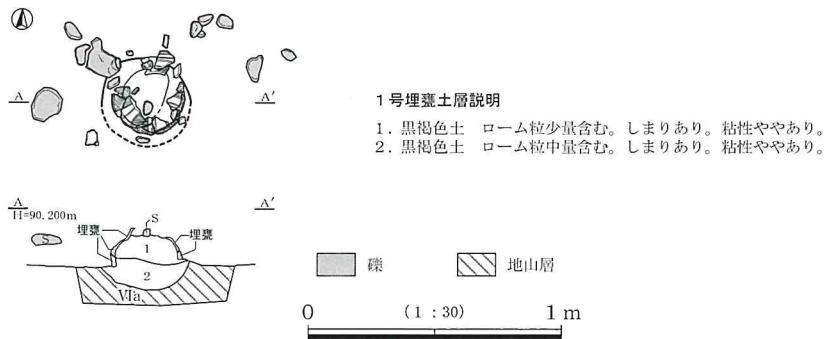
第6図 1号配石



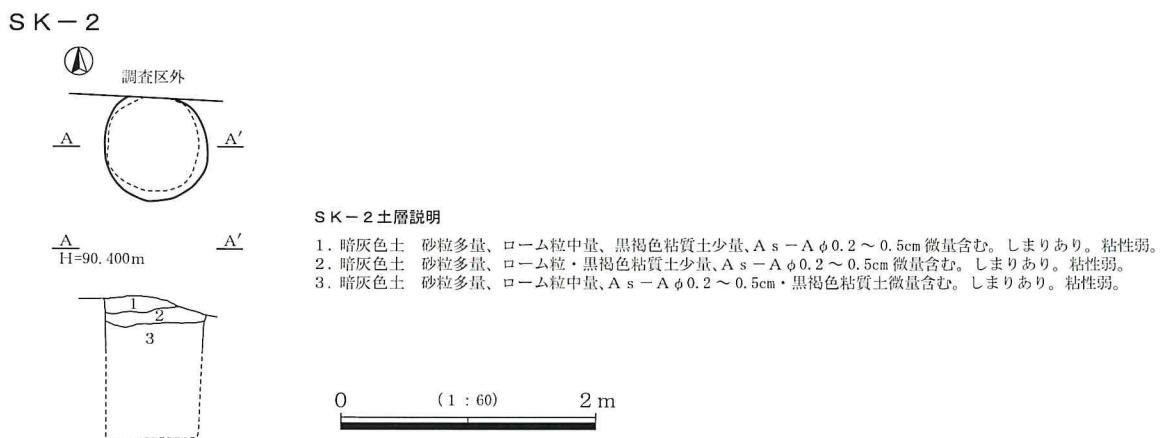
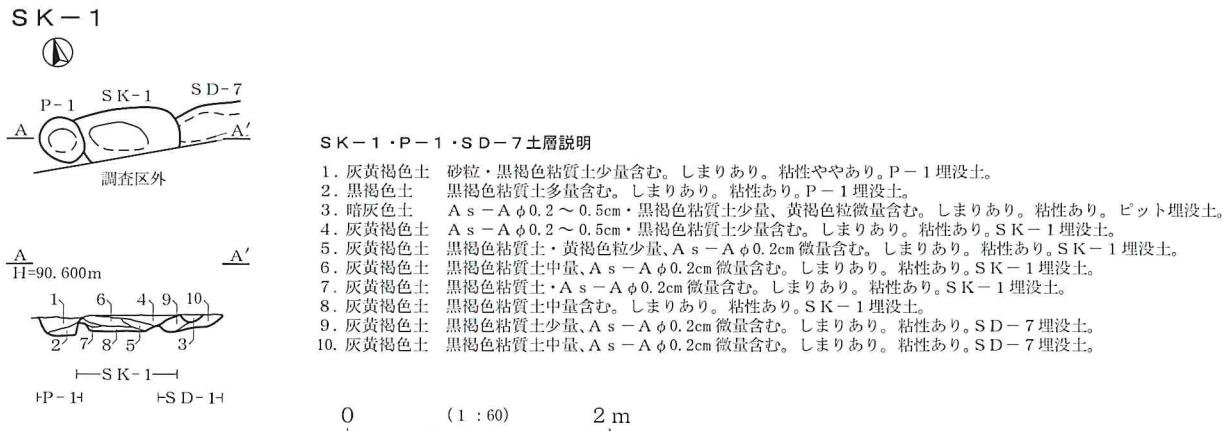
第7図 2・3号配石



第8図 4号配石

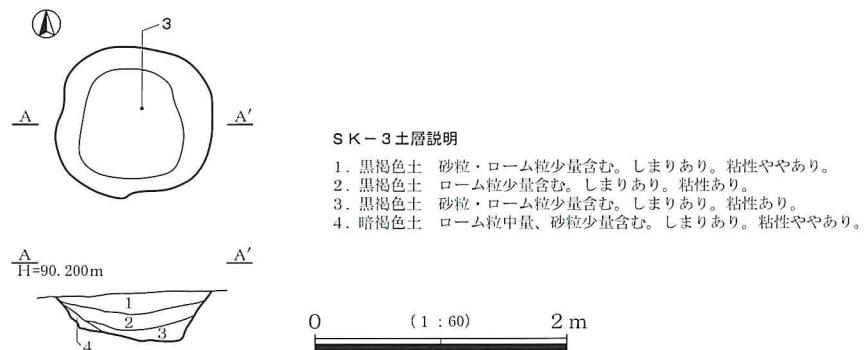


第9図 1号埋甕

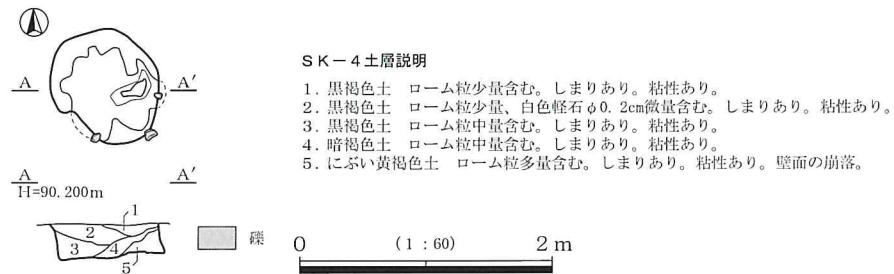


第10図 土坑(1)

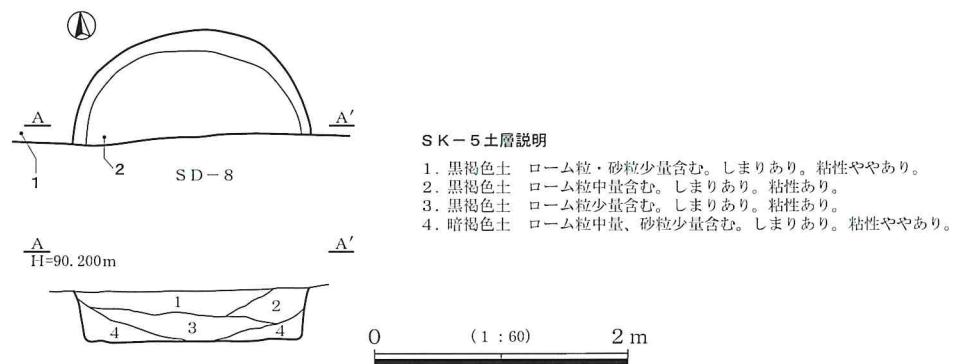
SK-3



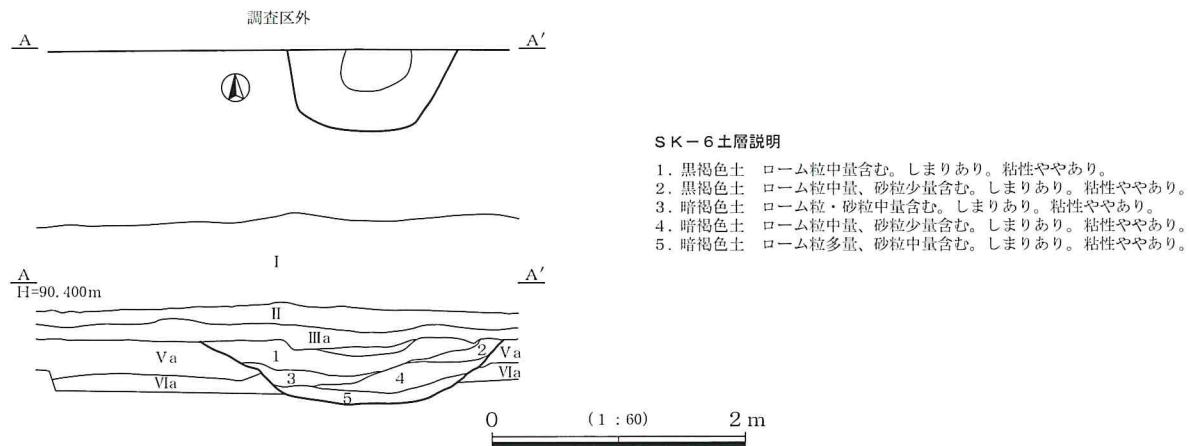
SK-4



SK-5

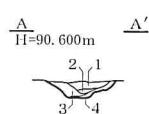


SK-6



第11図 土坑(2)

SD-1



SD-1 A-A' 土層説明

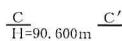
1. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2cm 少量、黄褐色粘質土微量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2cm 中量含む。しまりややあり。粘性弱。
3. 暗灰色土 黒褐色粘質土少量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黒褐色土 黒褐色粘質土少量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性あり。

SD-1 B-B' 土層説明

1. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2cm・黒褐色粘質土少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2cm 中量、黒褐色粘質土少量、黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 黒色粘質土中量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 暗灰色土 黑色粘質土少量含む。しまりあり。粘性あり。

0 (1 : 60) 2 m

SD-2



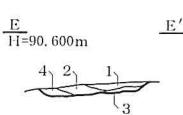
SD-2 土層説明

1. 灰黄褐色土 黑色粘質土少量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色土微量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 黑褐色土 砂粒・黒褐色粘質土中量、黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。



0 (1 : 60) 2 m

SD-3



0 (1 : 60) 2 m

SD-3 E-E' 土層説明

1. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2cm・黒褐色粘質土少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2cm・黒褐色粘質土少量、黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 暗灰色土 黒褐色粘質土・A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黑褐色土 黑褐色粘質土多量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性あり。

SD-3 F-F' 土層説明

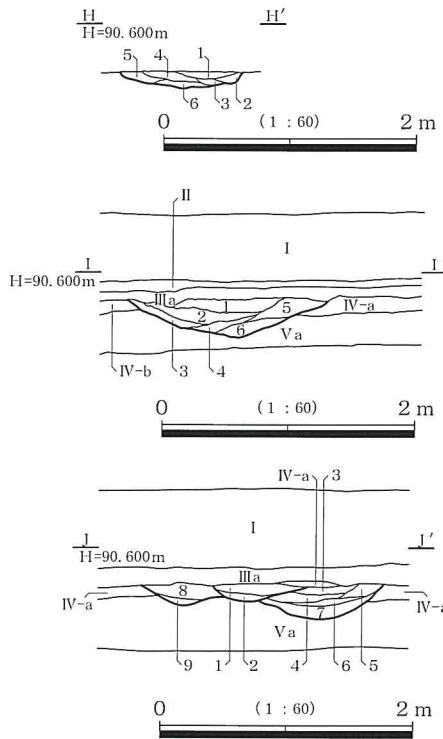
1. 暗灰色土 A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黒褐色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 灰黄褐色土 A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 灰黄褐色土 A s - A ϕ 0.2cm・黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 灰黄褐色土 黑褐色粘質土中量、A s - A ϕ 0.2cm 少量、黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 黑褐色土 黑褐色粘質土多量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
6. 灰黄褐色土 黑褐色粘質土中量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
7. 暗褐色土 黑褐色粘質土中量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黑褐色土 黑褐色粘質土多量、黄褐色粒中量、A s - A ϕ 0.2cm 少量含む。しまりあり。粘性あり。

SD-3 G-G' 土層説明

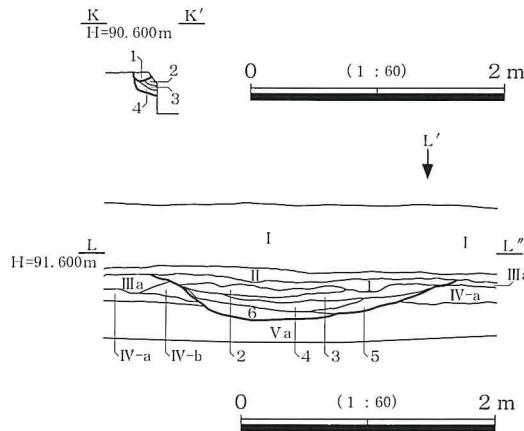
1. 灰黄褐色土 A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黒褐色粘質土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 灰黄褐色土 A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm・黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 灰黄褐色土 黑褐色粘質土中量、A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 少量、黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 灰黄褐色土 黑褐色粘質土中量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 暗褐色土 A s - A ϕ 0.2cm・黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
6. 黑褐色土 黑褐色粘質土多量、A s - A ϕ 0.2cm・黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
7. 灰黄褐色土 A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm・砂粒中量、黒褐色粘質土・黄褐色粒少量含む。しまりあり。粘性あり。

第12図 溝(1)

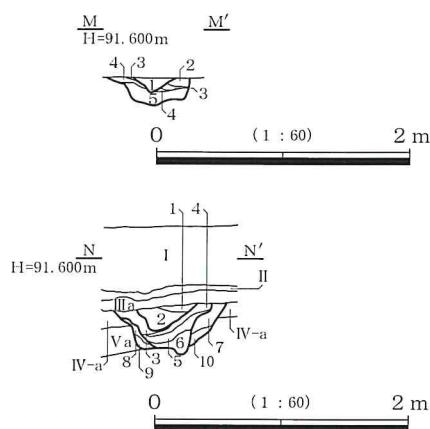
SD-4



SD-5

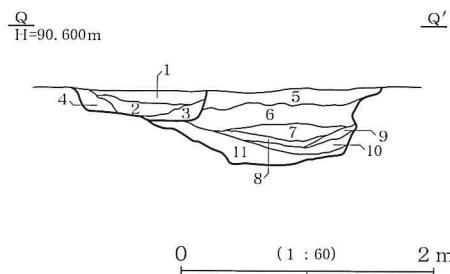


SD-6



第13図 溝(2)

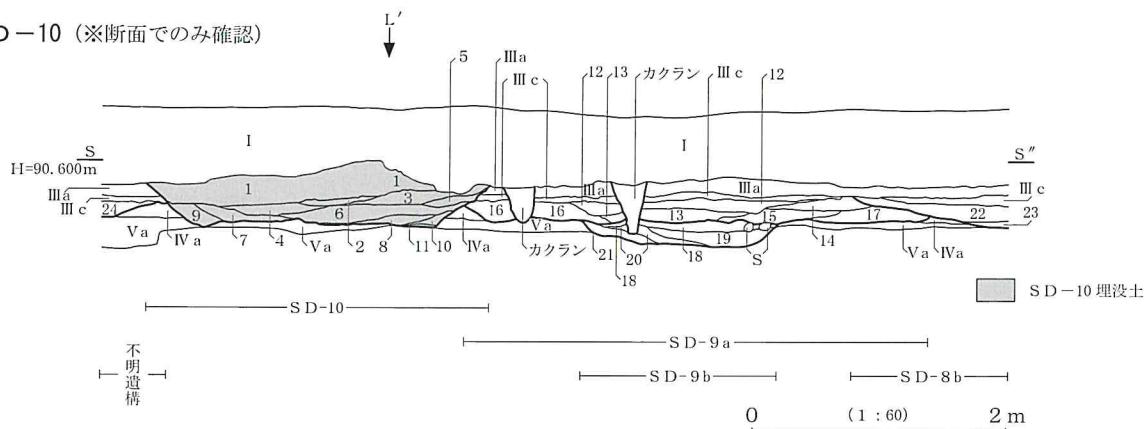
S D - 8



SD-8 土層説明

- 暗灰色土 砂粒多量、黒褐色粘質土少量、A s - A ϕ 0.2cm・黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性弱。(SD-8a 人為埋没)
 - 暗灰色土 砂粒・黒褐色粘質土中量、A s - B ϕ 0.2cm・黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性弱。(SD-8 人為埋没)
 - 暗灰色土 砂粒中量、黒褐色粘質土・黄褐色色粒少量、A s - B ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性弱。(SD-8a 人為埋没)
 - 暗灰色土 砂粒・黒褐色粘質土中量、黄褐色粒微量含む。しまりあり。粘性弱。(SD-8a 人為埋没)
 - 暗灰色土 砂粒多量、A s - A ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性なし。(SD-8b 洪水による埋没)
 - 灰白色土 細砂粒多量、A s - B ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性なし。(SD-8b 洪水による埋没)
 - 暗灰色土 砂粒多量、A s - B ϕ 0.2cm・炭化粒・黒褐色粒微量含む。しまりあり。粘性なし。(SD-8b 洪水による埋没)
 - 暗灰色土 砂粒多量、A s - B ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性なし。鉄分の沈着顕著。(SD-8b 洪水による埋没)
 - 暗灰色土 砂粒中量、ローム粒少量、A s - A ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。(SD-8b 洪水による埋没)
 - 暗灰色土 細砂粒中量、ロームブロックφ 1.0cm 少量、A s - B ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。(SD-8b 洪水による埋没)
 - 暗灰色土 砂粒中量・ロームブロックφ 1.0cm 少量、A s - A ϕ 0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。(SD-8b 洪水による埋没)

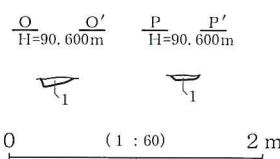
SD-10 (※断面でのみ確認)



SD-10 土層説明

- | | | | |
|-------------|---|-----------|--|
| 1. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 少量、炭化物微量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 13. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黄褐色粒少量、黒褐色粘質土微量含む。
しまりあり。粘性ややあり。(SD-9a) |
| 2. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm、黄褐色粒少量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 14. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黄褐色粒少量、黒褐色粘質土微量含む。
しまりあり。粘性ややあり。(SD-9a) |
| 3. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 少量、炭化物、小礫 ϕ 1.0cm
微量含む。しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 15. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黒褐色粘質土、黄褐色粒微量含む。
しまりあり。粘性ややあり。(SD-9a) |
| 4. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm、黄褐色粒中量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 16. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 砂粒中量、黄褐色粒少量、黒褐色粘質土
微量含む。しまりあり。粘性ややあり。(SD-9a) |
| 5. 暗灰色土 | 黄褐色粒中量、A s - A ϕ 0.2cm 少量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 17. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黄褐色粒微量含む。
しまりあり。粘性ややあり。(SD-9a) |
| 6. 暗褐色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黄褐色粒微量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 18. 黑褐色土 | 砂粒、A s - B ϕ 0.2cm 多量、ローム粒微量含む。
しまりあり。粘性なし。(SD-9b) |
| 7. 暗灰色土 | 黄褐色粒中量、A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 少量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 19. 灰黄褐色土 | A s - A ϕ 0.2cm、砂粒、ローム粒少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。(SD-9b) |
| 8. 暗褐色土 | A s - A ϕ 0.2cm 少量、炭化物微量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 20. 灰黄褐色土 | A s - B ϕ 0.2cm、砂粒中量、ローム粒少量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-9b) |
| 9. 暗褐色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm 中量、黄褐色粒微量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 21. 暗褐色土 | 砂粒、ローム粒少量含む。
しまりあり。粘性ややあり。(SD-9b) |
| 10. 黑褐色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm、ローム粒少量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-10) | 22. 暗灰色土 | 砂粒中量、A s - B ϕ 0.2cm、黄褐色粒少量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-9b) |
| 11. にぶい黄褐色土 | 砂粒多量、A s - A ϕ 0.2cm 少量含む。しまりあり。
粘性なし。鉄分の沈着が認められる。(SD-10) | 23. 暗灰色土 | 砂粒少量、A s - B ϕ 0.2cm 微量含む。
しまりあり。粘性やや弱。(SD-9b) |
| 12. 暗灰色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm、黒褐色粘質土、黄褐色粒
少量含む。しまりあり。粘性やや弱。(SD-9a) | 24. 暗褐色土 | A s - A ϕ 0.2 ~ 0.5cm、黄褐色粒、黒褐色粒、黒色土
少量含む。しまりあり。粘性や。 |

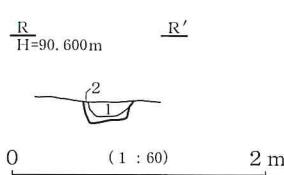
SD-7



卷之三

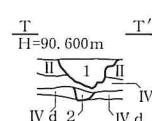
- A s - A ϕ 0.2cm 微量含む。

SD = 9



1. 暗褐色土 A s - B ϕ 0.2cm 多量、黒褐色粘質土少量含む。しまりあり。粘性弱。
 2. 黒褐色土 V層に鉄分の沈着が含まれる層。しまりあり。粘性ややあり。

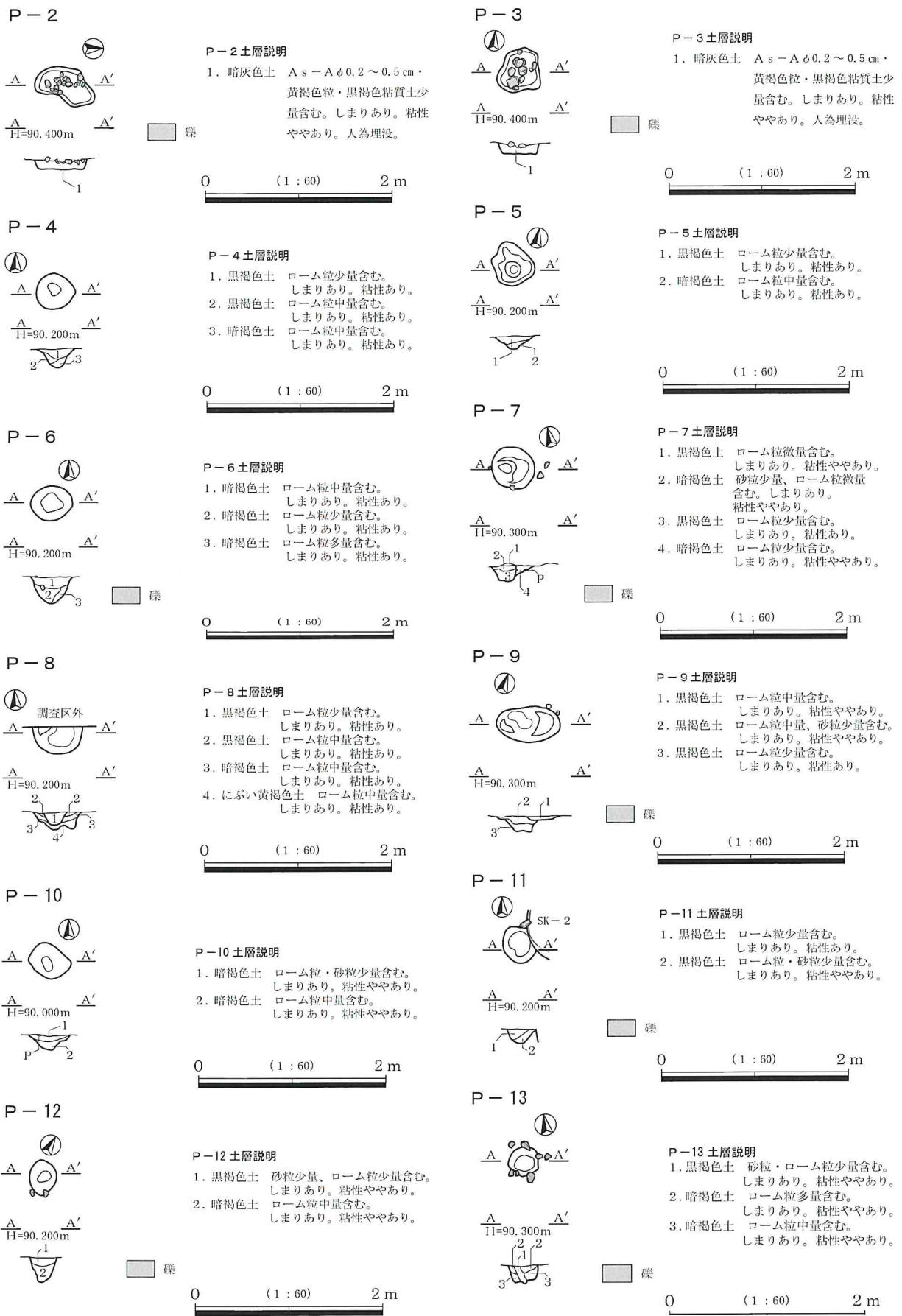
SD-11



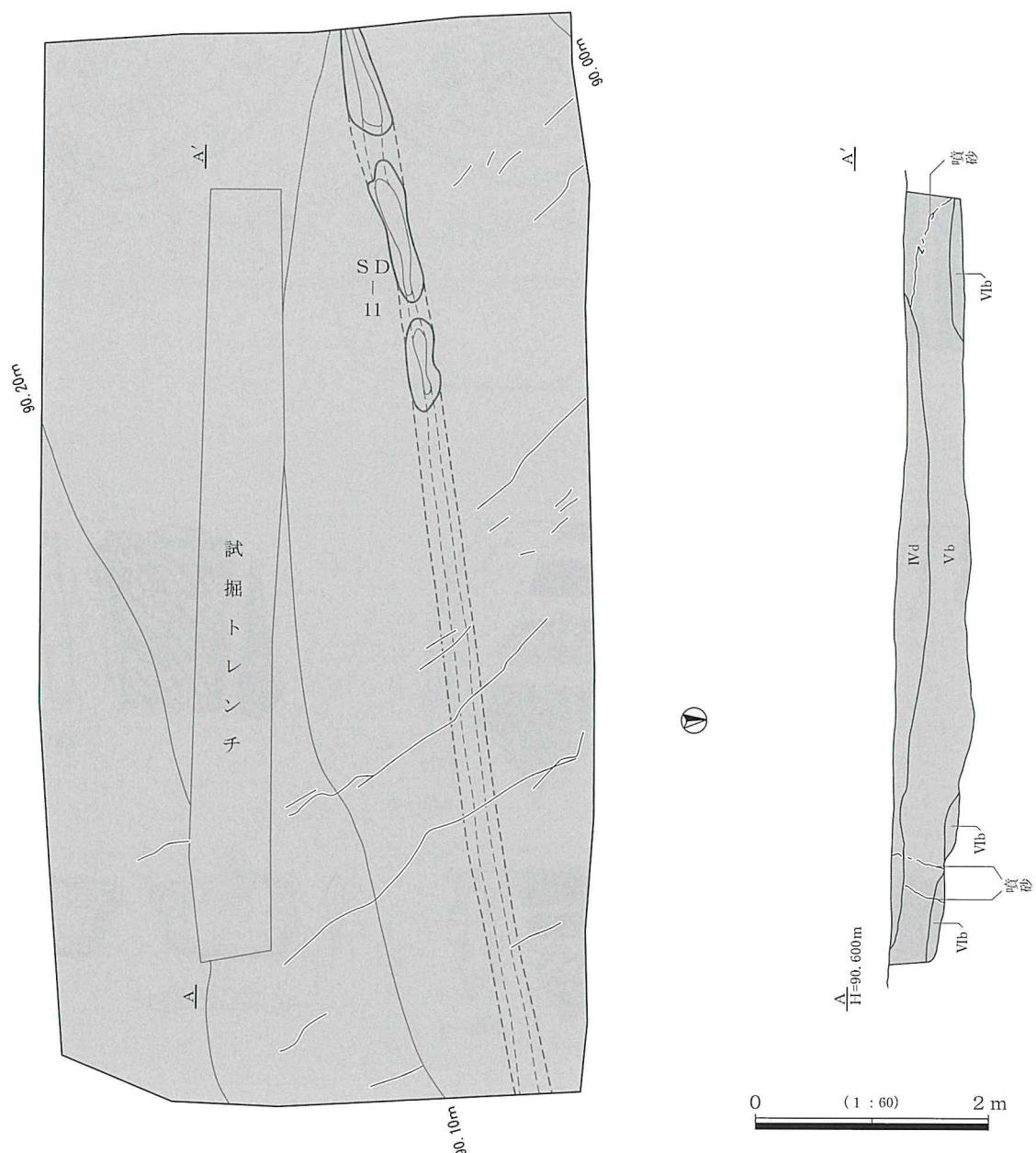
S.D.=11 ± 屬說明

1. 灰黄褐色土 A s - A ϕ 0.5cm・黑色
粘質土ブロック ϕ 0.5 ~
1.0cm 少量含む。しまり
あり。粘性ややあり。

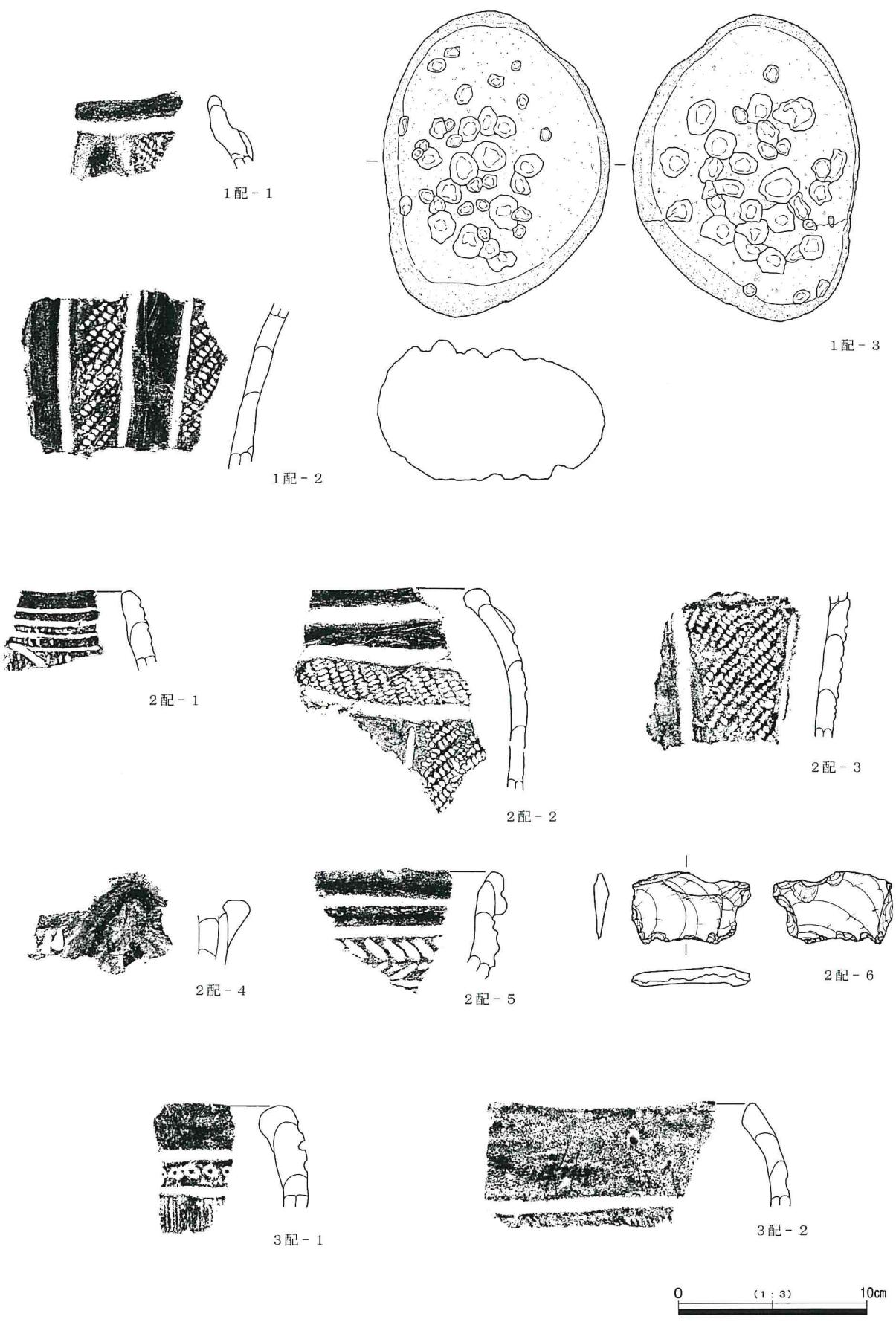
2. 黒褐色土 A s - C ϕ 0.5cm 多量含む。
しまりあり。粘性ややあり。
Ehの測定が出来ぬ。



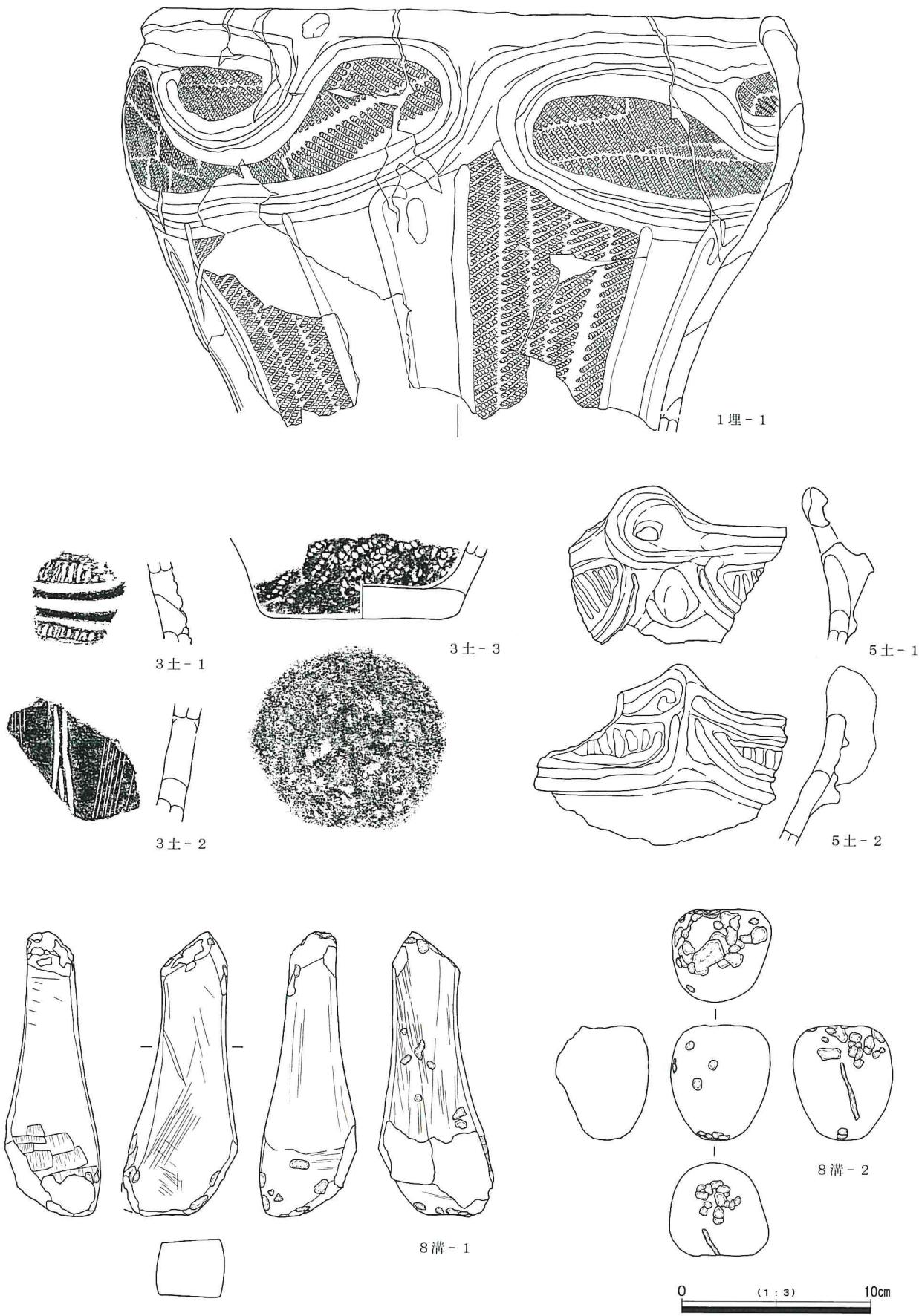
第 15 図 ピット



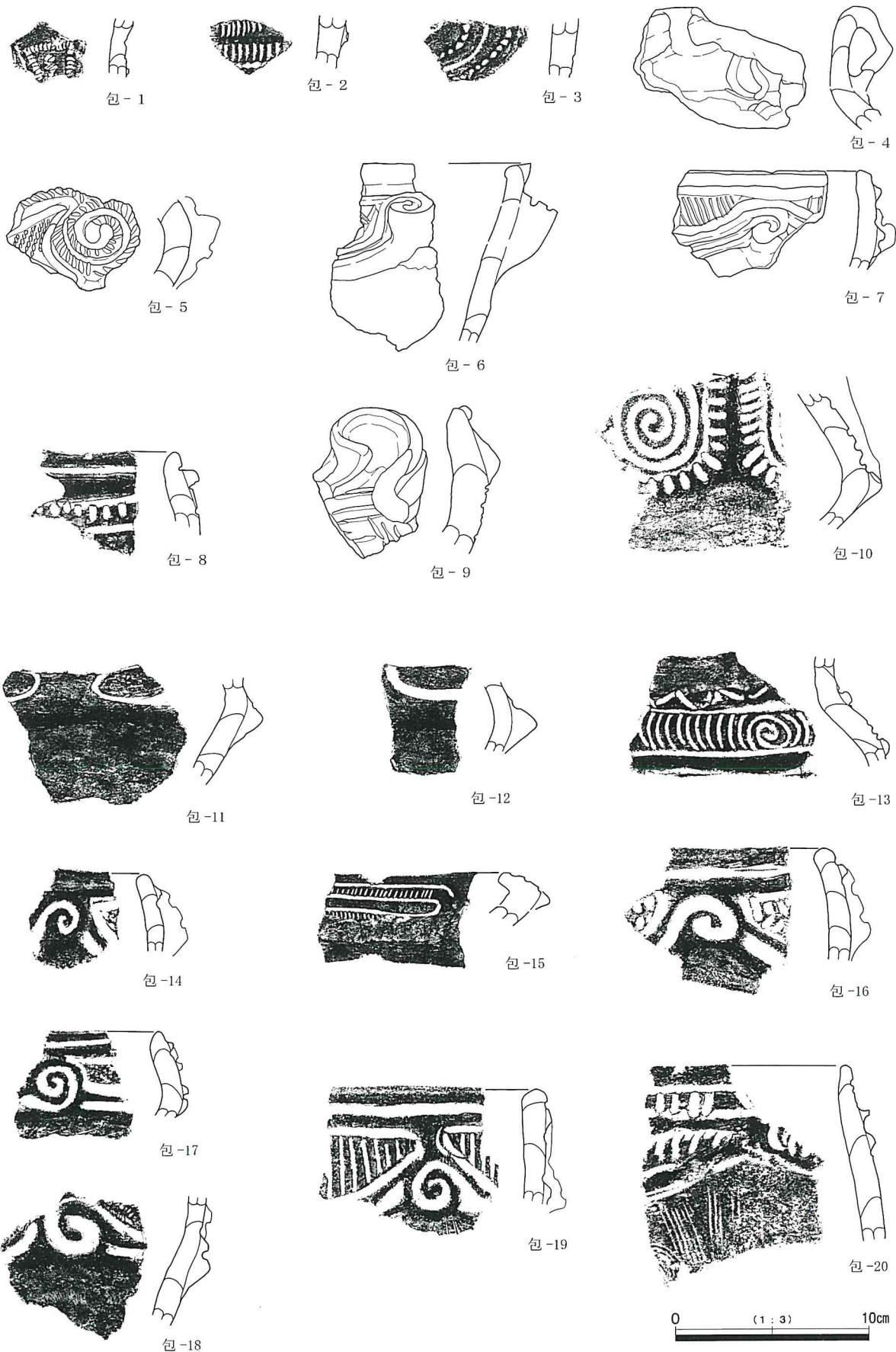
第16図 地震痕



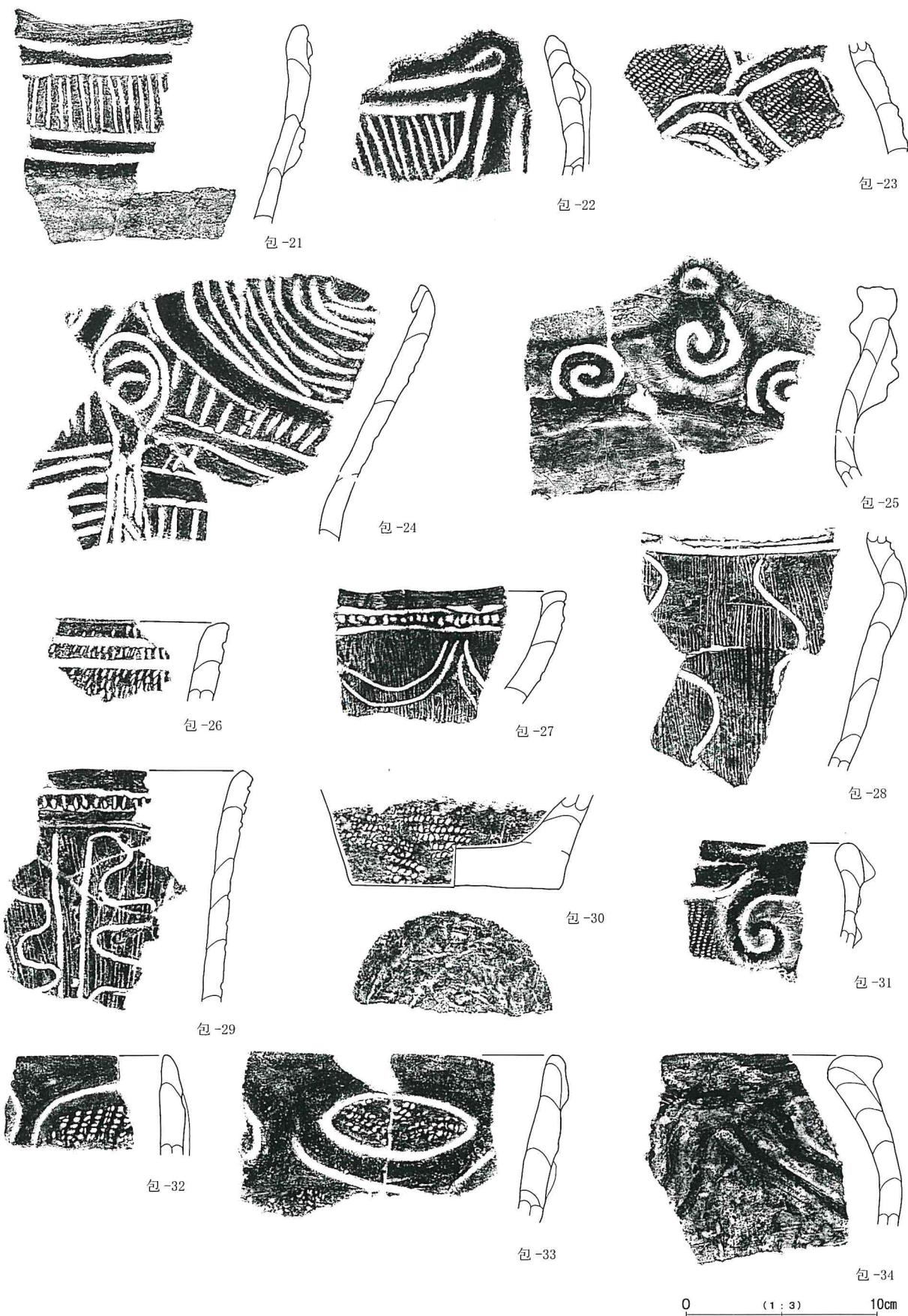
第17図 出土遺物(1)



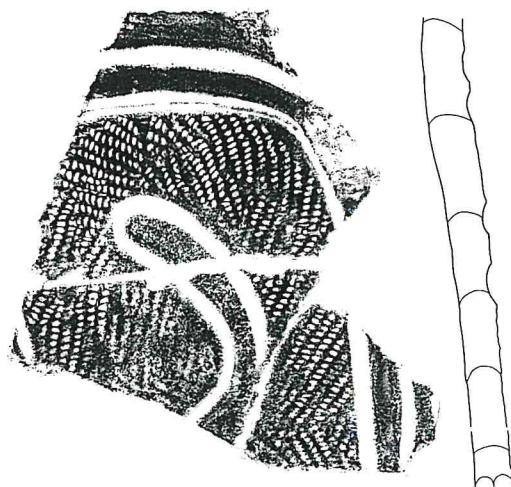
第18図 出土遺物（2）



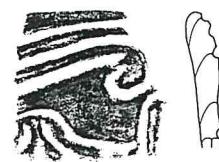
第 19 図 出土遺物 (3)



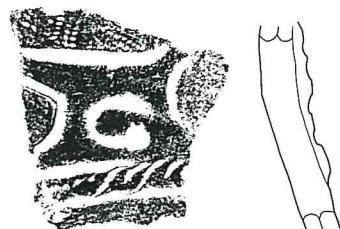
第20図 出土遺物 (4)



包-35



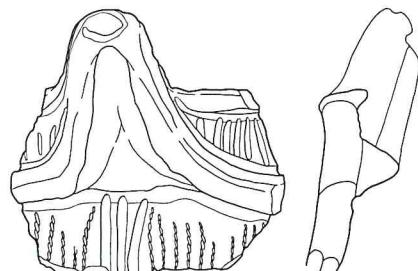
包-36



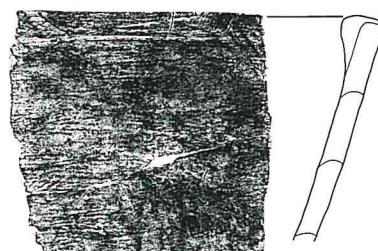
包-37



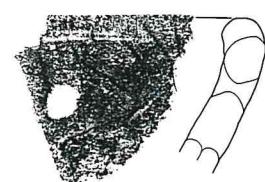
包-38



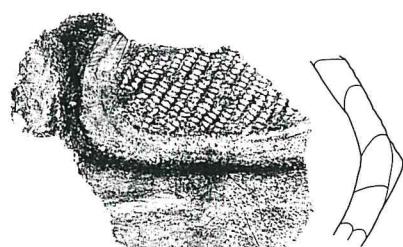
包-39



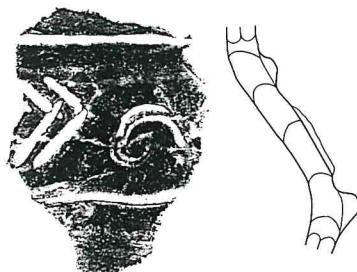
包-40



包-41



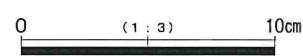
包-42



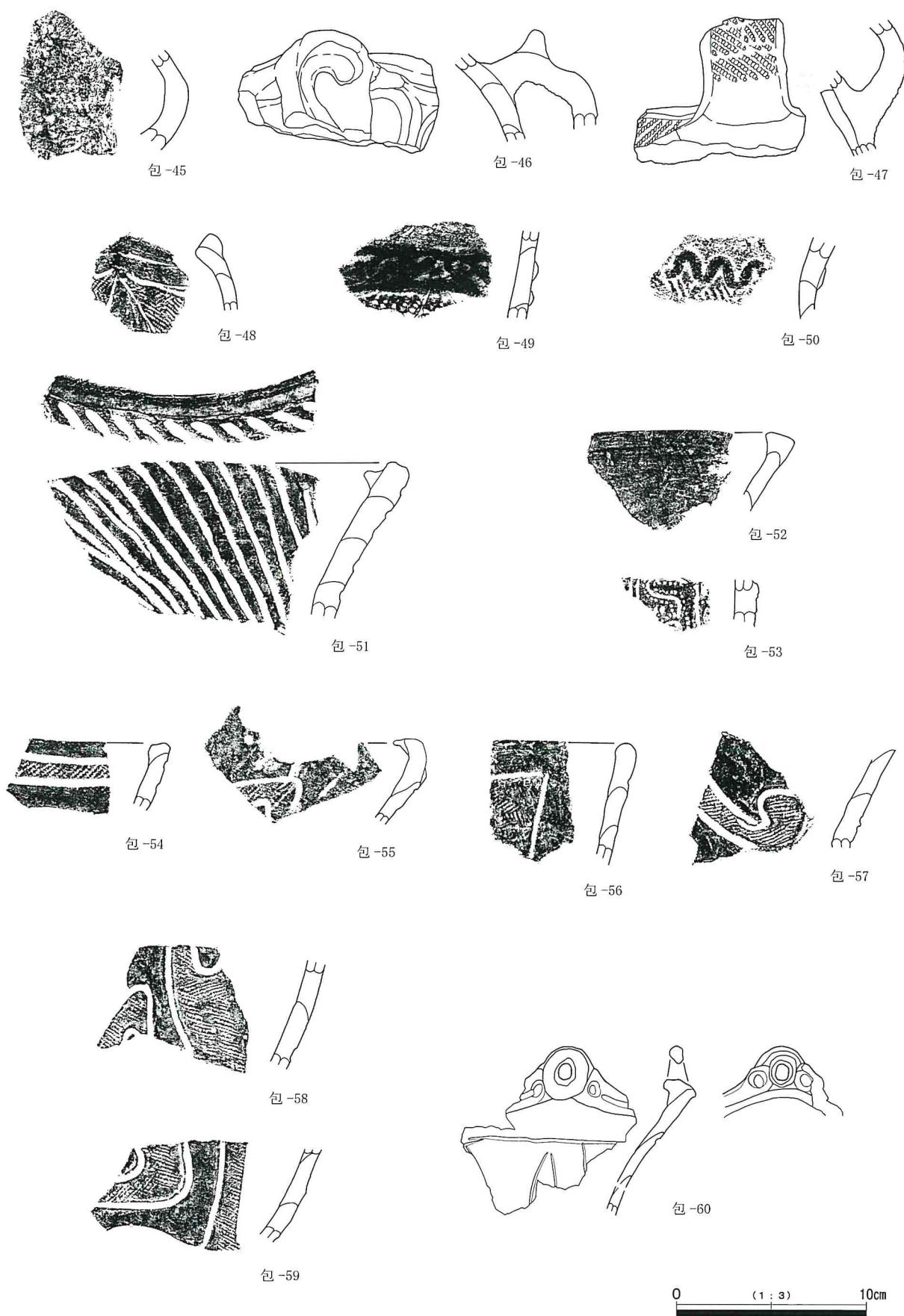
包-43



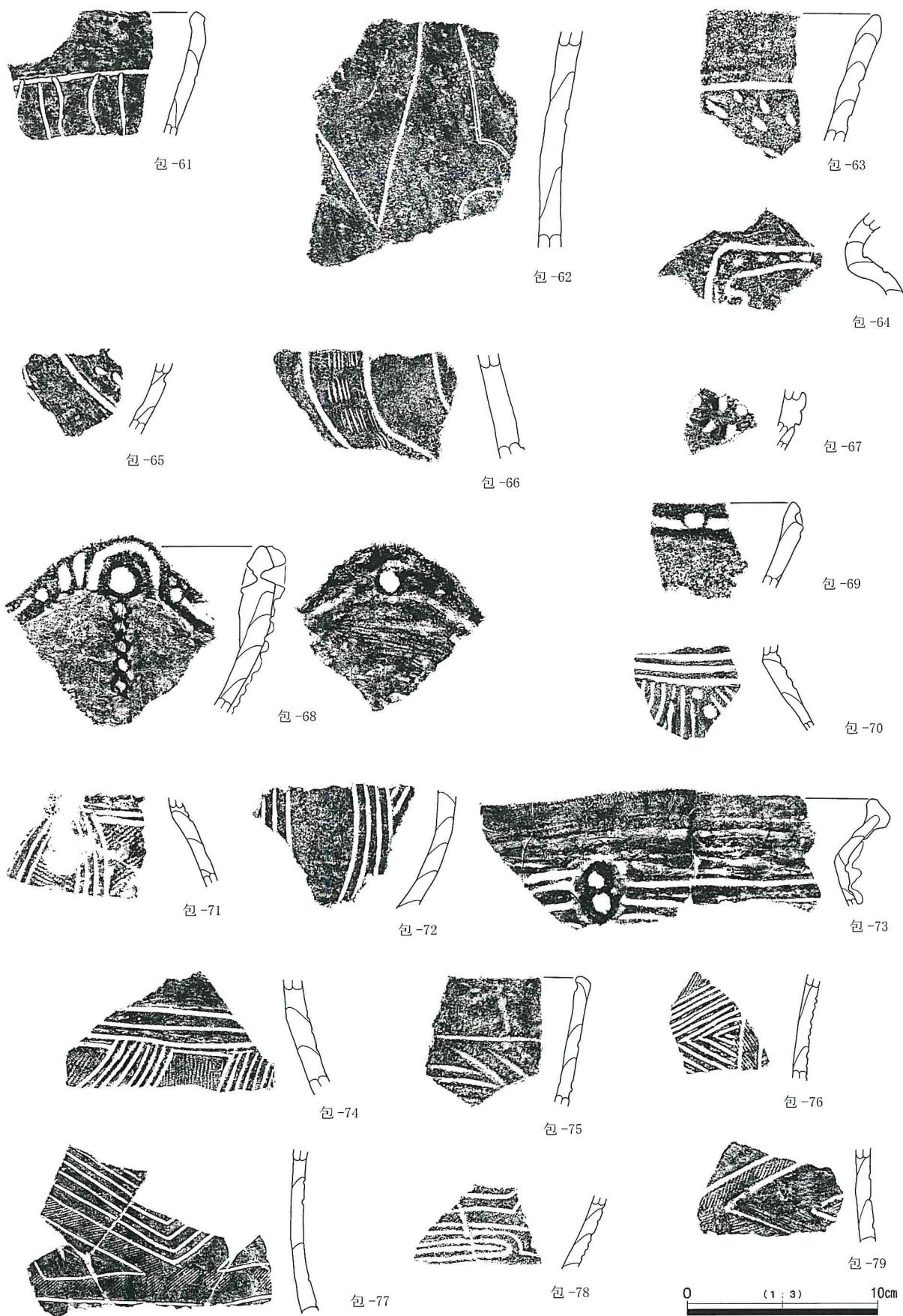
包-44



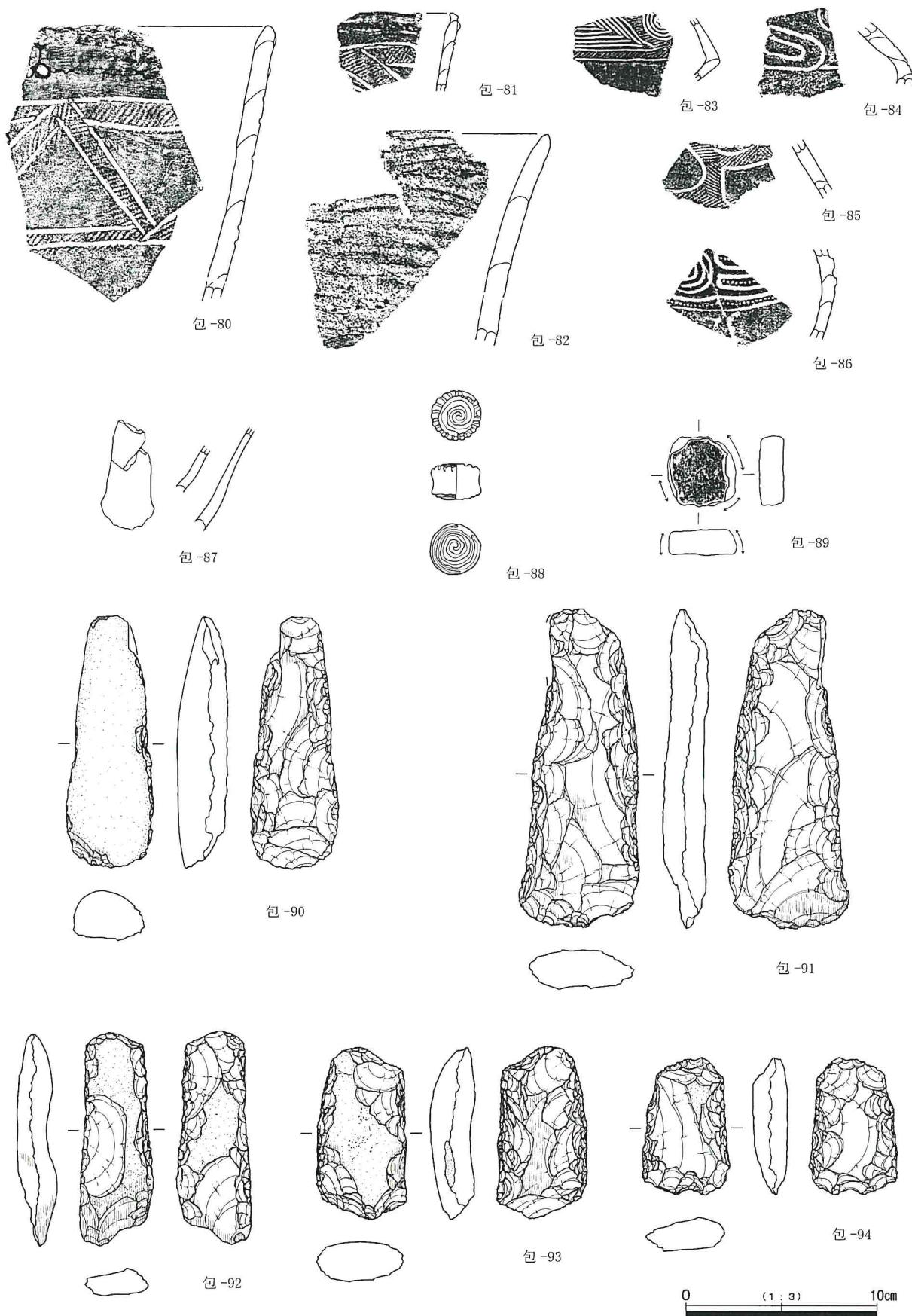
第21図 出土遺物(5)



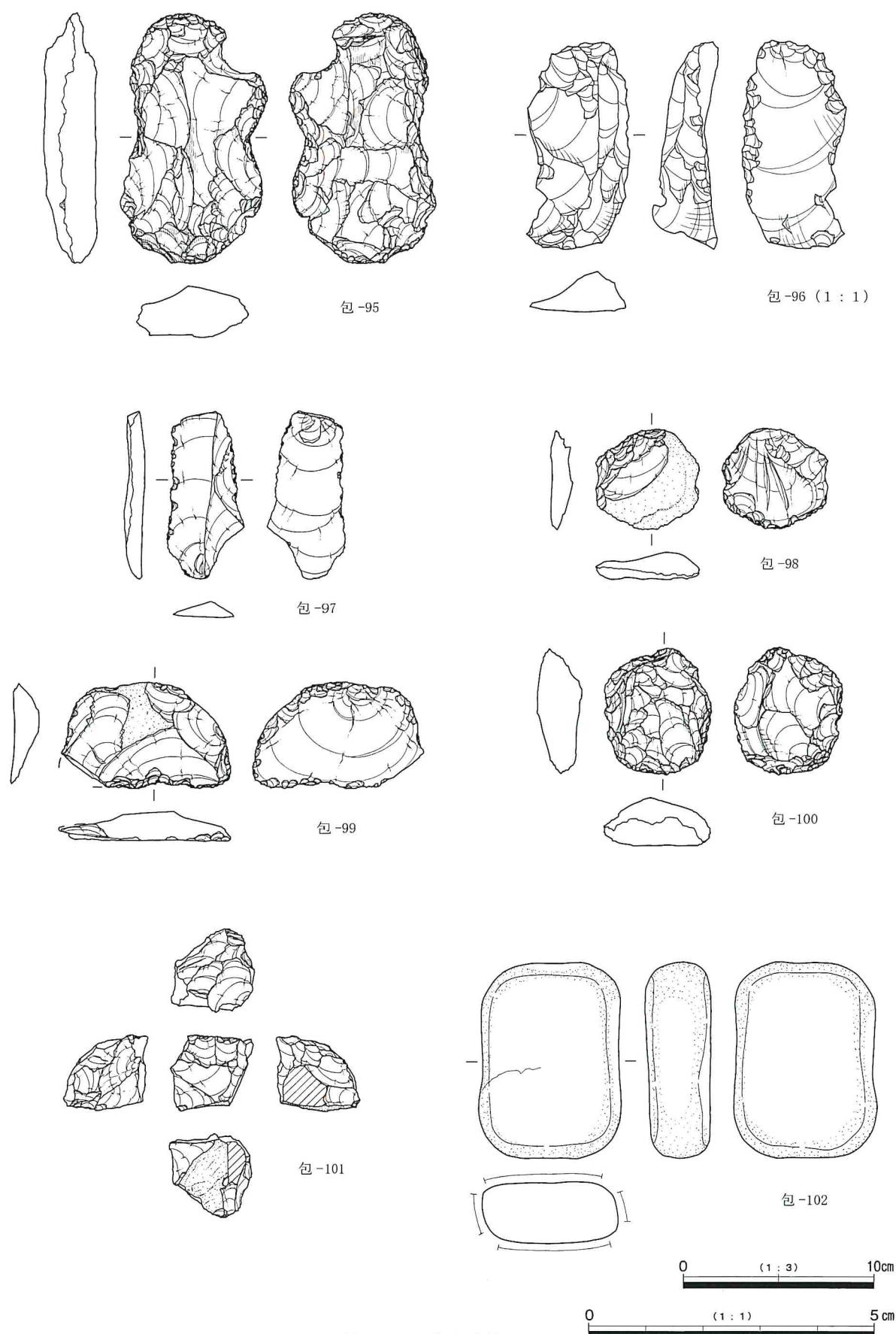
第 22 図 出土遺物 (6)



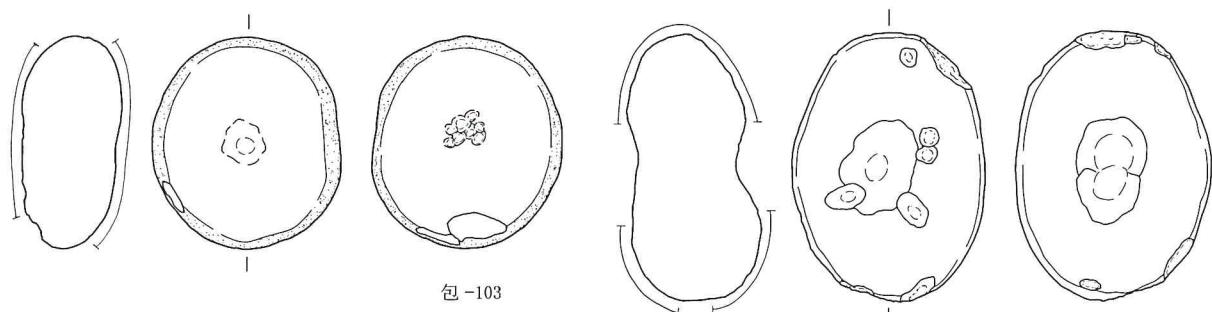
第23図 出土遺物(7)



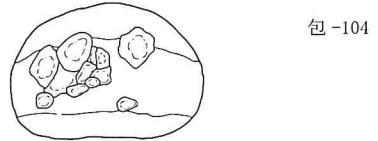
第 24 図 出土遺物 (8)



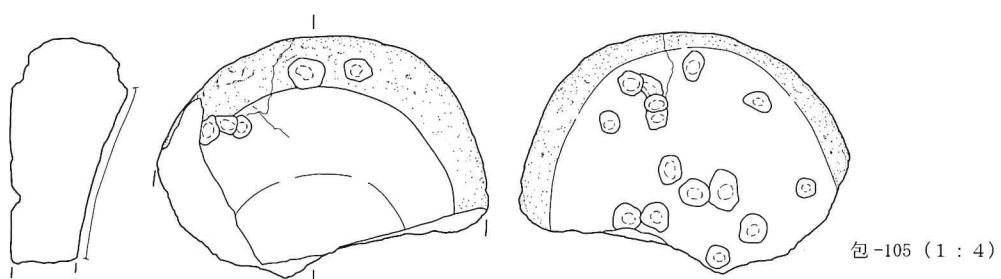
第25図 出土遺物 (9)



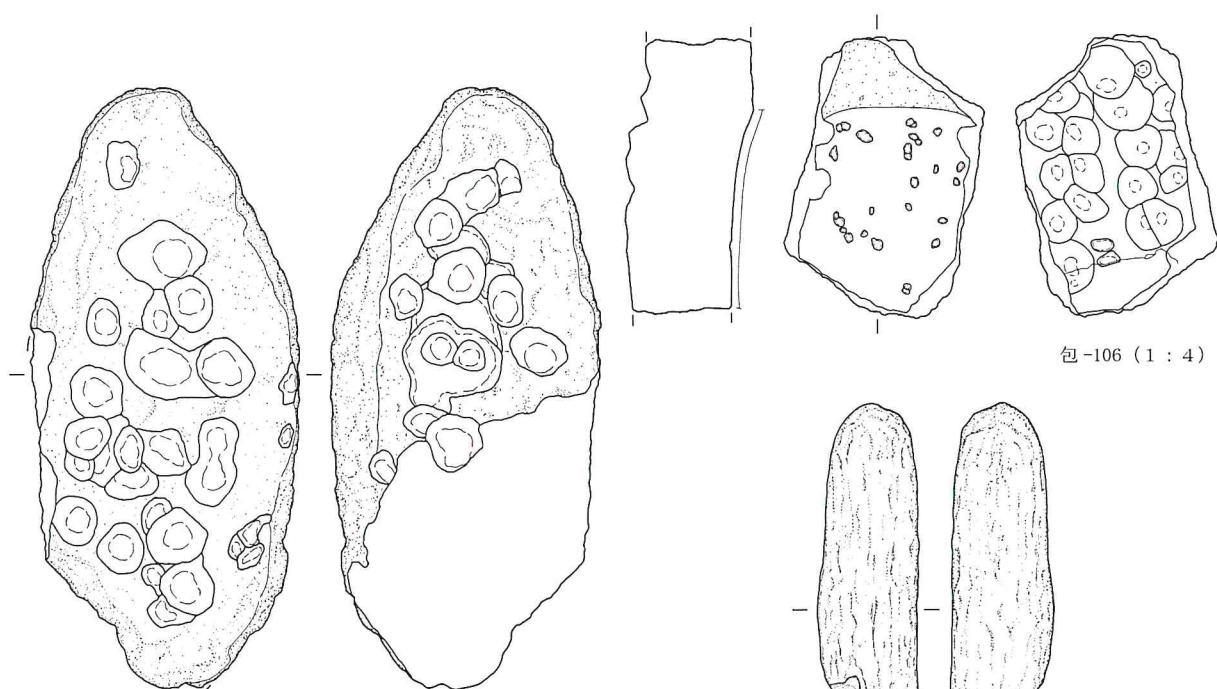
包 -103



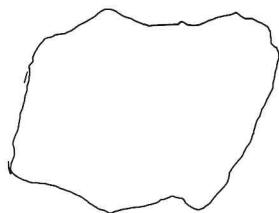
包 -104



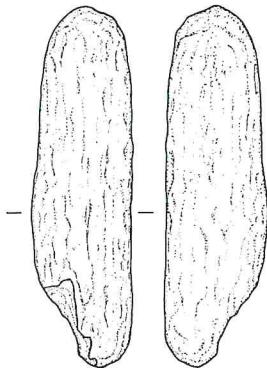
包 -105 (1 : 4)



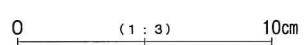
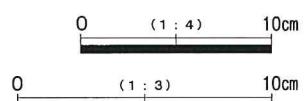
包 -106 (1 : 4)



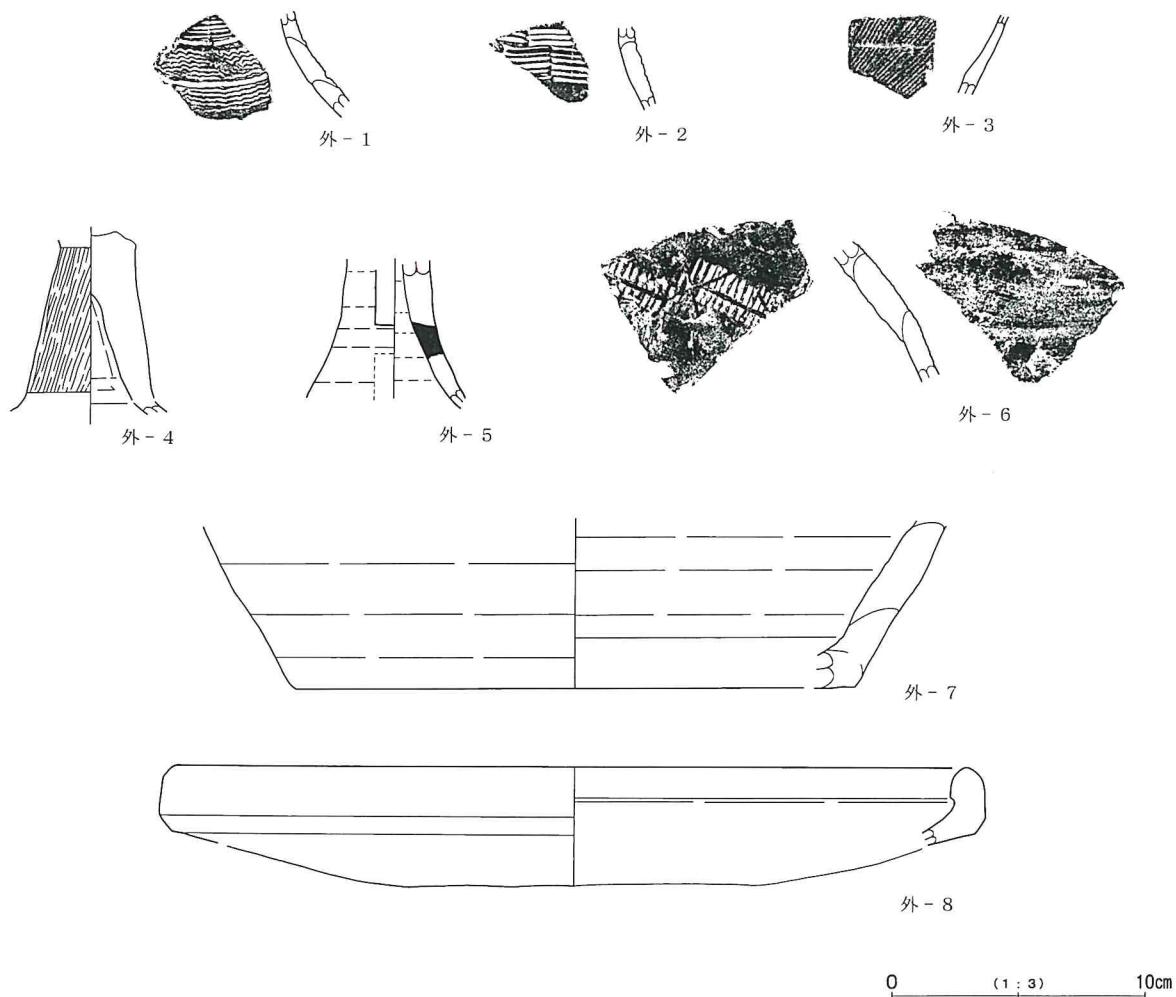
包 -107



包 -108



第 26 図 出土遺物 (10)



第 27 図 出土遺物 (11)

第 7 表 1 号配石出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径: — 底径: — 器高: [3.1]	①良好②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、石英 ④口縁部片	口唇部無文。口縁部に横位沈線で上端文様帶。隆帶による口縁部縦位文様帶。文様帶内に単節 R L の縦紋を横位施紋。	加曾利 E III式。
2	縄文土器 深鉢	口径: — 底径: — 器高: [8.0]	①良好②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、石英 ④胴部片	沈線による懸垂文。懸垂文間に単節 R L の磨消縦紋を縦位施紋。	加曾利 E III式。
3	石器 多孔石	長さ: 21.8 幅: 16.2 厚さ: 9.9 重量: 4,360.0	安山岩製。自然礫の表・裏面に多数の凹穴。		—

第 8 表 2 号配石出土遺物観察表 (1)

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径: — 底径: — 器高: [3.8]	①良好②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部無文帶。無節 L の撚糸紋を縦位施紋し地文とする。口縁部に沈線による文様帶上端区画。	加曾利 E III式。
2	縄文土器 深鉢	口径: — 底径: — 器高: [10.7]	①良好②にぶい褐色 / 灰褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口縁部に隆帶と沈線による文様帶。文様帶内に単節 R L の縦紋を横位充填施紋。胴部に沈線による懸垂文。懸垂文間に単節 R L の磨消縦紋を縦位施紋。	加曾利 E III式。

第9表 2号配石出土遺物観察表（2）

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	縄文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [7.7]	①良好②灰黄褐色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口縁部に沈線による文様帶下端区画。胴部に沈線による懸垂文。懸垂文間に単節R Lの磨消縄紋を縦位施紋。	加曾利E III式。
4	縄文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [3.4]	①良好②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口縁部に隆帶による文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。	加曾利E III式。
5	縄文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [5.6]	①良好②にぶい橙色 / にぶい褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口縁部に隆帶と沈線による文様帶。文様帶内には短沈線による横位羽状沈線文を施文。	加曾利E III式。
6	石器 スクレイパー	長さ : 3.8 幅 : 6.3 厚さ : 1.1 重量 : 21.2	頁岩製。 磨皮をもつ剥片の一側縁に両面加工を施し刃部とする。		—

第10表 3号配石出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [5.4]	①良好②にぶい赤褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口唇部無文帶。口縁部に沈線による文様帶区画。文様帶内に半截竹管状工具先端による刺突文。口縁部下端から無節しの縄紋を縦位施紋。	加曾利E III式。
2	縄文土器 浅鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [5.4]	①良好②橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口縁部無文。一条の横位沈線による胴部文様帶区画。胴部に櫛齒状工具による懸垂文。	加曾利E III式。

第11表 1号埋甕出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径 : 32.8 底径 : - 器高 : [22.7]	①良好 ②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部～胴部上半 2/3	口縁部に隆帶文様帶。隆帶文様帶起点部には丸棒状工具による円形刺突を 4 力所配置。文様帶内に単節 R L の縄紋を横位充填施紋し隆帶外縁を凹線で縁取る。胴部には懸垂文。懸垂文間に単節 R L の磨消縄紋を縦位施紋。	加曾利E III式。

第12表 3号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [4.4]	①良好②褐色 / にぶい黄褐色 ③白色岩片、石英、雲母 ④口縁部片	無節Lの撚糸紋を縦位施紋し地文とする。半截竹管状工具による連弧文を施文。	加曾利E II式。
2	縄紋土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [6.3]	①良好②褐色 / 暗褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	櫛齒状工具による沈線文を地文とする。沈線による懸垂文。	加曾利E II式。
3	縄紋土器 深鉢	口径 : - 底径 : 10.5 器高 : [3.8]	①良好②にぶい褐色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部下半～底部片	胴部下半、底部ともにミガキ。	加曾利E II式。

第13表 5号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄紋土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [8.3]	①良好②にぶい赤褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口唇部に小突起。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。頸部無文帶。	加曾利E II式。
2	縄紋土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [9.6]	①良好②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口唇部に小突起。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。頸部無文帶。	加曾利E II式。

第14表 8号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	成・整形技法の特徴	備考
1	石器 砥石	長さ : 15.1 幅 : 6.1 厚さ : 5.1 重量 : 461.7	流紋岩製。4面使用。砥面は使用により平滑しており部分的に擦痕や削痕あり。器面には鉄斑が沈着。	—
2	石器 敲石	長さ : 6.1 幅 : 5.3 厚さ : 5.0 重量 : 219.4	流紋岩製。小型砾を素材とし上・下端部に顕著な敲打痕。裏面は鉄斑が沈着。	—

第15表 包含層出土遺物観察表（1）

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : [2.9]	①普通②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	胴部上半に三角押文。	勝坂式。 A区H4グリッド出土。

第16表 包含層出土遺物観察表（2）

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
2	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[2.5]	①良好②にぶい褐色 / 褐灰色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部横位隆帶。幅広工具による連続刺突文を隆帶側面に施す。隆帶下に三角押文。	勝坂式。 A区K 3グリッド出土。
3	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[3.0]	①普通②明赤褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、黒色岩片、角閃石 ④胴部片	沈線と三角押文を交互に施し曲線的な文様。	勝坂式。 A区I 3グリッド出土。
4	縄文土器 広口壺	口径：－ 底径：－ 器高：[5.7]	①普通②にぶい赤褐色 / 赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口唇部に小環状把手。胴部に沈線文。	勝坂式。 A区J 3グリッド出土。
5	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.8]	①普通②明赤褐色 / 赤褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	丸棒状工具による連続刺突文を施した隆帶とぐら状貼付文による口縁部文様帶。文様帶内に単節LRの縄紋を横位充填施紋。	勝坂式。 A区G 3グリッド出土。
6	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[9.3]	①良好②にぶい赤褐色 / 赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部～胴部片上半	口唇部無文。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に短沈線を縦位充填施文。	加曾利E I式。 A区I 3グリッド出土。
7	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.0]	①普通②赤褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	口唇部に浅い横位沈線が廻る。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。	加曾利E I式。 A区G 4グリッド出土。
8	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.3]	①良好②明赤褐色 / 橙色 ③白色岩片、片岩 ④口縁部片	口唇部に横位沈線が廻る。上端隆帶と下端沈線による口縁部文様帶。文様帶内に丸棒状工具による連続刺突文。	加曾利E I式。 A区I 4グリッド出土。
9	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[7.1]	①普通②明赤褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	渦巻状小把手部。口縁部に斜交沈線文。	加曾利E I式。 A区I 4グリッド出土。
10	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[7.9]	①良好②褐灰色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、雲母 ④胴部片	胴部上半に隆帶文様帶区画。隆帶側縁に丸棒状工具による列点文。文様帶内に沈線による渦巻文。	加曾利I式。 A区F 5グリッド出土。
11	縄文土器 浅鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.5]	①良好②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	隆帶による胴部文様帶区画。文様帶内に沈線による梢円区画文。	加曾利E I式。 A区F 3グリッド出土。
12	縄文土器 浅鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[3.6]	①普通②褐灰色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	隆帶による胴部文様帶区画。文様帶内に沈線による梢円区画文。	加曾利E I式。 A区E 4グリッド出土。
13	縄文土器 浅鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.2]	①普通②灰黄褐色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	八字状沈線文を施した隆帶と半截竹管状工具を用いた並行沈線による胴部文様帶。文様帶内に沈線による渦巻文と重弧文を充填施文。	加曾利E I式。 A区E 5グリッド出土。
14	縄文土器 浅鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[2.8]	①良好②橙色 / 灰褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口縁部に沈線による梢円文。沈線間に縦位連続爪形文。	中期後葉。 A区F 5グリッド出土。
15	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.0]	①普通②灰褐色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部無文帶。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に単節RLの縄紋を横位充填施紋。	加曾利E II式。 A区H 5グリッド出土。
16	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.8]	①良好②灰褐色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部に横位沈線が廻る。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に短沈線による横位綾杉文。	加曾利E II式。 A区H 5グリッド出土。
17	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.5]	①普通②黒褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部に横位沈線が廻る。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に単節RLの縄紋を縦位充填施紋。	加曾利E II式。 A区G 4グリッド出土。
18	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[6.6]	①普通②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部～胴部片上半	隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に単節RLの縄紋を横位充填施紋。	加曾利E II式。 A区K 4グリッド出土。
19	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[6.0]	①普通②明赤褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。	加曾利E II式。 A区G 4グリッド出土。
20	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[8.9]	①普通②にぶい赤褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部～胴部片上半	上端沈線と下端隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。胴部に櫛齒状工具による懸垂文。	加曾利E II式。 A区F 3グリッド出土。
21	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[10.4]	①良好②にぶい赤褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部～胴部片上半	口唇部小突起。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。	加曾利E II式。 A区G 4グリッド出土。
22	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[7.6]	①普通②にぶい褐色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	小波状口縁。隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。	加曾利E II式。 A区I 2グリッド出土。
23	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.7]	①良好②灰褐色 / 褐色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	胴部に単節RLの縄紋を縦位施紋し地紋としたのち、沈線による渦巻文を施文。	加曾利E II式。 A区2号配石出土。
24	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[13.4]	①良好②にぶい橙色 / にぶい褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部～胴部片上半	口唇部折返し。連弧状隆帶による口縁部文様帶。文様帶内重弧文。胴部は沈線による渦巻文と横位沈線で文様帶。文様帶内は縦位及び横位多重沈線文。	加曾利E II式。 A区I 3グリッド出土。

第17表 包含層出土遺物観察表（3）

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
25	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[9.9]	①良好②橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部に小突起。突起上面に沈線による渦巻文。口縁部文様帶。文様帶内に渦巻文を施文。頸部は無文。	加曾利E II式。 A区I 3グリッド出土。
26	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[4.1]	①普通②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	無節Lの撚糸紋を縦位施紋し地紋とする。口縁部に2条の横位並行沈線文。	連弧文。 A区H 4グリッド出土。
27	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[5.9]	①良好②にぶい赤褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	櫛齒状工具による縦位条線文を地文とする。並行沈線による口縁部文様帶。文様帶内に連続円形刺突文。胴部に沈線弧線文。	連弧文。 A区J 5グリッド出土。
28	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[12.4]	①普通②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④胴部片	櫛齒状工具による縦位条線文を地文とする。屈曲部に半截竹管状工具による文様帶区画。胴部に沈線による縦位蛇行線文。	連弧文。 A区 H 3、G 4グリッド出土。
29	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[12.2]	①普通②にぶい褐色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	横位沈線による口縁部文様帶。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。胴部は櫛齒状工具による縦位条線文を地文としたのち、沈線による懸垂文。	加曾利E III式。 A区H 3グリッド出土。
30	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：11.0 器高：[4.9]	①良好②橙色 / にぶい褐色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④底部片	胴部下半に单節L Rの縄紋を縦位磨消施紋。底面はナデ。	加曾利E III式。 C区V層出土。
31	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[5.5]	①普通②にぶい橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に单節R Lの縄紋を縦位充填施紋。	加曾利E III式。 A区I 4グリッド出土。
32	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[5.3]	①普通②浅黄橙色 / 浅黄橙色 ③白色岩片、赤色岩片、石英 ④口縁部片	隆帶による口縁部文様帶。文様帶内に单節R Lの縄紋を縦位充填施紋。	加曾利E III式。 A区F 4グリッド出土。
33	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[8.8]	①普通②浅黄橙色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石 ④口縁部片	隆帶による口縁部文様帶。文様帶内单節L Rの縄紋を縦位充填施紋。胴部に单節L Rの縄紋を縦位磨消施紋。	加曾利E III式。 A区IV層、K 4グリッド出土。
34	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[8.9]	①良好②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	隆帶による口縁部文様帶。文様帶内单節R Lの縄紋を充填施紋。胴部に懸垂文と单節R Lの縄紋を縦位磨消施紋。	加曾利E III式。 A区G 4グリッド出土。
35	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[18.7]	①普通②褐灰色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部に沈線による懸垂文。	加曾利E III式。 A区J 3、4グリッド出土。
36	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[8.8]	①普通②にぶい橙色 / 浅黄橙色 ③白色岩片、石英 ④胴部片	胴部に櫛齒状工具による波状懸垂文。	加曾利E III式。 A区J 4グリッド出土。
37	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[5.4]	①良好②灰黄褐色 / 灰黄褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口縁部横位沈線文。胴部に沈線文。	加曾利E III式。 A区J 3グリッド出土。
38	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[8.3]	①普通②にぶい黄橙色 / 灰黄褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	屈曲部に半截竹管状工具による横位並行沈線文様帶区画。区画内に斜位刻み。隆帶による胴部渦巻文区画。区画内に单節R Lの縄紋を充填施紋。	加曾利E III式。 A区H 5グリッド出土。
39	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[10.6]	①良好②橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部～胴部上半片	口唇部に大形把手。把手部上面に渦巻沈線文。口縁部つなぎ弧文。文様帶内に縦位短沈線を充填施文。胴部に3本一単位の懸垂文。懸垂文間に無節Rの撚糸紋を縦位施紋。	加曾利E III式。 A区K 4グリッド出土。
40	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：[8.9]	①良好②褐灰色 / 灰黄褐色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④口縁部片	口縁部無文。横位ミガキ。	加曾利E III式。 A区H 3グリッド出土。
41	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[6.0]	①良好②にぶい褐色 / にぶい褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口縁部無文。焼成後、補修孔が1ヵ所認められる。	加曾利E III式。 A区I 2グリッド出土。
42	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[8.5]	①良好②褐灰色 / にぶい褐色 ③白色岩片、雲母 ④胴部片	胴部上半に隆帶による文様帶区画。文様帶内に单節R Lの縄紋を斜位充填施紋。	加曾利E III式。 A区I 2グリッド出土。
43	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[9.2]	①良好②にぶい橙色 / 浅黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部上半に隆帶による文様帶区画。文様帶内を短沈線による綾杉文で充填施文。	加曾利E III式。 A区H 3グリッド出土。
44	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[5.7]	①良好②褐灰色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	胴部に隆帶による文様帶区画。文様帶内に单節R Lの縄紋を斜位充填施紋。	加曾利E III式。 A区H 4グリッド出土。
45	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[5.2]	①普通②橙色 / 橙色 ③白色岩片 ④把手部片	把手部。外面ナデ。	加曾利E III式。 A区J 3グリッド出土。
46	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[5.5]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部に隆帶による文様帶区画。大形把手外面にS字文。	加曾利E III式。 A区I 3グリッド出土。
47	縄文土器 両耳壺	口径：一 底径：一 器高：[6.6]	①普通②浅黄橙色 / 淡黄色 ③白色岩片、雲母 ④胴部片	胴部に沈線による文様帶区画。文様帶内に单節L Rの縄紋を横位充填施紋。把手外面に单節L Rの縄紋を横位施紋。	加曾利E IV式。 A区E 3グリッド出土。

第18表 包含層出土遺物観察表（4）

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
48	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.0]	①良好②灰黄褐色 / 浅黄橙色 ③白色岩片、赤色岩片、石英 ④口縁部～胴部上半片	口縁部小突起。口縁部横位沈線による口縁部文様帶区画。胴部に沈線による懸垂文。懸垂文間に単節LRの縄紋を磨消施紋。	加曾利EV式。 A区F3グリッド出土。
49	縄文土器 浅鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.5]	①普通②灰黄褐色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	頸部に斜行細隆帶を付した横位細隆帶文様帶区画。胴部に単節RLの縄紋を横位施紋。	曾利III式。 A区G4グリッド出土。
50	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[3.3]	①良好②にぶい黄橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、石英、片岩 ④胴部片	頸部に蛇行細隆帶文。胴部下半に沈線による斜行文。	曾利III式。 A区K3グリッド出土。
51	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[8.2]	①良好②明赤褐色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④口縁部片	口縁部に沈線による斜行文。口唇部に単沈線が廻る。	曾利III式。 A区F2グリッド出土。
52	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.2]	①良好②にぶい赤褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④口縁部片	口縁部無文。横位ナデ。	中期後葉。 A区F5グリッド出土。
53	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[2.4]	①普通②にぶい黄褐色 / 明赤褐色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	微隆起線文。微隆起線側縁に刺突文。	中期。 A区F4グリッド出土。
54	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[3.6]	①良好②黒褐色 / 褐色 ③白色岩片、石英 ④口縁部片	口唇部無文帶。口縁部に横位区画文。区画内に単節RLの縄紋を充填磨消施紋。	称名寺I式。 A区J3グリッド出土。
55	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.5]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英、長石 ④口縁部片	口唇部に大型突起を付す。胴部上半にJ字状文。	称名寺I式。 A区J3グリッド出土。
56	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[6.4]	①普通②にぶい褐色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④口縁部片	口唇部、口縁部無文帶。胴部に横位沈線区画。区画内に幾何学文。文様内に単節RLの縄紋を充填。	称名寺I式。 A区J4グリッド出土。
57	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.1]	①良好②浅黄橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部にJ字状文を描出。文様内に単節RLの縄紋を充填磨消施紋。	称名寺I式。 A区H4グリッド出土。
58	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.5]	①良好②橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部にJ字状文、懸垂文を基調とする文様。文様内に単節LRの縄紋を充填磨消施紋。	称名寺I式。 A区H4グリッド出土。
59	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.1]	①良好②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部にJ字状文、懸垂文を基調とする文様。文様内に単節RLの縄紋を充填磨消施紋。	称名寺I式。 A区H4グリッド出土。
60	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[9.0]	①良好②黒褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、石英 ④口縁部片	口唇部に大型突起。口唇部に窓紋連繋紋。胴部にJ字状文。	称名寺II式。 A区H4グリッド出土。
61	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[6.5]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英、長石 ④口縁部片	口唇部、口縁部無文帶。胴部上半に横位区画文。区画文以下にJ字状文。	称名寺II式。 A区L6グリッド出土。
62	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[11.4]	①良好②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、片岩 ④胴部片	胴部にJ字状文、懸垂文を基調とする文様。	称名寺II式。 A区H4グリッド出土。
63	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[6.7]	①普通②暗黄褐色 / 黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部、口縁部無文帶。胴部にJ字状文、懸垂文を基調とする文様。文様内に列点。	称名寺II式。 A区H4グリッド出土。
64	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.2]	①普通②橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	口縁部無文帶。胴部上半にJ字状文。文様内に列点文。	称名寺II式。 A区G3グリッド出土。
65	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[3.7]	①良好②浅黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部にJ字状文。文様内に列点文。	称名寺II式。 A区I5グリッド出土。
66	縄文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[5.1]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部にJ字状文。文様内に櫛齒状工具による短沈線を連続施文。	称名寺II式。 A区I5グリッド出土。
67	縄文土器 鼎	口径：－ 底径：－ 器高：[3.1]	①良好②橙色 / 灰褐色 ③白色岩片、雲母 ④胴部片	胴部に刺突文。	三十稻場式。 A区E5グリッド出土。
68	縄文土器 鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[8.7]	①良好②灰白色 / 灰白色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	波状口縁。波頂部内外面に丸棒状工具による刺突。口唇部に窓紋連繋紋。口縁部に丸棒状工具で連続刺突した垂下隆帶。	堀之内1式。 A区F5グリッド出土。
69	縄文土器 鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.5]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口唇部に窓紋連繋紋。口縁部無文帶。	堀之内1式。 A区I4グリッド出土。
70	縄文土器 鉢	口径：－ 底径：－ 器高：[4.3]	①普通②橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	頸部及び胴部上位に横位沈線区画。区画下に多重沈線による懸垂文。	堀之内1式。 C区V層出土。

第19表 包含層出土遺物観察表（5）

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
71	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[3.9]	①普通②灰黄褐色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、片岩 ④胴部片	頸部及び胴部上位に横位沈線区画。区画下に多重沈線による懸垂文。懸垂文間に単節L Rの縄紋を充填施紋。	堀之内1式。 B区1号トレンチ出土。
72	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[5.8]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	胴部に多重沈線による懸垂文。	堀之内1式。 A区P4グリッド出土。
73	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[5.6]	①普通②暗黄褐色 / 黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部	口唇部、口縁部無文帶。頸部に8字状貼付文と横位沈線区画。	堀之内1式。 A区J3グリッド出土。
74	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[5.3]	①良好②にぶい橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	胴部上位に横位沈線区画。区画下に多重沈線による懸垂文。懸垂文間に単節R Lの縄紋を充填施紋。	堀之内1式。 A区G4グリッド出土。
75	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：[6.8]	①普通②にぶい褐色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、片岩 ④口縁部片	口唇部、口縁部無文帶。胴部に横位沈線区画。区画内に三角文。	堀之内2式。 A区I5グリッド出土。
76	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[5.2]	①良好②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、石英 ④胴部片	体部屈曲鉢。胴部上半の横位区画に三角文。文様内に単節L Rの縄紋を充磨消填施紋。三角区画内に沈線を充填施文。	堀之内2式。 A区G4グリッド出土。
77	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[8.4]	①良好②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、赤色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	体部屈曲鉢。胴部上半の横位区画に菱形文。文様内に単節L Rの縄紋を充磨消填施紋。菱形区画内に沈線を充填施文。	堀之内2式。 A区K3グリッド出土。
78	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：[3.6]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④胴部片	単節L Rの縄紋を充填施紋した帶状縄紋による文様。文様区画内に沈線を充填施文。	堀之内2式。 B区1号トレンチ出土。
79	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：[5.4]	①良好②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片 ④胴部片	体部屈曲鉢。胴部上半の横位区画に菱形文。文様内に単節L Rの縄紋を充填磨消施紋。	堀之内2式。 A区J5グリッド出土。
80	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：[14.2]	①普通②にぶい黄橙色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、石英 ④口縁部片	口唇部無文帶。口縁部に8字貼付文と二条の紐線文。胴部上半の横位区画内に三角文。文様内に単節L Rの縄紋を充填施紋。	堀之内2式。 B区1号トレンチ出土。
81	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：[4.1]	①良好②にぶい褐色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片、角閃石、片岩 ④口縁部片	口唇部内面に浅い凹線。口縁部に紐線文。胴部上半の横位区画内に三角文。文様内に単節L Rの縄紋を充填磨消施紋。	堀之内2式。 A区J5グリッド出土。
82	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：[11.1]	①良好②灰黄褐色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石、石英 ④口縁部片	口縁部に横位調整痕を残す。	堀之内2式。 A区J4グリッド出土。
83	縄文土器 注口	口径：— 底径：— 器高：[3.3]	①良好②灰黄褐色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	胴部上半に単節L Rの縄紋を充填磨消施紋した帶状縄紋による横位文様。文様区画内には沈線を充填施文。	堀之内2式。 A区J4グリッド出土。
84	縄文土器 注口	口径：— 底径：— 器高：[2.2]	①良好②にぶい黄橙色 / 灰黄褐色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	胴部上半に単節L Rの縄紋を充填磨消施紋した帶状縄紋による横位文様。	堀之内2式。 A区H4グリッド出土。
85	縄文土器 注口	口径：— 底径：— 器高：[3.2]	①良好②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、石英 ④胴部片	胴部に下端沈線区画。区画内に沈線による幾何学文。	堀之内2式。 A区H4グリッド出土。
86	縄文土器 注口	口径：— 底径：— 器高：[4.0]	①良好②にぶい黄橙色 / 浅黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	胴部に細隆線による渦巻文、重円文状意匠。細隆線脇に細沈線を沿わせ文様区画。区画内に円形刺突文。	堀之内2式。 A区J3グリッド出土。
87	縄文土器 注口	口径：— 底径：— 器高：[5.3]	①良好②灰黄褐色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、角閃石 ④注口部	注口部外面良く磨かれる。内面ナデ。ソケット状に本体に接続。	堀之内2式。 A区J4グリッド出土。
88	土製品 耳飾	長さ：3.5 幅：3.5 厚さ：2.4 重量：31.2	①良好②灰黄褐色 / にぶい黄橙色 ②白色岩片、赤色岩片、石英 ④完形	白形。両端面に渦巻文が施され、一方の周縁部には刻みを廻らせる。	中期後葉。 A区G5グリッド出土。
89	土製品 土製円盤	長さ：3.7 幅：3.5 厚さ：1.3 重量：20.4	①良好②にぶい黄橙色 / 灰黄褐色 ②白色岩片、角閃石 ④完形	側縁部3箇所に摩耗痕が認められる。	中期。 A区I3グリッド出土。
90	石器 打製石斧	長さ：3.2 幅：4.6 厚さ：2.7 重量：192.6	頁岩製。撥形。割礫を素材とし両側縁を直接打撃による半両面加工を施す。基部や刃部にはリダクションと思われる剥離痕あり。刃部周辺には弱い摩耗痕。		A区H3グリッド出土。
91	石器 打製石斧	長さ：16.7 幅：6.3 厚さ：2.3 重量：262.3	頁岩製。撥形か。剥片を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工を施す。刃部周辺に摩耗痕。基部の一部欠損。		C区V層一括。

第20表 包含層出土遺物観察表（6）

番号	器種	法量 (cm/g)	成・整形技法の特徴	備考
92	石器 打製石斧	長さ： 11.1 幅： 3.9 厚さ： 2.1 重量： 82.5	砂岩製。 短冊形。扁平礫を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工を施す。刃部周辺には縦方向の摩耗痕。	A区H 4 グリッド出土。
93	石器 打製石斧	長さ： 9.0 幅： 4.7 厚さ： 2.3 重量： 128.8	頁岩製。 短冊形。割礫を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工を施す。刃部にはリダクションと思われる剥離痕あり。裏面中央には顕著な摩耗痕。	A区 I 3 グリッド出土。
94	石器 打製石斧	長さ： 7.2 幅： 4.6 厚さ： 1.8 重量： 70.4	流紋岩製。 短冊形。割礫を素材とし両側縁を直接打撃による両面加工を施す。基部や刃部はリダクションと思われる剥離痕あり。部分的に弱い摩耗痕。	C区 V層一括。
95	石器 打製石斧	長さ： 13.1 幅： 7.6 厚さ： 2.8 重量： 267.0	頁岩製。 分銅形。割礫を素材とし周縁を直接打撃による両面加工を施す。刃部周辺には弱い摩耗痕。	A区 I 5 グリッド出土。
96	石器 スクレイバー	長さ： 3.6 幅： 1.8 厚さ： 1.2 重量： 5.0	黒曜石製。 小型縦長剥片の一側縁に微細剥離痕が顕著。	A区 H 4 グリッド出土。
97	石器 スクレイバー	長さ： 8.8 幅： 4.1 厚さ： 1.1 重量： 30.8	頁岩製。 磯皮を打面とする縦長剥片の二側縁に微細剥離痕。	A区 I 3 グリッド出土。
98	石器 スクレイバー	長さ： 5.3 幅： 5.5 厚さ： 1.4 重量： 40.7	頁岩製。 割礫の打面周辺や縁辺に片面加工施し刃部とする。	A区 J 3 グリッド出土。
99	石器 スクレイバー	長さ： 5.6 幅： [8.9] 厚さ： 1.6 重量： 64.7	頁岩製。 磯皮をもつ横長剥片の縁辺に両面加工を施し刃部とする。周縁には微細剥離痕が顕著。刃部欠損。	A区 J 5 グリッド出土。
100	石器 スクレイバー	長さ： 6.7 幅： 5.6 厚さ： 2.5 重量： 101.6	頁岩製。 割礫の周縁に両面加工を施し刃部とする。刃部周辺には微細剥離痕。	A区 G 4 グリッド出土。
101	石器 石核	長さ： 4.0 幅： 4.4 厚さ： 4.4 重量： 75.2	頁岩製。 打面転移が顕著。磯皮が残存。	A区 I 5 グリッド出土。
102	石器 磨石類	長さ： 8.4 幅： 7.5 厚さ： 3.9 重量： 371.4	安山岩製。 円形状。表・裏面に摩耗痕が認められ中央部に敲打集中による浅い凹穴あり。四→磨。	A区 K 4 グリッド出土。
103	石器 磨石類	長さ： 10.3 幅： 7.5 厚さ： 3.5 重量： 514.3	安山岩製。 長方形状。表・裏面や周縁の一部は摩耗により平滑。磨のみ。	A区 K 4 グリッド出土。
104	石器 磨石類	長さ： 10.7 幅： 7.7 厚さ： 5.4 重量： 513.2	安山岩製。 楕円形状。全体に摩耗痕・敲打痕が顕著であり表・裏面中央に凹穴あり。磨→凹。	A区 K 4 グリッド出土。
105	石器 石皿	長さ： [12.8] 幅： [17.4] 厚さ： 6.2 重量： 1,351.2	安山岩製。 盆面は顕著な摩耗により浅く窪む。裏面は摩耗により平滑しており部分的に凹穴あり。欠損品。	B区 1 トレンチV層。
106	石器 石皿	長さ： [14.9] 幅： [10.6] 厚さ： 6.7 重量： 1,103.0	砂岩製。 盆面は使用により浅く窪み部分的に敲打痕が認められる。裏面は漏斗状の凹穴が16穴以上。被熱により変色・亀裂痕あり。小破片。	A区 F 4 グリッド出土。
107	石器 多孔石	長さ： [31.7] 幅： [14.2] 厚さ： 10.7 重量： 4,041.8	安山岩製。 大型礫の表・裏面に凹穴が多数。凹穴は敲打集中や漏斗状により形成される。被熱により部分的に変色範囲あり。下端部欠損。	A区 F 4 グリッド出土。
108	石器 棒状礫	長さ： 14.2 幅： 4.1 厚さ： 1.8 重量： 151.2	片岩製。 人為的な加工痕は認められない。やや扁平。	A区 F 5 グリッド出土。

第21表 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm/g)	①焼成②色調 (内 / 外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器壺	口径：— 底径：— 器高：[3.4]	①普通②橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石 ④胴部片	外面：縦位ハケメのち頸部に1段の廉状文。櫛歯7以上。下位に櫛描波状文のち横位沈線文。 内面：ナデ。	弥生時代末～古墳時代前期。 A区H2グリッド出土。
2	弥生土器壺	口径：— 底径：— 器高：[3.0]	①良好②にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色 ③白色岩片、石英、片岩 ④胴部片	外面：縦位ミガキのち頸部に2段の廉状文。櫛歯6以上。 内面：ヨコナデ。	弥生時代末～古墳時代前期。 A区H2グリッド出土。
3	土師器S字状口縁台付甕	口径：— 底径：— 器高：[3.1]	①酸化焰、普通②浅黄橙色 / 浅黄橙色 ③赤色岩片、黒色岩片、角閃石 ④胴部片	外面：斜位ハケメ。櫛歯9以上。 内面：ヨコナデ。	古墳時代前期。 A区SD-8出土。
4	土師器高坏	口径：— 底径：— 器高：[6.8]	①酸化焰、良好②橙色 / 橙色 ③白色岩片、角閃石 ④脚部片	外面：脚部縦位ヘラミガキ。脚端部ヨコナデ。 内面：脚上部タテナデ。脚下部ヨコナデ。脚端部ヨコナデ。	古墳時代中期。 A区SD-8出土。
5	須恵器高坏	口径：— 底径：— 器高：[3.4]	①還元焰、良好②灰色 / 灰色 ③白色岩片、石英 ④脚部片	外面：輶轆整形。回転ナデ。透窓上下2個一対が2箇所認められる。 内面：輶轆整形。回転ナデ。	古墳時代後期。 C区出土。
6	陶器大甕	口径：— 底径：— 器高：[6.1]	①還元焰、やや不良 ②にぶい橙色 / にぶい赤褐色 ③白色岩片 ④肩部片	外面：粘土紐積み上げ。ナデ調整。押印文。 内面：粘土紐積み上げ。ナデ調整。	常滑。 12世紀後半。 A区E3グリッド出土。
7	軟質陶器甕	口径：— 底径：(22.0) 器高：[6.4]	①還元焰、不良 ②灰白色 / にぶい黄橙色 ③白色岩片、片岩 ④胸部下半～底部片	外面：粘土紐積み上げ。輶轆ナデ。底部木葉痕。 内面：粘土紐積み上げ。輶轆ナデ。	近世。 A区H3グリッド出土。
8	軟質陶器焙烙	口径：(30.8) 底径：— 器高：[3.1]	①酸化焰、良好 ②にぶい橙色 / にぶい橙色 ③白色岩片、黒色岩片、片岩 ④口縁部～底部片	外面：粘土紐積み上げ。輶轆ナデ。底面ヘラナデ。 内面：粘土紐積み上げ。輶轆ナデ。	近世。 A区F4グリッド出土。

VIまとめ

今回の調査では、縄文時代中期中葉から後期前葉の遺構・包含層および古墳時代前期以降の溝等が主に調査された。これら調査されたものの中で、今後の調査において注目ないし課題とすべき点を挙げることによりまとめとしたい。

まずは、本遺跡で確認された縄文時代の遺物包含層についてである。今回の調査では、包含層の生成過程を十分に捉えることはできなかった。このことに関してはV-8において述べているが、凡その生成過程として、縄文時代以降の搅拌ないし、縄文時代における盛土の可能性を指摘している。近接する上中居遺跡群の状況から考えると、同遺跡からは、古墳時代前期以降の集落・生産域が確認されており、低地においては水田耕作、微高地上では集落の造営とともに畠の耕作が行われていたことが想像できる。このような状況から、本遺跡における包含層の生成は古墳時代以降の搅拌によるもの可能性が高いものと見られるが、明確な検証とは言い難い。このため、今後の調査においては、包含層中に含まれるテフラを分析し、弥生時代末以降に降下したとされるAs-CないしHr-Faの混入を確かめる必要があろう。

次に本遺跡で検出されたSD-11の捉え方についてである。同溝は地形区分で低地と考えられるC区で検出されており、埋没土にはAs-Cの混入が明確に見られる。C区は非常に狭い調査区であるため、同様な遺構はSD-11以外には検出されていない。同溝はC混水田に見られる畦脇に掘られる溝（いわゆる擬似畦畔）に近似しているように思われる。上中居遺跡群においても古墳時代前期の集落および用水路と想定される溝が検出されている。本溝は本遺跡周辺において古墳時代前期の水田が存在する可能性を示唆するものであり、地域開発を捉えていく上で重要な遺構と言えよう。

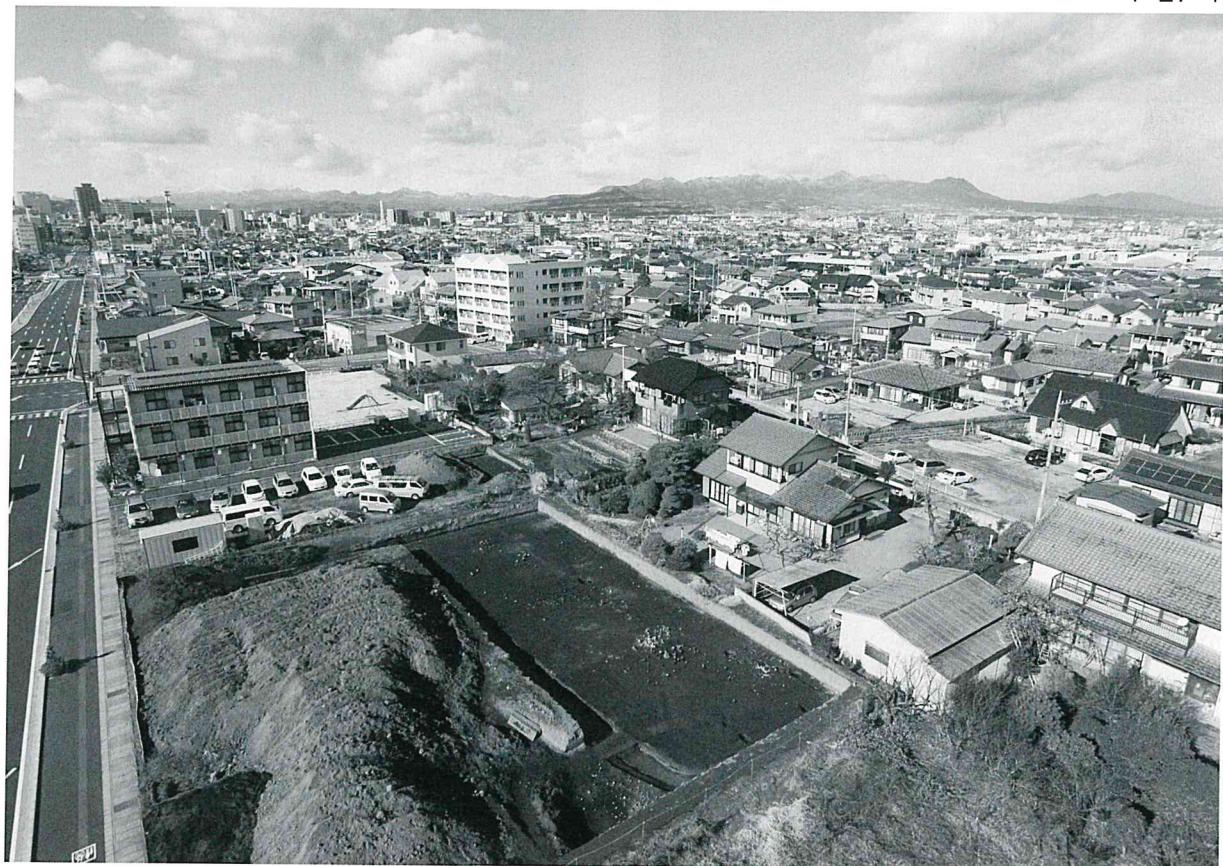
報告書抄録

ふりがな	かみなかいおかにしいせき
書名	上中居岡西遺跡3
副書名	第3次調査—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—
卷次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第332集
編著者名	日沖剛史 宮田忠洋
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町11002番地1
発行年月日	西暦2014(平成26)年6月30日

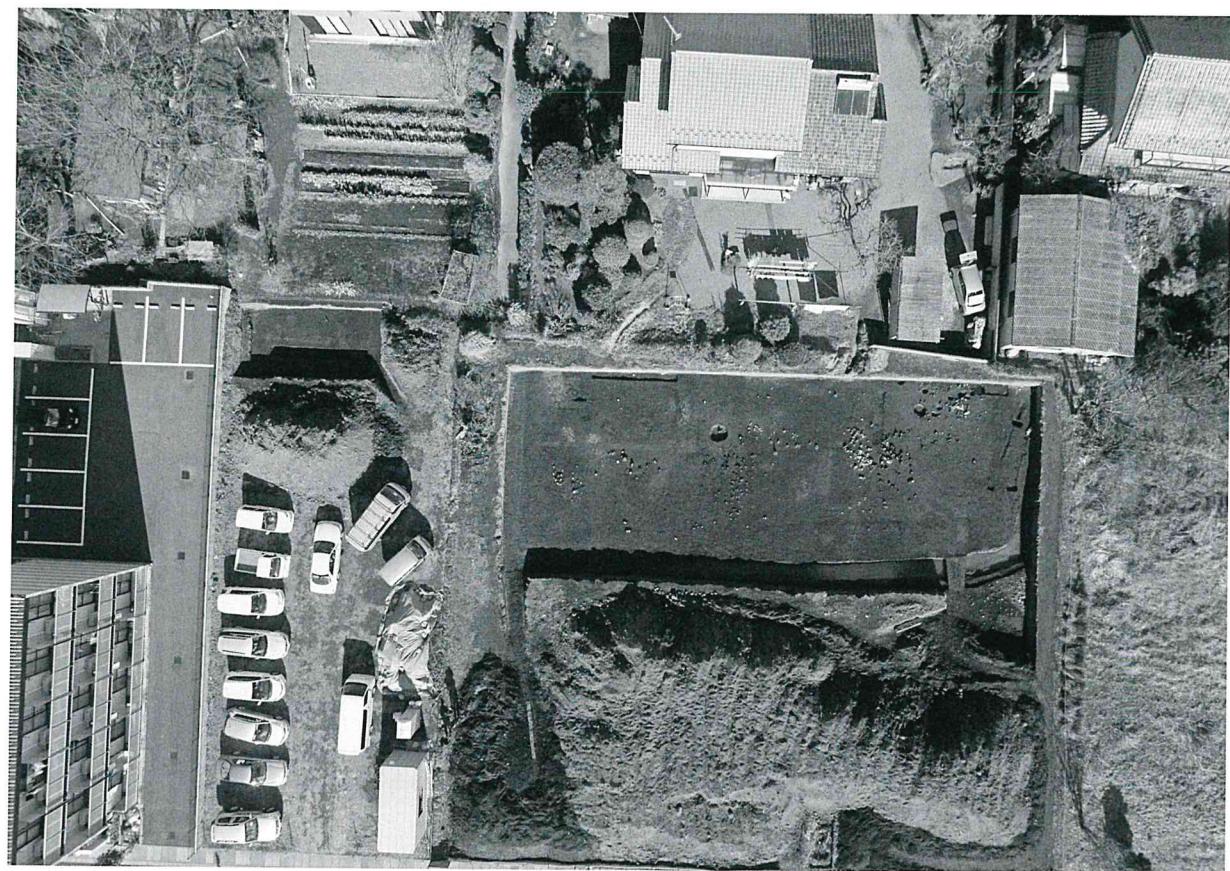
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡調査番号					
上中居岡西遺跡	たかさきし 高崎市 かみなかいおかにし 上中居町 あざおかにし 字岡西 1544-4 ほか 外	10202	579	36°19'05"	139°01'54"	20131106 ～ 20131227	1,067 m ²	店舗建設に伴う 緊急発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居岡西遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 中世 近世	土坑4基 集石遺構4基 ピット10基 埋甕1基 縄文時代遺物包含層 溝跡8条 土坑1基 ピット1基 用水路1条 溝(堀)跡2条 土坑(井戸跡)1基 ピット2基	縄文土器(深鉢、浅鉢、注口土器) 石器(打製石斧、剥片、敲石、磨石) 土製品(耳飾) 弥生土器(壺) 土師器(甕、高坏) 須恵器(高坏) 石製品(砥石) 軟質陶器(甕) 土師質土器(焙烙)	勝坂式、加曾利E式、称名寺式、三十稻場式、堀之内式 弥生後期 古墳時代前期～後期 A s - C 降下以降 A s - B 降下以前 A s - A 降下以降

写 真 図 版



遺跡遠景（榛名山を望む） 南東から

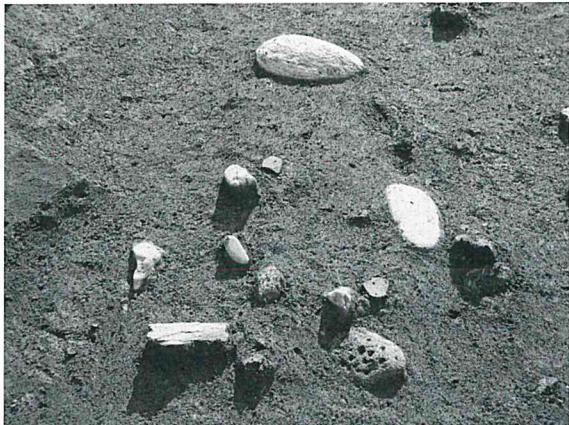


遺跡全景 上が北

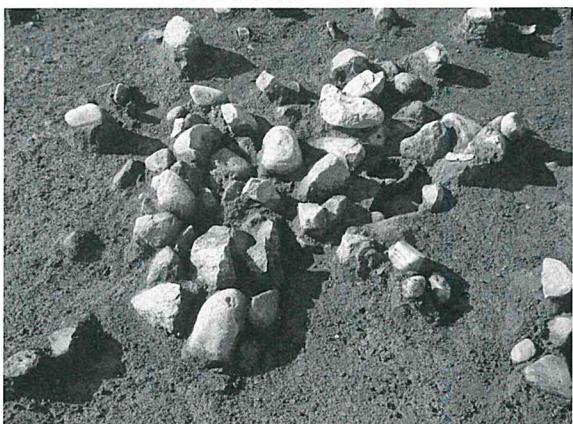
P L. 2



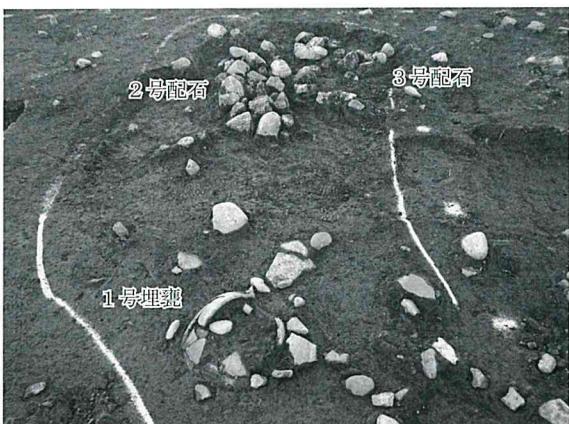
1号配石全景 南東から



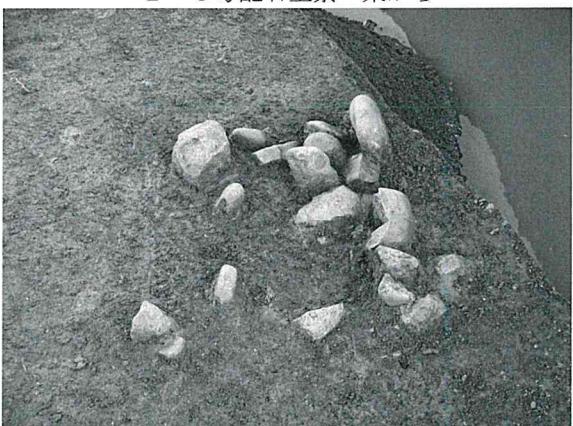
1号配石近景 北西から



2・3号配石全景 東から



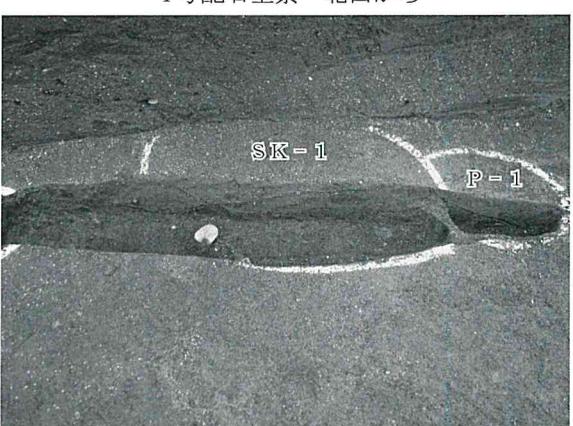
2・3号配石検出状況 東から



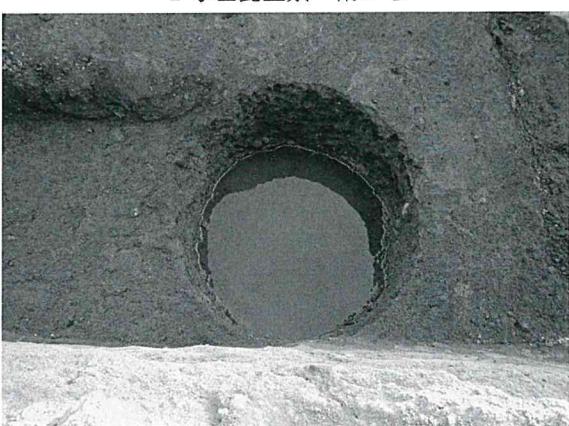
4号配石全景 北西から



1号埋甕全景 南から



SK-1・P-1土層断面 北から



SK-2全景 北から



SK-3全景 北から



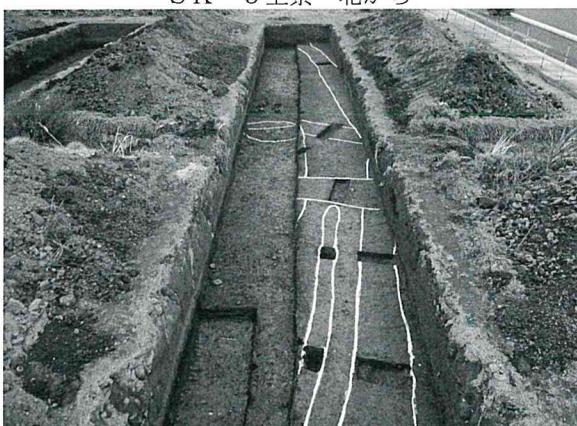
SK-4全景 南西から



SK-5全景 北から



SK-6全景 北から



SD-1~6確認状況 (1号トレンチ) 西から



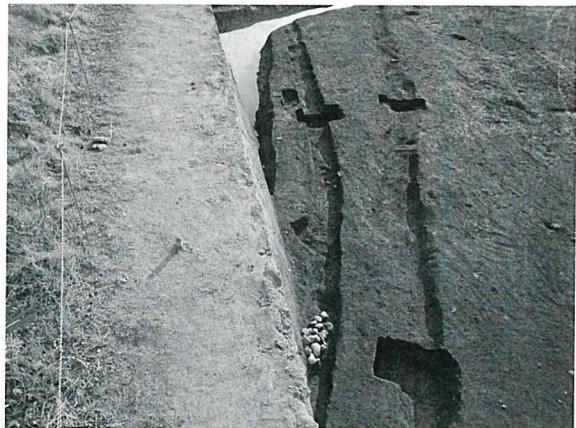
SD-3・4・7確認状況 (2号トレンチ) 西から



SD-7全景 北東から



SD-8土層断面 東から



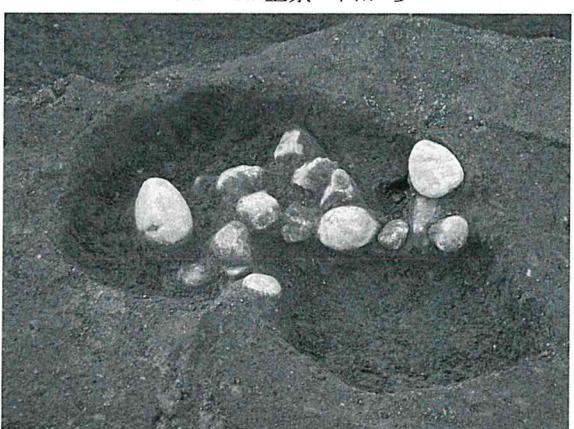
SD-9全景 北から



SD-11全景 西から



P-2・3検出状況 北から



P-2全景 東から



P-3全景 東から



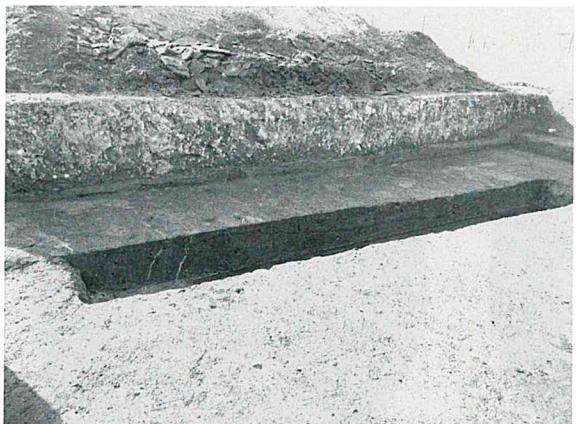
P-4～13検出状況 北東から



地震痕（噴砂）確認状況 東から



地震痕（噴砂）確認状況 南東から



地震痕（噴砂）土層断面 北東から



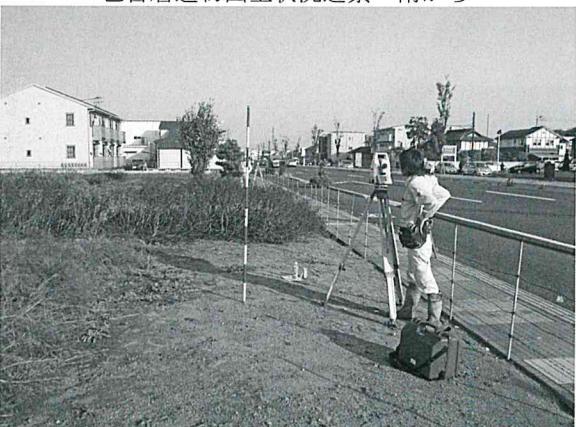
包含層遺物出土状況 東から



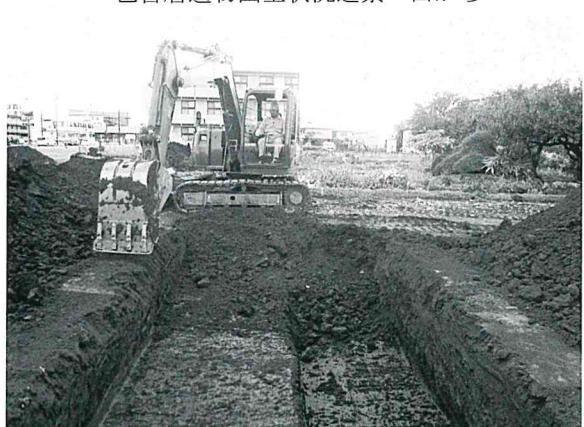
包含層遺物出土状況近景 南から



包含層遺物出土状況近景 西から



基準点設置状況 西から



表土除去状況 東から



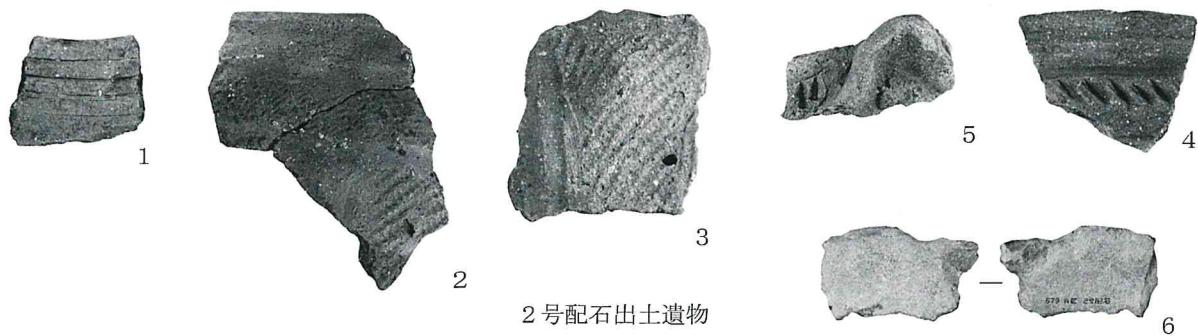
空撮状況 南東から



調査状況 東から



1号配石出土遗物



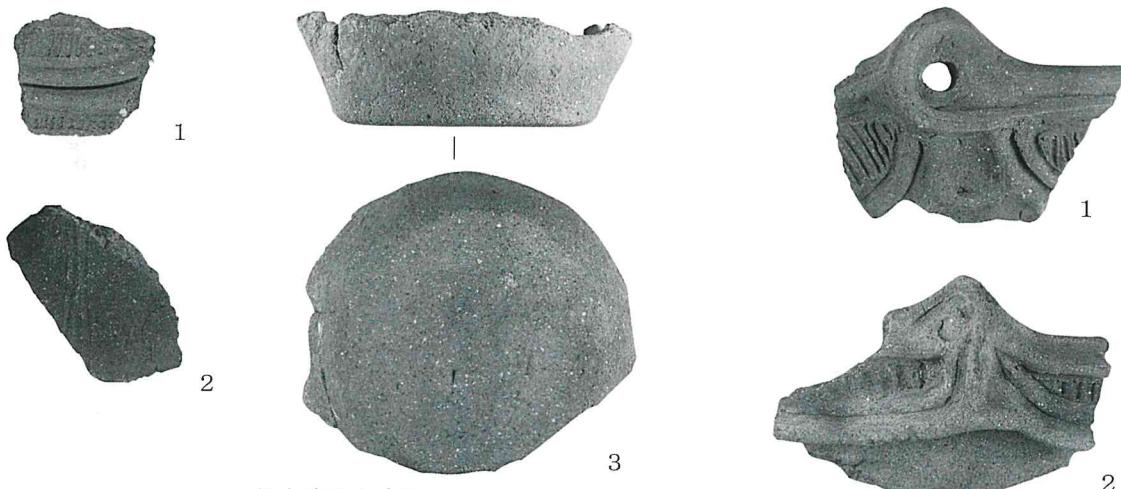
2号配石出土遗物



3号配石出土遗物



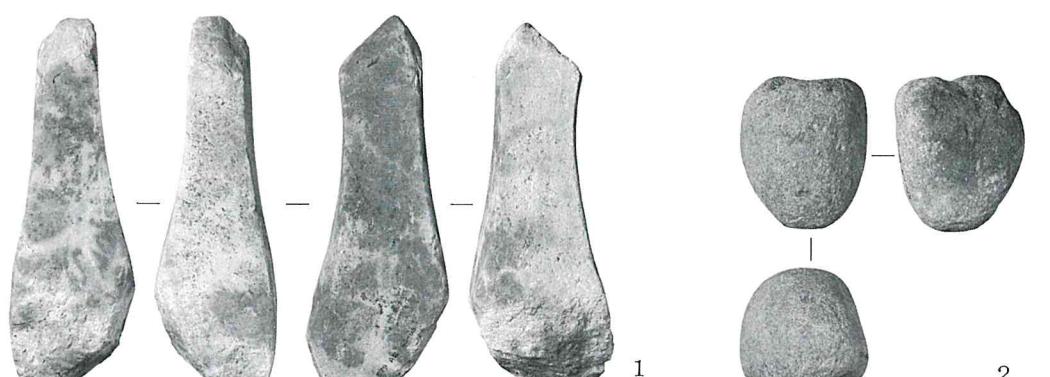
1 1号埋甕出土遗物



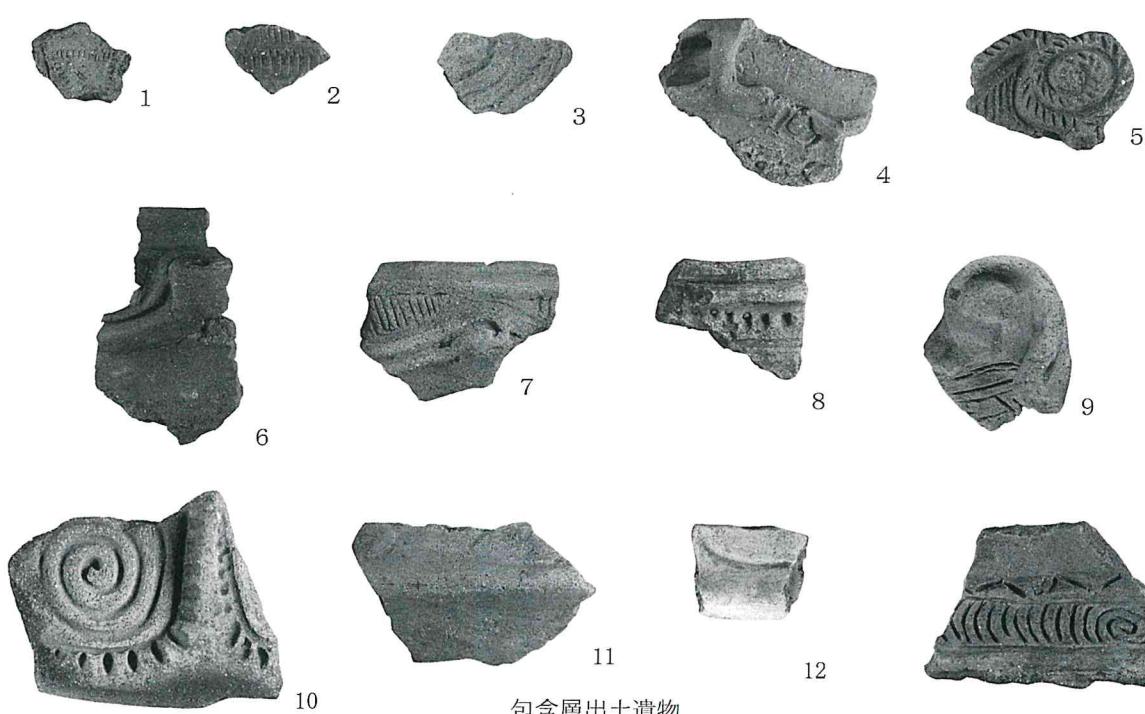
3号土坑出土遺物



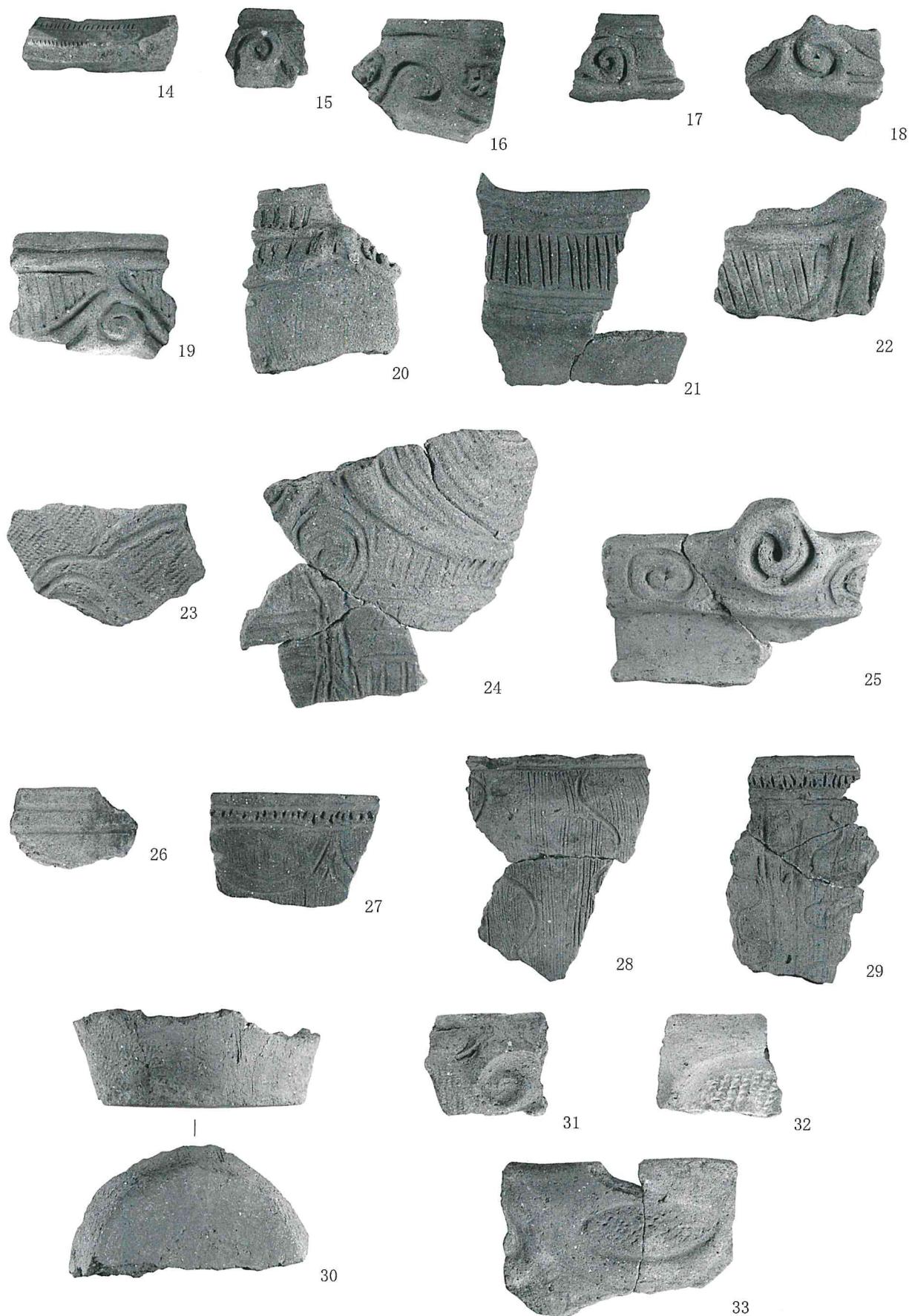
5号土坑出土遺物



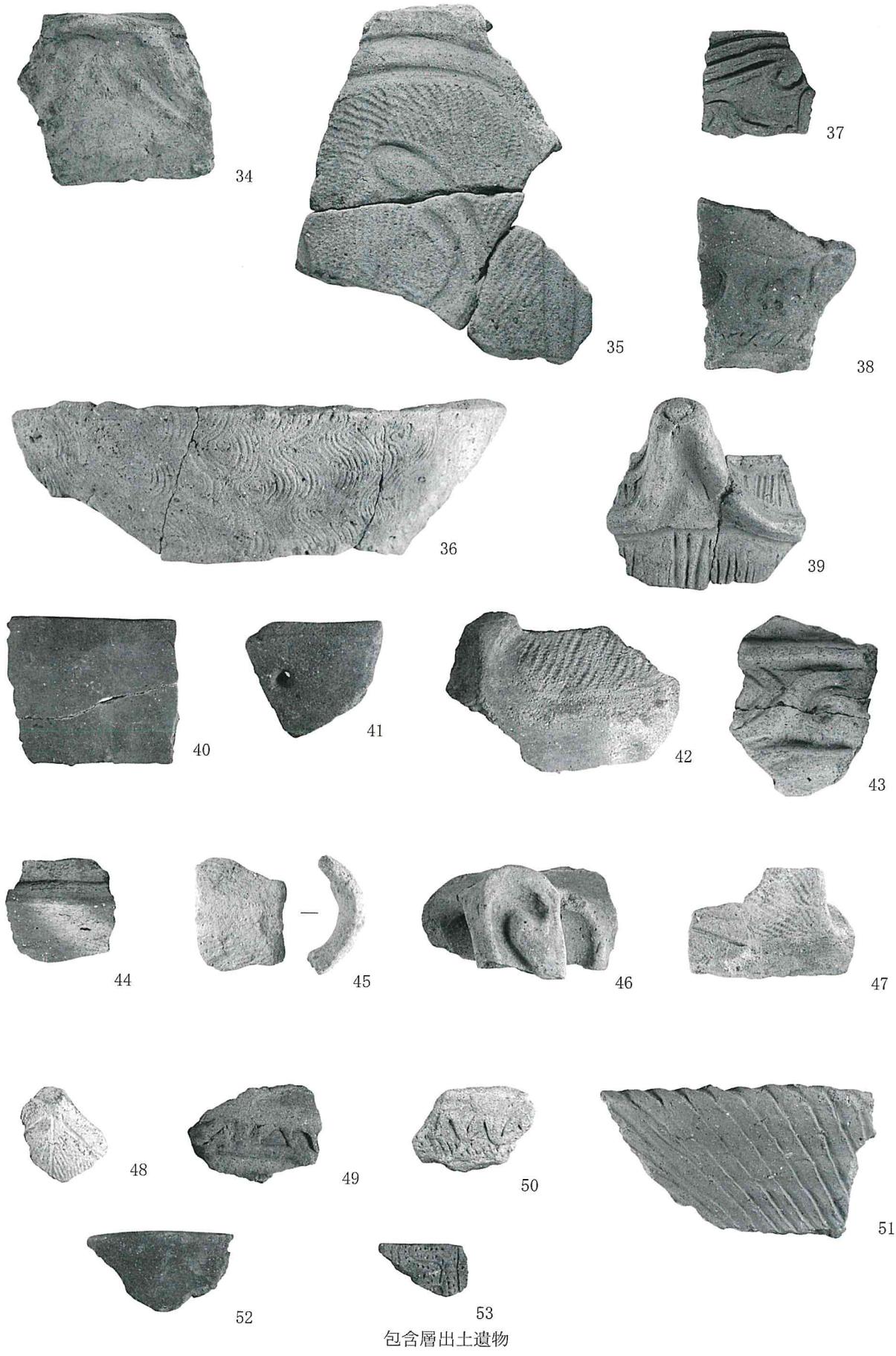
8号溝出土遺物



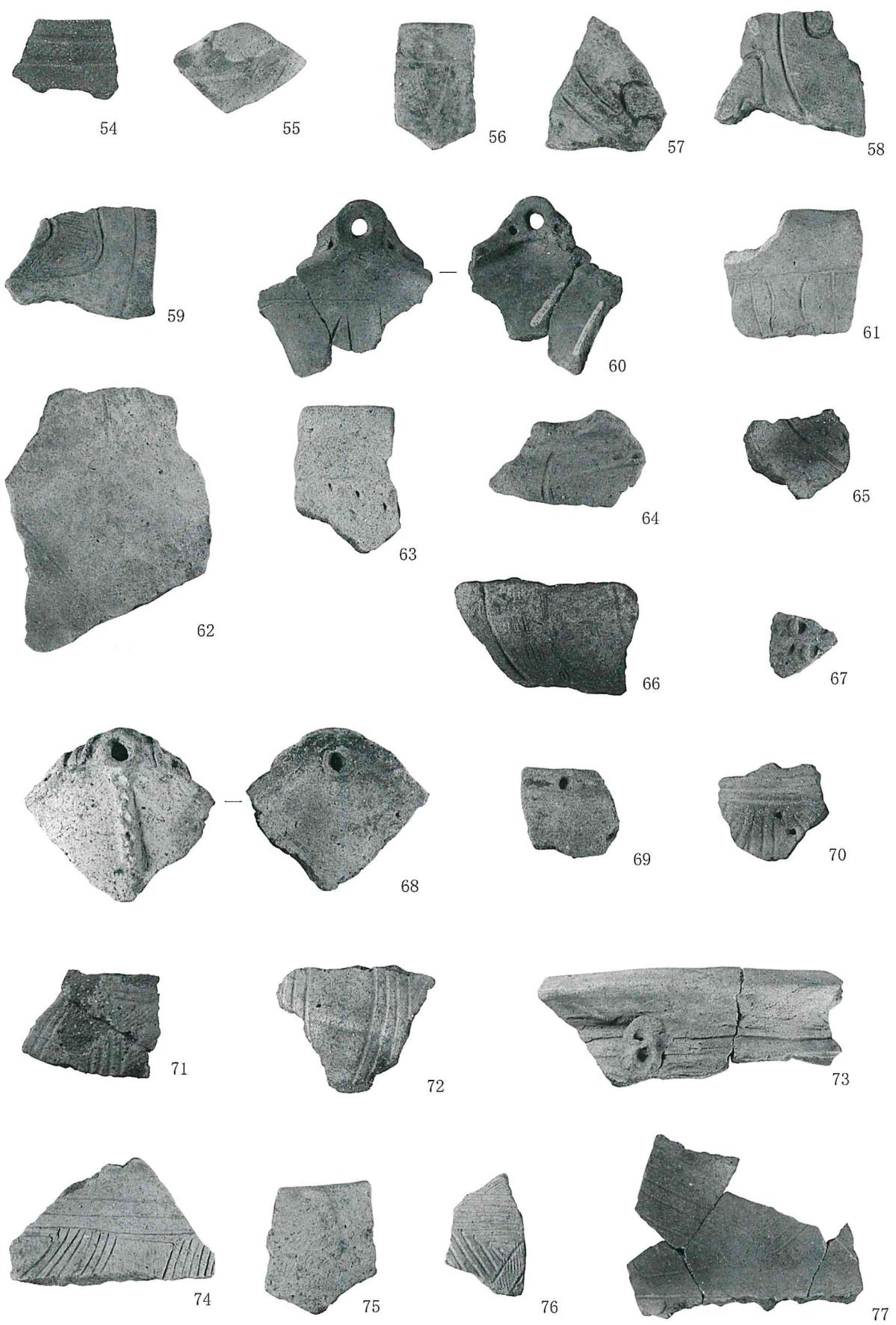
包含層出土遺物



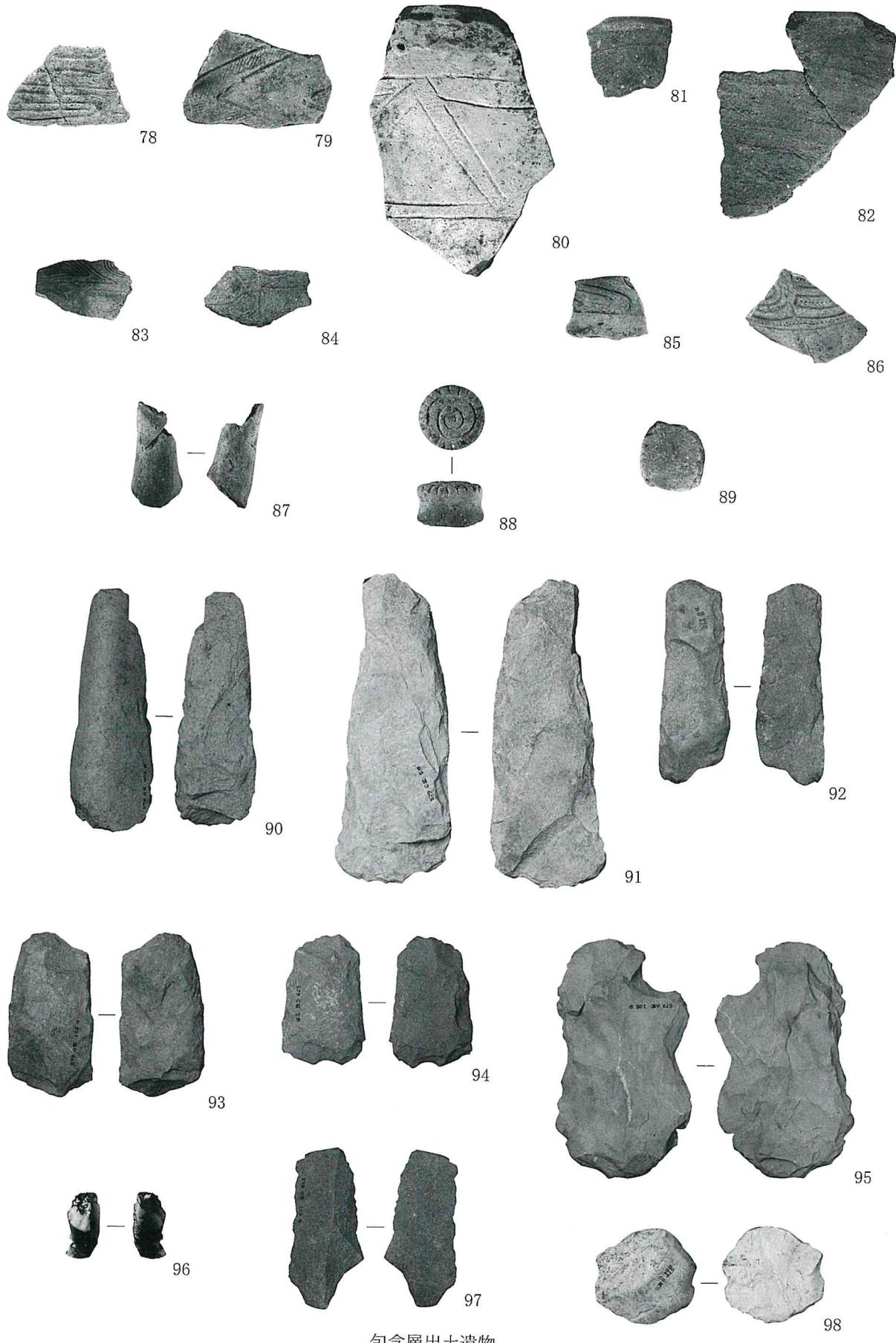
包含層出土遺物



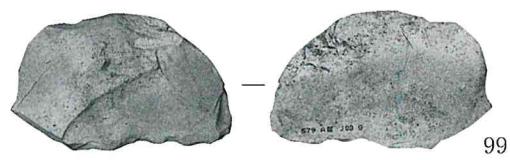
包含層出土遺物



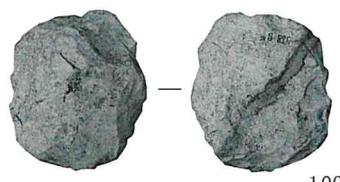
包含層出土遺物



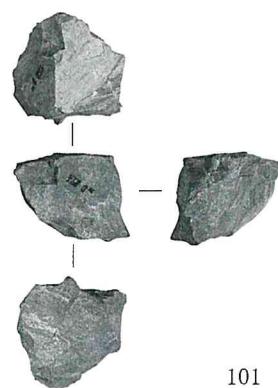
包含層出土遺物



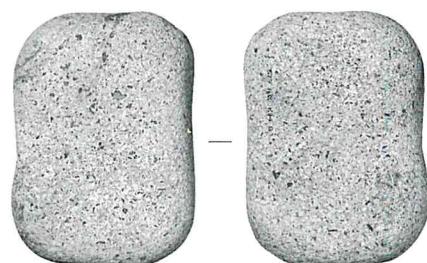
99



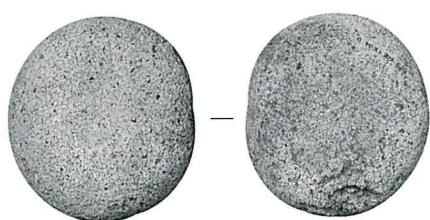
100



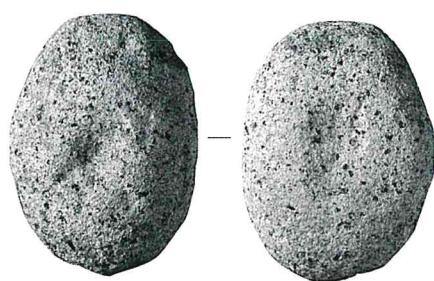
101



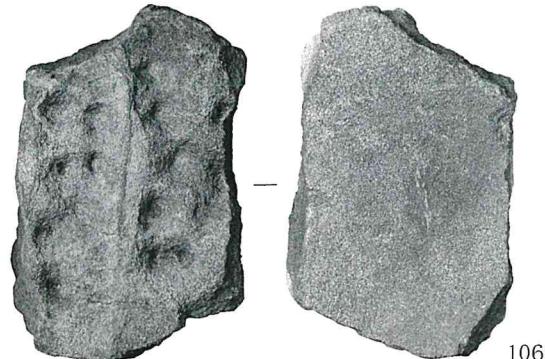
102



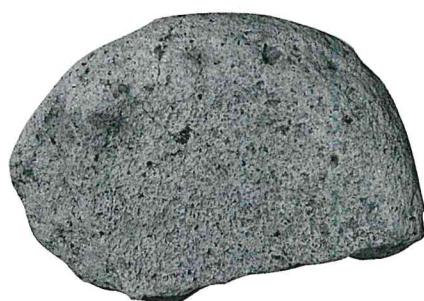
103



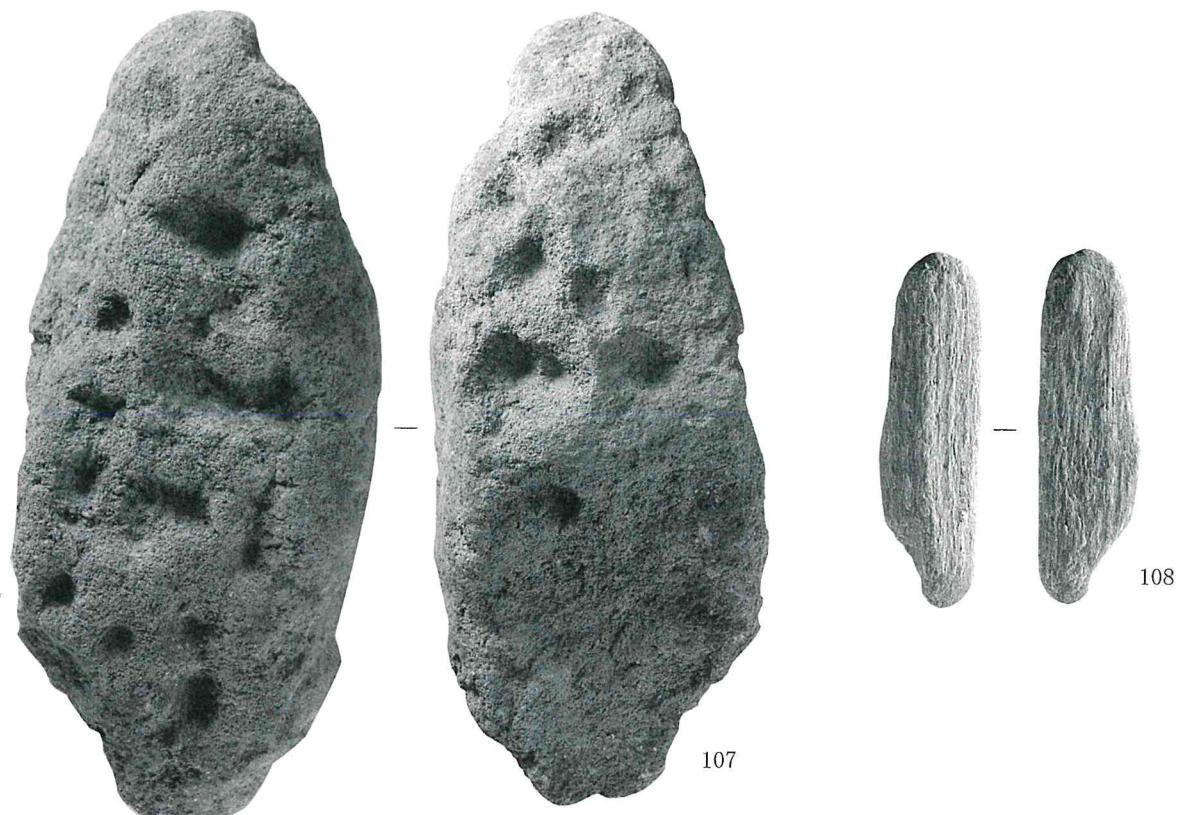
104



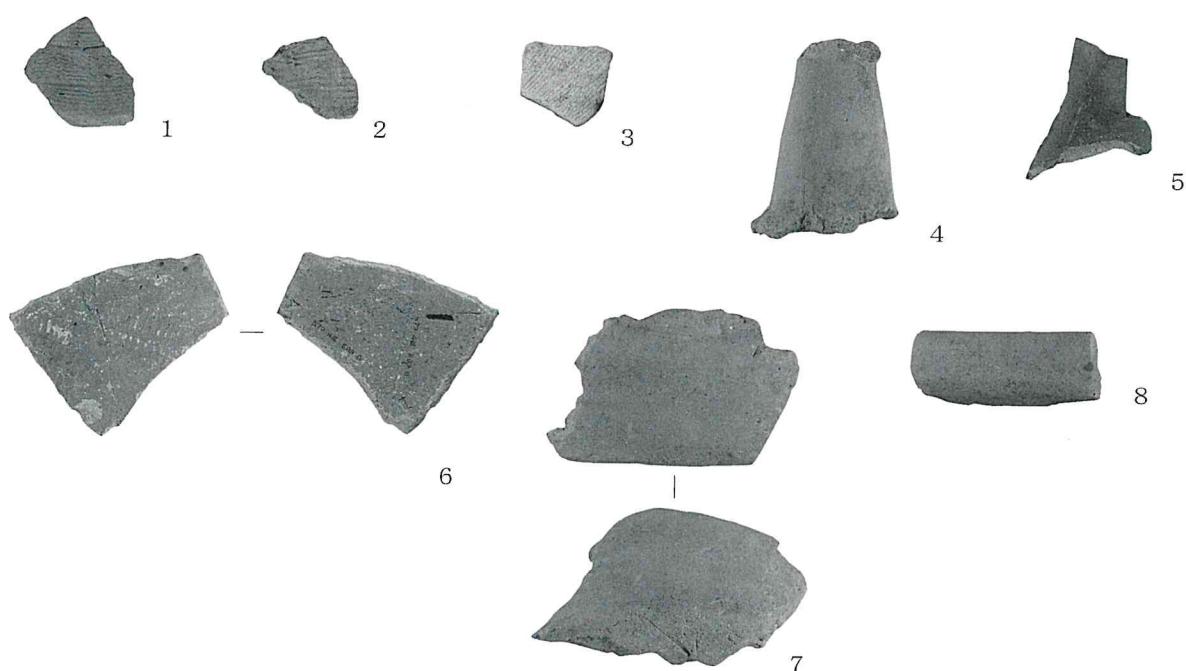
106



105



包含層出土遺物



遺構外出土遺物

高崎市文化財調査報告書第 332 集

上中居岡西遺跡 3

－ 店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 －

平成 26 年 6 月 14 日印刷

平成 26 年 6 月 30 日発行

編 集／有限会社毛野考古学研究所

発 行／有限会社毛野考古学研究所

印 刷／朝日印刷工業株式会社
